

三育学院大学年報
2023 年度
(No.6)



三育学院大学
Saniku Gakuin College

年報 2023 年度 (No.6) 目次

巻頭言	1
運営組織	2
2023（令和5）年度看護学部学年暦	3
2023（令和5）年度看護学部専任教員一覧	4
2023（令和5）年度看護学研究科学事暦	5
2023（令和5）年度看護学研究科専任教員一覧	6
委員会活動	7
人試広報委員会	8
教務委員会	15
実習ワーキンググループ(WG)	18
学生委員会	22
研究推進委員会	25
研究倫理審査委員会	32
保健師課程選択者選考委員会	36
FD委員会	39
国家試験対策委員会	43
自己点検評価委員会	48
ICT委員会	50
労作教育委員会	52
宗教教育委員会	54
図書委員会	57
学修委員会	58
地域共創委員会	60
衛生委員会	66
保健委員会	68
IR委員会	73
ハラスメント防止委員会	75
防災委員会（危機管理）	76
SD委員会	77
教学委員会（大学院看護学研究科）	80

内部質保証委員会	84
教育活動	86
教養教育・専門基礎領域	87
基礎看護学領域	90
小児看護学領域	92
女性看護学領域	94
成人・老年看護学領域	95
精神看護学領域	98
地域看護学・公衆衛生看護学領域	99
研究・社会活動	102
教養教育・専門基礎領域	103
基礎看護学領域	105
小児看護学領域	106
女性看護学領域	108
成人・老年看護学領域	110
精神看護学領域	111
地域看護学・公衆衛生看護学領域	112
資料	113
2020年度以降入学者看護師課程カリキュラム	114
2020年度以降入学者保健師課程カリキュラム	116
2017年度以降入学者看護師課程カリキュラム	118
2017年度以降入学者保健師課程カリキュラム	121
2023年度開講科目一覧(1年次)	124
2023年度開講科目一覧(2年次)	126
2023年度開講科目一覧(3年次)	128
2023年度開講科目一覧(4年次)	130
2022年度大学院看護学研究科看護学専攻 修士課程カリキュラム	131
専門領域別 研究指導教授・研究テーマ一覧	132
あとがき	133

巻頭言

この度、2023年度を通じて実施した委員会活動、教育活動、研究、社会貢献など、様々な活動の集大成である年報を発行できたことを心から感謝致します。

2023年5月には、新型コロナウイルスが5類に分類され、コロナ禍で制限されていた教育や活動が少しずつ再開されました。特に米国における国際看護実習も再開し、2年生と4年生が参加し、素晴らしい体験をすることができました。

コロナ禍においては、様々な困難がありましたが、看護教育の質を落とさない努力により、2020年に入学した学生たちは4年間の学びを終え、無事に43名が卒業することができました。さらに看護師国家試験の合格率は95.2%、保健師国家試験は100%と、全国平均を上回る結果を残すことができました。これは、学生の努力と、情熱を持って支援する教職員の融合が良い成果に結びついたと考えています。

本学は、2025年度に機関別認証評価を受審する予定です。その準備のために2023年度は、内部質保証委員会、FD委員会、教務委員会が連携し、教育の質保証に向けた学修成果の可視化の必要性の理解を深めるFD・SD研修を企画しました。特にFD研修では、カリキュラム全体の学修成果可視化のために、グループワークの中でカリキュラムマップやDPルーブリックの下位項目の作成、検証作業を3回に分けて実施することができ、これは大きな成果でした。

2023年度は、2021年度～2022年度の自己点検評価報告書を大学ホームページに初めて公表することができました。公表に向けて、何度も修正作業を行ってくださった自己点検評価委員会、内部質保証委員会、IR委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

次年度も、引き続き教職員が協力して教育活動の質向上への取り組み、学生一人ひとりが自分自身の能力と可能性を最大限に引き出す支援ができるよう目指していきたいと思います。

最後に、年報発行チームリーダーの鈴木美和委員、研究推進委員会の廣瀬幸美委員長、年報をまとめた教職員の皆さまに感謝致します。

学部長・研究科長 平野 美理香

2023（令和5）年度 看護学部学年歴

入学式	4月3日（月）
オリエンテーション週	4月2日（日）～4月5日（水）
履修登録	4月5日（水）
前期授業開始	4月6日（金）
前期履修登録変更日	4月19日（水）～20日（木）
バイブルウィーク（大多喜）	5月15日（月）～19日（金）
バイブルウィーク（東京）	5月22日（月）～26日（金）
宣誓式	9月1日（金）
前期試験週	7月24日（月）～7月28日（金）
夏期休業	8月1日（火）～9月22日（金） N1
	7月31日（月）～10月1日（日） N2
	7月30日（日）～8月27日（日） N3
後期授業開始	10月2日（月）
後期履修登録変更日	10月18日（水）～10月19日（木）
バイブルウィーク（大多喜・東京）	11月6日（月）～11月10日（金）
冬期休業	12月22日（金）～1月10日（水） N1, N2, N4
	12月24日（日）～1月14日（日） N3
学生バイブルウィーク	1月18日（木）
後期試験週	2月5日（月）～2月9日（金）
卒業礼拝	3月2日（土）
卒業式	3月3日（日）
春期休業	3月4日（月）～3月31日（日）

2023（令和5）年度 看護学部専任教員一覧

学 長 杉 正純
 学 部 長 平野美理香
 学部長補佐 浦橋久美子 教授（大多喜キャンパス）
 後藤佳子 教授（東京校舎）

教養教育・ 専門基礎教育	教授	篠原清夫
	教授	山本理
	講師	新妻規恵
	講師	サムエルコランテン
基礎看護学	教授	後藤佳子
	准教授	山口道子
	講師	遠田きよみ
	講師	玉那覇文美
小児看護学	教授	廣瀬幸美
	特任准教授	松崎敦子
	助教	清野星二
女性看護学	教授	廣瀬幸美
	准教授	北田ひろ代
	助手	近藤勇美
成人老年看護学	教授	平野美理香
	特任教授	市川光代
	特任教授	鈴木純恵
	准教授	今野玲子
	講師	近藤かおり
	講師	素村知佳
	助手	上野雪絵
精神看護学	准教授	松本浩幸
地域看護学 公衆衛生看護学	教授	浦橋久美子
	教授	鈴木美和
	特任教授	佐藤壽子
	助教	手塚早苗
	助教	堀江久樹
	助手	朝見優子

学年アドバイザー

1年	山本理（長）、遠田きよみ、新妻規恵
2年	山口道子（長）、松本浩幸、玉那覇文美 鈴木美和、上野雪絵
3年	市川光代（長）近藤かおり、近藤勇美
4年	清野星二、卒業研究指導教員

2023（令和5）年度 看護学研究科学事暦

入学式	4月3日（月）
1年次オリエンテーション	4月3日（月）
1年次前学期授業開始	4月6日（木）
夏期休業	8月1日（月）～9月30日（金）
1年次後学期授業開始	10月4日（水）
第1回研究計画書 （テーマと方向性）	10月5日（木）
冬期休業	12月23日（土）～1月4日（木）
第2回研究計画発表会	2月8日（木）
2年次前学期授業開始	4月6日（木）
2年次オリエンテーション	4月6日（木）
倫理審査申請書提出	4月～承認まで
修士論文中間発表会	6月1日（木）
夏期休業	8月1日（月）～9月30日（金）
2年次後学期授業開始	10月5日（木）
修士論文提出（審査用）	12月19日（火）
冬期休業	12月23日（土）～1月4日（木）
修士論文審査	1月上旬
修士論文修正版提出	1月29日（月）
修士論文発表会	2月15日（木）
学位記授与	3月8日（金）
修士論文（保存用）提出	3月25日（月）

2023（令和5）年度 看護学研究科専任教員一覧

研究科長 平野美理香
 研究科長補佐 廣瀬幸美
 教学委員長 廣瀬幸美

スピリチュアルケア論	准教授	山口道子
看護教育学	教授	鈴木美和
看護技術学	教授	後藤佳子
成育看護学	教授	廣瀬幸美
	特任准教授	松崎敦子
	准教授	北田ひろ代
成人看護学	准教授	今野玲子
高齢者看護学	教授	平野美理香
	特任教授	市川光代
地域看護学	教授	齋藤泰子
	准教授	松本浩幸
キリスト教人間学	特任教授	東出克己
保健医療社会学	教授	篠原清夫

委員会活動

入試広報委員会

1. 構成員

委員長：平野美理香

委員：山口伊作（副委員長）、
杉正純、浦橋久美子、後藤佳子、
篠原清夫、鈴木美和、清野星二、
福島正夫、諸見里優子、池田直子

書記：諸見里優子

役割分担

役割	氏名
委員長	平野美理香
教員委員	杉正純、浦橋久美子、 後藤佳子、篠原清夫、 鈴木美和、清野星二
職員委員	山口伊作、福島正夫、 諸見里優子、池田直子

2. 所掌事項

- 1) 学生募集に関する事項
- 2) 入学試験に関する事項
- 3) 広報に関する事項
- 4) 奨学金、学生納付金優待制度等に関する事項
- 5) その他、入試広報に関し、委員長が必要と認める事項

3. 事業計画

- 1) 委員会開催
 - ①月1回の定例会議を行う。
 - ②必要に応じて臨時の会議を行う。
- 2) 入学者選抜試験に関する計画
 - ①入試広報課業務担当は入試業務の企画を担当し、運営は全教職員の協力を得て行う。
 - ②業務は正確かつ効率的に行う。業務内容には、試験監督、面接員、交通宿泊の確保、試験問題や解答用紙の持ち運び、合否判定会議

の招集、発表など入試監督等のマニュアル整備などを含む。

- ③入試監督等のマニュアルを整備する。前年度合否発表処理のインシデント発生を踏まえ、合否判定後の実務処理を含むマニュアルを整備し、実行する。
 - ④入試問題は委員長および入試広報課担当者により作問者の選定と依頼、および試験問題の管理を行う。
- 3) 学生募集に関する広報活動
- ①前年度の結果（2023年度入学生数）を踏まえ、以下を優先的重点策とする。
 - ✓ 年間800校の高校訪問
 - ✓ 系列校へのアプローチ
 - ✓ キリスト教学校、実績校など重点校の設定
 - ✓ 全学体制での高校訪問、広報活動を行う
 - ②広報ツールを計画し、作成と配布を行う。
（紙媒体印刷物、Web、SNSなど）
 - ③OC、看護学体験セミナー、などのプログラムを企画実行する。
 - ④高校ごとの病院見学説明会、出張講義・説明会などを実施する。
 - ⑤上記活動から2024年度50名の入学者数確保を目指す。

4. 活動の実際

- 1) 委員会活動
表1に開催日および議題をまとめる。
- 2) 入学者選抜試験
表2に実施状況をまとめる。
- 3) 学生募集活動
表3に活動の概要、表4に学生募集関連イベント実施状況をまとめる。

表1 入試広報委員会開催日と議題

開催日	議 題
第1回 2023年4月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年度入試広報活動基本方針・計画 2. 推薦入試選考方法の変更 3. 2024年度パンフレット 4. OC及び入試業務担当方針 5. 3月学生募集活動報告
第2回 2023年5月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推薦入試選考方法の変更 2. 広島三育学院カレッジデー 3. 教職員対象高校訪問説明会 4. 神戸アドベンチスト病院との連携 5. 指定校通知発送予定 6. パンフレット作成進捗 7. 4月学生募集活動報告
第3回 2023年6月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員の追加 2. 入試業務マニュアル 3. 広島三育学院カレッジデー 4. 大多喜キャンパスオープンキャンパス 5. 学校訪問説明会 6. 5月学生募集活動報告
第4回 2023年7月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入試業務マニュアル 2. 広島三育学院カレッジデープログラム 3. 動画作成 4. 6月学生募集活動報告
第5回 2023年9月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. Do For Others 奨学金 2. 2025年度パンフレット作成 3. 追加イベント担当者 4. 入学前課題の実施 5. 入試業務 6. 8月学生募集活動報告
第6回 2023年10月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度入試広報活動年間予定 2. 総合型選抜試験イベント参加加点 3. パンフレット作成業者 4. 9月学生募集活動報告
第7回 2023年11月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度入試広報活動年間予定 2. 広島三育学院への動画作成協力依頼 3. 受験予定者情報 4. 系列外病院奨学金

	5. 10月学生募集活動報告
第8回 2023年12月5日	1. Do For Others 奨学金規定 2. 短期（次回入試）・中期募集活動施策 3. 11月学生募集活動報告
第9回 2024年1月9日	1. Do For Others 奨学金規定 2. 2025入試概要 3. 進学指導協議会候補日 4. 入試状況・12月学生募集活動報告
第10回（臨時） 2024年1月10日	1. Do For Others 奨学金規定
第11回（臨時） 2024年1月17日	1. 一般選抜試験緊急措置（検定料等免除）
第12回 2024年2月6日	1. 2025年度入試要項 2. 追加入試会場 3. 新規業者契約 4. 1月学生募集活動報告
第13回 2024年3月5日	1. 2025年度入試要項 2. 2023年度活動報告と振返り 3. 通学制検討 4. 進学協議会日程 5. 入学前教育取組状況 6. 2月学生募集活動報告

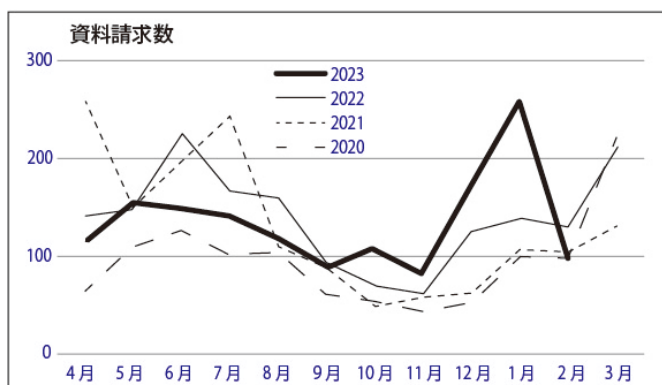
表2 入学者選抜試験実施状況

実施日	入試区分	出願者	受験者	合格者	入学者
10/1	総合型選抜試験Ⅰ期	5	5	5	5
10/29	総合型選抜試験Ⅱ期	0	0	0	0
11/26	総合型選抜試験Ⅲ期	2	2	2	2
12/17	総合型選抜試験Ⅳ期	1	1	1	1
11/26	公募制推薦試験Ⅰ期	3	3	3	3
12/17	公募制推薦試験Ⅱ期	3	3	3	3
11/26	指定校推薦試験	7	7	7	7
1/28	一般選抜試験Ⅰ期	4	4	4	1
2/25	一般選抜試験Ⅱ期	1	1	1	0
3/17	一般選抜試験Ⅲ期	4	2	2	1
合 計		30	28	28	23

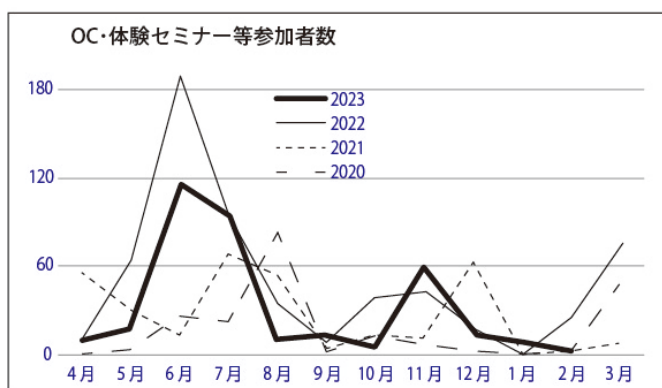
表3 学生募集活動サマリー

学生募集活動サマリー【2024.03.31】

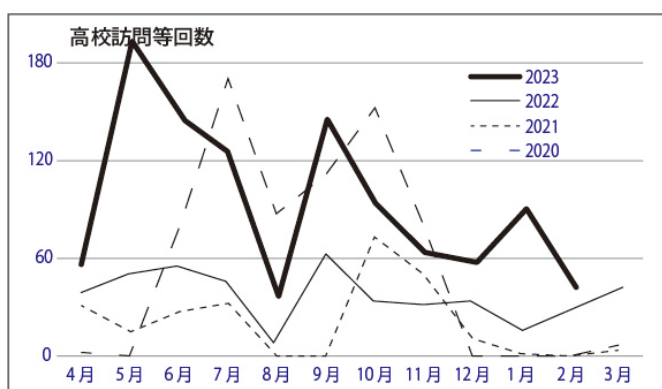
2020年度～2023年度実績



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4月	64	257	140	116
5月	110	149	148	155
6月	126	197	225	148
7月	100	244	166	140
8月	102	108	159	118
9月	60	87	91	88
10月	53	49	70	108
11月	42	57	61	83
12月	51	61	125	174
1月	98	107	138	256
2月	97	104	130	99
3月	220	131	211	
合計	1,123	1,551	1,664	1,485



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4月	0	57	10	11
5月	3	30	64	19
6月	26	13	189	117
7月	22	69	95	94
8月	84	54	35	10
9月	4	3	11	14
10月	13	13	39	6
11月	7	11	42	60
12月	1	63	18	16
1月	0	2	0	9
2月	1	1	24	0
3月	49	7	75	
合計	210	323	602	356



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4月	1	31	39	57
5月	0	15	50	196
6月	79	27	55	148
7月	170	32	46	126
8月	87	0	8	37
9月	111	0	62	145
10月	152	73	33	95
11月	81	50	31	62
12月	0	10	33	59
1月	0	1	17	90
2月	0	0	29	42
3月	6	3	42	
合計	687	242	445	1,057

	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
	出願者数	合格者数	入学者数	出願者数	合格者数	入学者数	出願者数	合格者数	入学者数	出願者数	合格者数	入学者数
指定校推薦(系列校)	4	4	4	2	2	2	3	3	3	0	0	0
指定校推薦	12	12	12	11	11	11	8	8	8	7	7	7
公募制推薦	6	5	4	4	4	4	2	2	2	6	6	6
総合型/AO推薦	22	17	16	12	8	8	13	12	12	8	8	8
一般Ⅰ期	13	10	3	12	10	4	12	10	4	4	4	1
一般Ⅱ期	7	4	2	3	3	2	2	0	0	1	1	0
一般Ⅲ期	2	2	0	0	0	0				2	2	1
一般Ⅳ期	4	2	2	0	0	0						
一般Ⅴ期				1	1	0						
社会人												
その他												
合計	70	56	43	45	39	31	40	35	29	28	28	23

表4 学生募集関連イベントの実施状況

日程	内 容	参加者数	高3又は 既卒生	出願者数	出願率
5/28	TAH 看護学体験セミナー/東京 OC	13	9	4 (指2, 総2)	44.4%
6/11	KAH 看護学体験セミナー	3	3	1 (公1)	33.3%
6/11	AMC 看護学体験セミナー	67	51	2 (公1, 総1)	3.9%
6/18	TAH 看護学体験セミナー/東京 OC	7	5	1 (総1)	20.0%
6/25	大多喜 OC	2	1	1 (指1)	100.0%
7/9	TAH 看護学体験セミナー/東京 OC	31	23	1 (公1)	4.3%
7/16	大多喜 OC	7	2	1 (総1)	50.0%
7/23	AMC 看護学体験セミナー	28	19	1 (指1)	5.3%
7/23	KAH 看護学体験セミナー	4	3	0	0.0%
7/26	広島三育学院体験	3	3	2 (公1, 総1)	66.7%
8/6	大多喜 OC	6	6	4 (指1, 総3)	66.7%
8/20	大多喜 OC	4	1	1 (指1)	100.0%
9/17	東京 OC	16	5	3 (指2, 総1)	60.0%
10/5	鴨川令徳高等学校が イブンス	4	2	0	0.0%
10/22	東京 OC	6	3	1 (公1)	33.3%
11/15	新渡戸文化高等学校が イブンス	4	2	0	0.0%
11/17	日本大学第二高等学校が イブンス	45	0	0	0.0%
12/26	玉川聖学院高等学校が イブンス	8	0	0	0.0%
1/26	玉川聖学院高等学校が イブンス	8	8	0	0.0%
3/24	大多喜 OC	4	4	※2025 入試対象者	
3/24	AMC 看護学体験セミナー	41	41	※2025 入試対象者	
3/28	KAH 看護学体験セミナー	0	0	※2025 入試対象者	
随時	いつでも見学	15	13	9 (指1, 公3, 総4, 一1)	69.2%
随時	業者主催説明会 等	75	12	0	0.0%
合 計		356	171	32	18.7%

※参加者数の内、2024 入試対象者の数（高校3年生および既卒生）

5. 評価と課題

表5に年度当初目標および期中に計画実施した施策に対する状況をまとめる。

表5 目標・計画に対する状況・効果等

項 目	状況	備考（理由または課題等）
数値目標（志願者数・合格者数）	×	今年度入試は一般的に現指導要領最後の入試となり全体の出願増、年内入試傾向のさらなる増加が言われていたが、模試業者や他の募集支援業者の分析によると看護系

		志望者数の減少が言われ、他でも大きく出願数を減少させた大学の報告を聞く。しかし開学以降最低の入学者数の昨年度入試を下回る結果は重く次年度へむけ具体策の再構築が必要である。				
数値目標（高校訪問）	○	年間 800 校以上の訪問を目標に掲げ、数の上では達成できた。埼玉県方面など、これまで訪問実績の少ない地域での可能性などを探ることができた。				
重点校設定と対応	△	入学実績のある地方の高校など、コロナ禍中の数年訪問できていない学校が多かったが、キリスト教学校や指定校入学実績のある学校を中心に訪問することができた。課題としては、年内に数回の訪問や電話での繋がりなど、より密度の濃い関係を構築したい。				
系列校アプローチ	△	年度初めには広島三育学院高校からの志望者が 0 名の可能性が報告されていたが、結果 2 名の出願、合格に至ったことは成果と言える。しかし、開学以来初の指定校出願 0 名は今後へ向けた大きな課題である。 2022 年に大多喜で認可された中等教育学校は今後広島三育学院以上の密接な繋がりが期待され、担当コーディネーターを選任したが、感染症の影響からプログラム中止を余儀なくされたこともあり、期待された十分な関わりには至らなかった。				
全学体制での高校訪問、広報活動	×	<p>数年振りの大多喜での OC や他会場体験会、入試担当など、入試課職員以外の教職員、また学生の協力によりプログラムを実施でき、三育らしさのアピールに繋がった面は大いに評価できる。</p> <p>しかし、年度当初に高校訪問への参加協力をお願いし学内セミナーの開催をしたが、入試課職員以外の高校訪問実績は以下にとどまった。</p> <table border="1" data-bbox="726 1541 1433 1832"> <tr> <td>訪問校数</td> <td>64 校（全 1,057 校の内） 6 月 42（東京 21, 千葉 21） 7 月 8（千葉 3, 熊本 5） 8 月 2（秋田 1, 岩手 1） 10 月 12（東京 4, 千葉 8）</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>のべ 12 人（実数 5 人）※学長を含む</td> </tr> </table>	訪問校数	64 校（全 1,057 校の内） 6 月 42（東京 21, 千葉 21） 7 月 8（千葉 3, 熊本 5） 8 月 2（秋田 1, 岩手 1） 10 月 12（東京 4, 千葉 8）	人数	のべ 12 人（実数 5 人）※学長を含む
訪問校数	64 校（全 1,057 校の内） 6 月 42（東京 21, 千葉 21） 7 月 8（千葉 3, 熊本 5） 8 月 2（秋田 1, 岩手 1） 10 月 12（東京 4, 千葉 8）					
人数	のべ 12 人（実数 5 人）※学長を含む					
高校ごとの見学会、説明会	○	東京校舎と大多喜キャンパスで計 5 回の見学会、進路ガイダンスを行った。参加者から出願に結びついていないが、教員引率のもと興味度合いの高い生徒に直接接触できる機会は大切にしたいと考える。				

経済支援策（病院協議会奨学金）	△	給付額引上げの効果は十分にあるとの感触を持っているが、春先からの周知ができれば、さらに効果があったと考える。
経済支援策 （Do For Others 奨学金）	○	病院協議会奨学金と周知開始時期は同じだが、特待生奨学金試験受験対象者の2/3の出願実績は需要があると考ええる。4年間授業料相当額の奨学金を設けている大学は多くあるので、競争力という意味でようやく他に追いついたと言える。
経済支援策（一般選抜選考料免除・早期優待）	×	一般選抜出願数は、年内入試にも増して厳しい結果となった。選考料免除と入学金の早期優待策を打ち出したが成果に表れなかった。一般選抜者に対する優遇措置は他大学でも散見された。
広報ツール（HP、SNS等）	△	公式HPの他にInstagramからの情報発信をしている。HPでは入試情報等を主に周知し、日常の活動等は主にInstagramを用いている。
広報ツール（新人看護師動画）	○	6月の系列高校との情報交換の際、実際の看護師の姿をイメージしにくく、どちらかという生徒たちがネガティブな情報を持ちがち、との声から広島三育学院、東京衛生アドベンチスト病院の協力のもと「新人看護師の1日」動画を作成した。HPでの公開に加え、説明会等での紹介など活用している。再生回数：約1,800回
広報ツール（寮アピール動画）	×	編集中（入試シーズンに入ってしまったことと、素材の追加・再構成が必要）

2023年度は年間800校の高校訪問を第一の目標に掲げ、最終的には1,000校以上の訪問を達成できたことは評価に値するが、出願者数は目標に遠く及ばない結果となった。課題として2点をあげる。

一つは、他看護大学における厳しい状況、また模試業者等の報告等から、看護系への志望動機の低下が想像される。そのような状況下、看護職への関心醸成、根本的な認知度のアップ、ターゲット層の明確化を第一の課題と考える。

もう一点は、受験生の志願時期早期化（年内入試へのシフト）が言われる状況において、結果を出せなかった点をあげる。公募制入試内容を変更した事により、公募制志願者は微増したものの十分とは言えず、特に系列校を含む指定校区分での志願者数に対して対策を講じる必要がある。著しい定員割れ傾向が始まった2021年度入試以降、指定校区分入学者数は激減傾向にあり、まずこの傾向に歯止めをかける対策が急務と考える。

教務委員会

1. 構成員

委員長：今野玲子

委員：浦橋久美子、後藤佳子、鈴木美和、
山本理、北田ひろ代、松本浩幸、
松崎敦子、石渡美由紀、小田朋子、
福島正夫
(平野美理香 ※オブザーバー)

書記：石渡美由紀、小田朋子、北田ひろ代、
松本浩幸

2. 職務

- 1) 教育課程の編成及び実施に関すること
- 2) 授業科目の履修についての連絡調整に関すること
- 3) 単位制に関すること
- 4) 学業成績の評定に関すること
- 5) 卒業認定並びに制度に関すること
- 6) その他教務に関する重要事項

3. 今年度の活動方針

2022年度の課題に取り組み、学生にとって学修しやすい環境整備に努めるとともに、認証評価の課題に取り組むための以下の目標を設定した。

- 1) 教育活動の効果的な展開
 - (1)ディプロマ・ポリシー到達のための学修活動が適切に運用できる
 - (2)ディプロマ・ポリシー到達のための学修支援体制が構築できる
 - (3)教務システムと学生カルテを適切かつ効果的に運用できる
 - (4)カリキュラムの移行を円滑に進めることができる
 - (5)学修環境の改善ができる
- 2) 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立

- (1) 内部質保証委員会と連携し、学修成果（ディプロマ・ポリシーの到達度）を評価するための尺度（測定用具）を作成できる
- (2) 内部質保証委員会の策定したアセスメントポリシーに則り、各学年の学修成果（ディプロマ・ポリシーの到達度）を確認できる
- (3) 教務委員会規定の整備
現状に即した教務委員会規定の改定案を作成できる

4. 活動の実際

2023年度の教務委員会の委員会開催と議題（決議事項）は表1の通りである。その他、教育活動に関する様々な報告、検討がなされた。

- 1) 新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月から季節性インフルエンザなどと同じ「五類」に移行したため、ほぼすべての科目で対面授業が実施できた。実習科目についても、一部の実習病棟や受け持ち患者の感染などによる事象を除き、感染症の影響は最低限であった。影響を受けた学生については、学内実習や補習実習で対応した。
- 2) 合理的配慮の必要な学生の実習履修に対して、実習指導者サポート委員会で情報と配慮事項を共有し、特に問題なく学修活動が行われた。
- 3) 2020年に開始した新カリキュラムの学生が4年生となったが、一部旧カリキュラム該当の学生もあり、対応している。
- 4) 2022年度から、学修の順序性を重視して、必修科目に関しては配置されている年次に取得し、取得できなかった場合は、留年とする制度を開始した。2023年度に初めて、留年者が生じたため、当該学生の学習支援体制について検討している。
- 5) 内部質保証委員会と連携し、学修成果（ディプロマ・ポリシーの到達度）を評価するための尺度（測定用具）を作成し、卒業生に調査を実施した。

- 6) 学生による授業評価を、教育活動の改善につなげるために、まずは学生の意見を十分に収集する必要があった。教務課と協力して、回収率を上げるための工夫を実施した。
- 7) 学業上の不正行為とそれに準ずると考えられる行為があり対応した。
- 8) 文部科学省から7月に「大学・高専における生成AIの教学面の取り扱いについて」連絡があり、本学の方針について検討を続けている。
- 9) 教務委員会規定の整備に関しては、学部長他で、規定の整備・確認を行っているため、教務委員会では、検討しなかった。

5. 評価

1) 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立

内部質保証委員会と連携し、ディプロマ・ポリシー(DP)到達度を評価するための尺度の作成に至った。本年度は卒業生のみ調査を行ったが、次年度より、各学年の学期初めのオリエンテーションや学習の振り返りの時間の中で、活用を予定している。学生自身が何を目指して、どのような能力を身に付けるために学修するのかを意識づけていく必要がある。

また、FDにおいて、カリキュラムマップや、DP・コンピテンシー・卒業時の到達目標について、教員全体で検討する機会があり、教員もDPとカリキュラム、そして自身の担当する科目との関連について意識することができたと思う。3月のFDで卒業生のDP到達度アンケートの調査結果を踏まえて、教育の質改善に向けて、さらに検討する機会を持つ予定である。

2) 教育活動の効果的な展開

ディプロマ・ポリシー到達のための学修支援体制については、教員がDPを意識することで、目的意識を持ちつつカリキュラムの各部分を担っていけるように今後さらに促していく。

教務システムと学生カルテについては、段階的

に運用が始まっているが、十分活用できているとは言えない。次年度、教務課と協力して、さらに効果的な運用を促進していく。次年度から新しい教学支援システムの導入が段階的に進められるため、学生個々の学習支援システムの構築を図る。また、アドバイザーによる、学生相談、指導に役立てていく。

2020年に開始した新カリキュラムの学生が無事に卒業し、カリキュラムの移行は円滑に進めることができたと思える。新しいカリキュラムが一通り終了したため、次年度はカリキュラムの適切性や、改善すべき点はないかなど、全体的な評価が必要と考える。また、旧カリキュラム該当の学生も数名在学しているため、卒業要件の充足に問題が生じないように、対応を続けていく。

一部、学業上の不正行為とそれに準ずると考えられる行為があったが、学生は、それが不正行為にあたりと認識していないということが判明している。看護職者としての倫理性の育成も意識し、昨今の学生の特徴を踏まえた、丁寧で具体的なオリエンテーションを実施していく。

学修環境の改善について、教務課が時間割を調整して、東京校舎での2・3・4年生の学習場所の確保に努めた。しかし、特に後期の実習初日の学内オリエンテーションや最終日のまとめの面接などで、煩雑な状態が続いている。また、依然として、大多喜キャンパスと東京校舎の二か所に分かれるための課題は残っている。2校地での授業のための教員の異動や、学生の教員へのアクセスやオフィスアワー、東京校舎の教室や図書スペース、教員と学生や学生同士の交流の場の不足など、教育環境の課題は多く残る。今後も管理者に現状を伝え、学生の教育環境の整備に向けて努めていく。

表 1. 委員会開催と議題

日 時	議 題 (決議事項)
第 1 回 4 月 18 日 (火)	1. 2022 年度第 15 回, 第 16 回 (教授会同時開催) 議事録承認 2. 2023 年度教務委員会活動方針 3. 学生の身分変更
第 2 回 5 月 23 日 (火)	1. 2023 年度第 1 回教務委員会議事録承認 2. 領域別看護実習成績保留者の成績判定 3. 「キリストの生涯」の単位承認 4. 学生の身分変更 5. 基礎看護学実習 I 学生配置(案)
第 3 回 6 月 13 日 (火)	1. 2023 年度第 2 回教務委員会議事録承認 2. 2023 年度領域別看護実習学生配置 (案) 3. 実習科目の履修登録取り消し手続きについて
第 4 回 7 月 18 日 (火)	1. 2023 年度第 3 回教務委員会議事録承認 2. 2023 年度年間実習スケジュールの変更について
第 5 回 8 月 8 日 (火)	1. 2023 年度第 4 回教務委員会議事録承認 2. 学生の身分変更 3. 2023 年度前期の成績判定
第 6 回 9 月 12 日 (火)	1. 2023 年度第 5 回教務委員会議事録承認 2. 「看護研究の基礎」の成績修正について 3. 2024 年度実習スケジュール (案)
第 7 回 10 月 17 日 (火)	1. 2023 年度第 6 回教務委員会議事録承認 2. 事情のある学生における卒業研究の提出期限の延期について 3. 2023 年前期保留者成績判定
第 8 回 11 月 14 日 (火)	1. 2023 年度第 7 回教務委員会議事録承認 2. 基礎看護学実習 II 学生配置 (案) 3. 「小児看護学実習」実習施設変更
第 9 回 12 月 12 日 (火)	1. 2023 年度第 8 回教務委員会議事録承認 2. 事情のある学生の特別配慮の可否について
第 10 回 2024 年 1 月 16 日 (火)	1. 2023 年度第 9 回教務委員会議事録承認
第 11 回 2 月 13 日 (火)	1. 2023 年度第 10 回教務委員会議事録承認 2. 4 年生成績会議/ 卒業認定会議 3. 学生の出校停止による補習実習について 4. 学生の身分変更
第 12 回 (臨時) 2 月 20 日 (火)	1. 2023 年度第 11 回教務委員会議事録承認 2. 学生の身分変更 3. 2023 年度後期成績判定
第 13 回 3 月 12 日 (火)	1. 2023 年度後期保留者成績判定 2. 学生の身分変更
第 14 回 (臨時) 3 月 27 日 (水) 教授会同時開催 (メール会議)	1. 学生の身分変更
第 15 回 (臨時) 3 月 27 日 (水) 教授会同時開催 (メール会議)	1. 保留成績承認 (補習実習)

実習ワーキンググループ (WG)

1. 構成員

WG 長：今野玲子

委員：清野星二 (副委員長)

朝見優子、遠田きよみ、近藤かおり

近藤勇美、松本浩幸

書記：委員が交代で担当

2. 職務

教務委員会の下部組織である実習 WG は、看護基礎教育の学習形態の一つである実習が円滑に行えるよう、学生への教育的指導や注意喚起、実習に関する調整や準備等を行う。

- 1) 実習要項に関する事項
- 2) 実習スケジュールと学生配置に関する事項
- 3) 実習オリエンテーションに関する事項
- 4) 実習生の予防接種に関する事項
- 5) 電子カルテの使用に関する事項
- 6) 実習同意書に関する事項
- 7) インシデント・アクシデントに関する事項
- 8) 実習指導者連絡会に関する事項
- 9) 臨床教授等の辞令交付に関する事項
- 10) その他実習に関する事項

3. 今年度の活動方針

2023 年度の実習が円滑に行えるよう、各領域や実習施設等と連携して調整や準備を行う。学生が実習に向けた十分な準備をすることが出来るよう、オリエンテーションを計画・実施し、実習の進捗状況に応じた指導や注意喚起を適宜行う。今年度の実習を振り返り、今後の課題を検討する。

4. 活動の実際

委員会の開催日及び議題は表 1 の通りである。

1) 実習要項に関する事項

「基本事項」、「看護技術の実施水準と実践・到

達度記録」の内容を検討し修正を行った。「領域別看護学実習要項」、「総合看護実習要項」の取りまとめと編集を行った。「基本事項」、「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」、「領域別看護学実習要項」、「総合看護実習要項」、「基礎看護学実習 I」、「基礎看護学実習 II」の配布数の確認と印刷依頼を行った。次年度からの製本に関して、単年度で実習が終了する「領域別看護学実習要項」を学内印刷とすること、学生が 1 領域のみ履修する総合看護実習要項は履修分のみ配布し、履修しない分は PDF での閲覧とすることを提案した。

2) 実習スケジュールと学生配置に関する事項

領域別看護学実習スケジュールの確認と学生配置を行った。2024 年度の実習年間スケジュール案を作成した。

3) 実習オリエンテーションに関する事項

領域別看護学実習オリエンテーションを計画し、第 1 回実習オリエンテーションを 2023 年 7 月 31 日 (月)、第 2 回を 2023 年 8 月 28 日 (月)～8 月 31 日 (木) に実施した。

4) 実習生の予防接種に関する事項

予防接種オリエンテーション・健康管理ノートの回収と接種状況の確認・未接種者への注意喚起を保健センターと連携して行った。学生の予防接種状況を実習施設へ報告した。

5) 電子カルテの使用に関する事項

学生と教員に電子カルテ ID (閲覧制限あり) が付与されている実習施設に対して、電子カルテ ID の申請と削除依頼を行った。実習施設の電子カルテシステム変更に伴う対応の検討と教員への情報提供を行った。

6) 実習同意書に関する事項

臨地実習説明書・同意書の管理と保管を行った。

7) インシデント・アクシデントに関する事項

実習記録の取扱いに関するインシデントが続い

たことから、「基本事項」の〈個人情報保護の取り決め〉の見直しを行い、教務課と連携して印刷機の取扱いに関する掲示を行った。インシデント・アクシデントの内容を看護学部教授会に報告し、学生指導に活用できるよう教員間で情報を共有した。

充実を図っていく必要があると考えた。

8) 実習指導者連絡会に関する事項

東京衛生アドベンチスト病院との実習指導者連絡会を計画し、第1回実習指導者連絡会を2023年6月21日(水)、第2回を2024年2月14日(水)に開催した。

9) 臨床教授等の辞令交付に関する事項

2023年6月21日(水)に行われた第1回実習指導者連絡会において、学部教授会で承認された臨床教授・准教授・講師への辞令交付を行った。臨床教授など称号規定に関して、役職についていない臨地実習指導者も含められるように内容の検討を行った。

10) その他実習に関する事項

- ①東京衛生アドベンチスト病院の実習指導サポート委員会へ出席し、実習スケジュール、実習状況、学生の様子について情報交換を行った。
- ②2024年度から新調する実習着を選定した。
- ③4年生看護技術達成度アンケート調査を実施し、結果を教授会および実習施設と共有した。
- ④2024年度の東京衛生アドベンチスト病院での実習予定を取りまとめ、公文書を看護事務に依頼した。

5. 評価と課題

2023年度の看護学実習を大きな問題なく実施することができたことから、各領域や実習施設と連携して実習の調整や準備を行うことができたと考える。実習記録の取扱いに関するインシデントが続いたことから、インシデント・アクシデントの防止策を実習WGとして検討し、学生指導の

表1 会議の開催日と議題

会議の開催日	議題
<p>第1回 2022年3月28日(火)</p>	<p>1. 活動方針の確認と役割分担</p> <p>1) 実習要項に関する事項</p> <p>2) 実習スケジュールと学生配置に関する事項</p> <p>3) 実習オリエンテーションに関する事項</p> <p>4) 実習生の予防接種に関する事項</p> <p>5) 電子カルテの使用に関する事項</p> <p>6) 実習同意書に関する事項</p> <p>7) インシデント・アクシデントに関する事項</p> <p>8) 実習指導者連絡会に関する事項</p> <p>9) 臨床教授等の辞令交付に関する事項</p> <p>10) その他実習に関する事項</p> <p>①東京衛生アドベンチスト病院実習サポート委員会の日程</p> <p>②2024年度から新調する実習着の選定</p> <p>③4年生看護技術達成度アンケート調査</p> <p>④実習に関する公文書発送状況の報告</p>
<p>第2回 2023年5月12日(金)</p>	<p>1. 実習要項の編集と製本状況の報告</p> <p>2. 領域別実習学生配置の検討</p> <p>3. 2024年度実習年間スケジュールの検討</p> <p>4. 実習オリエンテーションプログラムの検討</p> <p>5. 実習指導者連絡会プログラムの検討</p> <p>6. 臨床教授等の辞令交付式の準備状況に関する報告</p>
<p>第3回 2023年6月2日(金)</p>	<p>1. 領域別実習学生配置の検討</p> <p>2. 実習科目の履修取り消しに関する検討</p> <p>3. 実習オリエンテーションプログラムの検討</p> <p>4. 2024年度実習年間スケジュールの検討</p> <p>5. 実習指導者連絡会プログラムの検討</p> <p>6. 実習要項の編集と製本状況の報告</p> <p>7. 2024年度から新調する実習着の選定状況の報告</p>
<p>第4回 2023年8月29日(火)</p>	<p>1. 「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」の内容の検討</p> <p>2. 実習要項の製本方法の見直し</p> <p>3. 臨床教授など称号規程に関する検討</p> <p>4. 「基本事項」の〈個人情報保護の取り決め〉に関する内容の検討</p> <p>5. 実習オリエンテーションプログラムの共有</p> <p>次頁に続く</p>

表1 会議の開催日と議題（続き）

会議の開催日	議題
第5回（メール会議） 2023年10月16日（水） ～10月20日（金）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」の内容の検討 2. 実習要項の製本方法の見直し 3. 「基本事項」の〈個人情報保護の取り決め〉に関する内容の検討 4. 実習オリエンテーションの振り返り
第6回 2023年12月25日（月）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の電子カルテ変更への対応 2. インシデント・アクシデントの共有と対策 3. 4年生看護技術達成度アンケート調査に関する検討 4. 「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」の編集時期の検討 5. 領域共通のケア手順書に関する検討 6. 「基本事項」の〈個人情報保護の取り決め〉に関する内容の検討 7. 2024年度実習年間スケジュールの共有
第7回 2024年2月27日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「基本事項」の〈個人情報保護の取り決め〉に関する内容の検討 2. 4年生看護技術達成度アンケート調査結果の報告 3. 2024年度実習WG活動計画の検討 4. 2023年度実習WG年報の確認 5. 2024年度実習公文書準備状況の報告 6. 「基本事項」の〈インシデント・アクシデント〉に関する内容の検討

学生委員会

1. 構成員

委員長：後藤佳子

委員：池田直子、市川光代、小田朋子、下村豪、棚橋浩史、田淵蒔、玉那覇直大、福島正夫、松本浩幸（松崎敦子）

書記：石渡美由紀

2. 所掌事項

- 1) 学生の課外活動の支援
- 2) 学生からのイベント企画申請、車両申請、入退寮の申請の承認
- 3) 各種奨学金の申請の審査、承認
- 4) 学生間で起こる諸問題の検討と指導
- 5) 学寮・ハウジングに関する検討と規程の整備
- 6) 学食と食の安全に関する検討と指導
- 7) 就職支援
- 8) その他学生生活の質向上に向けたサービス
- 9) 学生相談室と連携した学生のメンタルサポート
- 10) 合理的配慮

3. 今年度の活動方針

- 1) 学生の寮および住宅の居住環境の安全を守り、安心して生活できる環境づくりを目指す。
- 2) 新型コロナウイルス感染症により制限されていた学生の課外活動を支援し、充実した学生生活を送れるようにする。
- 3) 奨学金等による経済的支援を行なう。また、奨学金を受けることの重みを学生に発信し、将来的に過度の負担にならないように指導する。
- 4) 医療機関の募集が従来よりも前倒しになる傾向を踏まえ、学生の就職活動を支援する。
- 5) 障害のある学生が、他の学生と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、必要かつ適当な調整を行う。

4. 活動の実際

- 1) 新型コロナウイルスが5類になり、寮は寮生の熱発時など必要時には感染対策を強化しつつ、それ以外では、外出・外泊などを従来通りのルールで実施した。
- 2) オリーブハイツの閉鎖（2023年6月末）に伴うサフランハイツ入居希望者の引越サポート。
- 3) 学生からのイベント企画申請、車両申請、入退寮の申請の承認。
- 4) 奨学金の申請の審査、承認（三育学院奨学金、神学科奨学金、勤労奨学金等）と教授会への承認申請。アドベンチスト病院協議会奨学金の受給者の確認と教授会への報告。
- 5) 高等教育の修学支援制度の対応
- 6) 1年生への入学時オリエンテーションにて、奨学金の借り過ぎの弊害についての説明を実施。
- 7) 学生ハンドブック規程の整備
 - ・2024年度版の学生ハンドブックからオリーブハイツを削除した。
- 8) 2, 3, 4年生対象就職ガイダンスの実施
 - ・4月5日4年生対象のガイダンス実施（就職試験対策講座）
 - ・10月23日2年生対象のガイダンス実施（就職活動の流れ、今からやってほしいこと）
 - ・2月9日3年生対象のガイダンス実施（就活スタートアップ講座）
- 9) 発達障害の学生を支援する合理的配慮に関する検討と対応
 - ・2023年度は1件の新規申請があった。
- 10) 中等教育学校とともに食物アレルギー対応指針を整備した。
- 11) 生活ガイダンスとしてSNS利用のトラブルへの対策講義、健康ガイダンスとして東京での自炊に焦点を当てた食育ガイダンスを実施した。

<大多喜キャンパスにおける学寮教育の概要>

学寮教育の目的>

寮は本学学生を寄宿させ、その寮生活を通して以下の事項を達成することを目的とする。

1. 寮生は、本学のキリスト教理念を寮生活の中で実践し、学生としての品位を保ちながら、それぞれの理想や目標を実現する努力をする。
2. 寮生は、寮運営に参加することによって、自主的自己管理の能力を涵養する。
3. 寮生は、団体生活の中で相互理解を深め、ソーシャルスキルの向上を図り社会性を培う。(学寮規定第1条より)

内容

- ・異学年混合のファミリー形成
- ・チームでの寮清掃（ルーブリックを用いた自己評価・相互評価）
- ・時間管理：学業と私生活におけるタイムマネジメントノートの活用（学修センターとの連携）
- ・私物の管理：忘れ物チェック、整理整頓、部屋検査、等
- ・健康管理：食育（食堂課との連携）、規則正しい生活リズムの維持、等
- ・他者を意識するマナーの重視、ルールへの順守
- ・役割を担う経験（リーダー、または責任を担う機会を増やす）
- ・小グループ会議（課題発見&解決、生活の秩序

を維持するための工夫をする)

- ・ストレスマネジメント（他者との交流、面談、等）
- ・リフレーミング：不自由さ（時間的、空間的自由度の低さ、モノがない、等）の意味づけ

5. 評価と課題

評価

- 1) 新型コロナウイルスが5類になったことを受けて今年度は学生の課外活動が広がりを見せた。単発的な感染は見られたが、拡大せずに全体的に充実した今年度の活動ができたと考える。
- 2) 寮内でのルール違反が見られ、一時的に寮内の雰囲気に影響を与えたため、安心して暮らせる環境の整備がさらに必要である。

6. 課題

- 1) 今年度に引き続き学生の活動を支援していく。
- 2) ルール違反が見られたこともあり、寮生が安心して生活が送れるように、寮生と協力しながら、体制を構築していく。
- 3) 災害が多いため、寮生の防災意識を高めていく必要がある。

2023年度学生委員会における審議事項・検討事項・報告事項 ㊟はメール会議

NO	実施	決議事項・検討事項・報告事項
1	2023年4月4日㊟	・学外アルバイトの承認・新入生歓迎企画申請の承認・ドローンによる撮影の許可の検討
2	2023年4月12日㊟	・学内アルバイトの承認・親睦会企画申請の承認
3	2023年4月20日	・勤労奨学生の承認・高等教育修学支援制度（給付奨学金）継続と廃止の承認および該当者の承認・日本学生支援機構貸与奨学金停止の承認・バレーボール大会企画申請の承認・健康ガイダンス講師の承認・退寮願いの承認
4	2023年5月16日	・三育学院奨学金採用の承認・国際看護実習I奨学金の採用者の承認・アドベンチスト病院協議会奨学金新規採用者の承認および支給変更の承認・自転車所持申請書の承認

		認・オリーブハイツ閉鎖に伴う3年生転居の報告
5	2023年5月18日㊟	・学生交流企画申請の承認・中等教育学校運動クラブおよび授業の補助の報告
6	2023年5月29日㊟	・神学科奨学金受給者の承認・レクリエーション企画申請の承認(2件)・自転車所持申請の承認・勤労学生奨学金辞退の報告
7	2023年6月8日	・病院との野球交流会企画申請の承認・中等教育学校運動クラブ参加の承認・卒業礼拝・卒業式の4年生大多喜寮宿泊についての検討・投書内容の報告(教務の内容につき教務委員長に報告)・中等教育学校との寮の使用に関する報告
8	2023年6月27日㊟	・夏祭り企画申請の承認・合理的配慮の承認
9	2023年7月11日	・ハイツ入居及び退去願の承認・体育館使用の時間帯を中等教育学校と調整ずみの報告・食堂での嗜好調査実施の報告・学生の健康報告
10	2023年7月20日㊟	・ハイツ入居及び退去願の承認・花火大会企画申請の承認・アドベンチスト協議会就業義務取消願いの承認・寮内での飲酒・タバコの所持の懲戒についての報告
11	2023年8月17日㊟	・学生の夏季休暇中の滞在の承認・病院との野球交流会企画申請の承認
12	2023年9月14日	・ハイツ入居願の承認・車両所持申請の承認・学生の夏季休暇中の滞在の承認・中等教育学校でのアルバイト申請の承認・ミルテ寮監代行の職員の承認・サフランハイツ入居時の説明内容の検討(飲酒等への注意勧告)・勤労奨学金を受けている学生の時間不足の報告・学生の入寮時のタバコ所持に関する報告
13	2023年9月21日㊟	・車両申請の承認
14	2023年10月12日	・バレーボールと花火大会企画申請の承認・病院との野球交流会企画申請の承認・学生のサンハイツ入居の不承認・サフランハイツ短期滞在の1泊料金の検討・令和6年度年間行事予定表の検討・大多喜寮の様子報告・食物アレルギー対応指針の報告
15	2023年10月24日㊟	・ハイツ入居願の承認・会食企画申請の承認
16	2023年11月7日㊟	・公用車使用の承認
17	2023年11月10日㊟	・親睦会企画申請の承認・サンハイツ宿泊者の報告
18	2023年11月21日	・アドベンチスト協議会奨学金支給変更の承認・ハイツ退去願の承認・会食企画申請の承認・病院野球大会企画申請の承認・点呼異常報告ルートの検討・スミルナハイツサービスの検討・中等教育学校体育館使用に関する希望内容の検討
19	2023年12月14日	・ハイツ入居願の承認・中等教育学校からのアルバイト依頼ルートの検討と承認・勤労奨学金D種新設の報告・寮生の現況報告・2月9日就職ガイダンス予定
20	2023年12月20日㊟	・公用車使用許可の承認
21	2024年1月18日	・ハイツ退去願の承認・学生ハンドブック修正案の承認・バイブルキャンプ企画申請の承認・学生委員会規程修正の承認・車両所持の承認・サフランハイツの今後の入居に関する検討
22	2024年2月8日	・ハイツ入居願の承認・LTSスピーカーの承認・2024健康ガイダンスおよび生活ガイダンスの検討と承認
23	2024年3月19日	・通学許可への転換に関する検討・次年度活動方針の検討

研究推進委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委員：篠原清夫（副委員長：紀要発行）、
鈴木美和（副委員長：年報発行）、
北田ひろ代、新妻規恵、
中村信一、平澤久美子、

書記：廣瀬幸美

役割分担（チーム編成）

全体の統括	(委員長)廣瀬幸美
研究推進チーム	◎廣瀬幸美、篠原清夫 中村信一、平澤久美子
紀要発行チーム	◎篠原清夫、廣瀬幸美、 北田ひろ代、新妻規恵
年報発行チーム	◎鈴木美和、新妻規恵、

◎：チームリーダー

2. 所掌事項

- 1) 研究推進体制の整備に関する事項
- 2) 外部研究費の導入の推進に関する事項
- 3) 各種研修会、研究会の実施に関する事項
- 4) 紀要発行に関する事項
- 5) 年報発行に関する事項

3. 事業計画、活動方針

1) 委員会全体としての活動方針

(A) 昨年度の研究費支給ポイントシステムへの申請提出率、及び研究費加算取得率、ならびに学内外の研究費の申請状況は、一昨年度に引続き低調であることから、今年度はより一層、教員の研究活動の活性化を図る必要がある。

(B) FD 委員会と協働し、引続き、教員の研究倫理への意識を高める取り組みを行う。

(C) 紀要発行業務を円滑に行う。

(D) 年報発行業務を円滑に行う

※それぞれの職務については、組織的に迅速かつ着実に行うため、研究推進チーム、紀要発行チーム、年報発行チームの3つに分かれて行うが、活動内容によってはチーム間で協働しより円滑な業務遂行を図る。加えて、本委員会の職務には、FD 委員会、研究推進支援室、教務学生課（東京校舎事務）等との共同事業もあることから、これら関連する委員会、事務との連携協力を図る。

2) チームごとの職務と活動方針・業務内容

①研究推進チーム：所掌事項 1) 研究推進体制の整備に関する事項、2) 外部研究費の導入の推進に関する事項、3) 各種研修会、研究会の実施に関する事項

(1) 教員の研究活動の活性化を図るための対策を再検討する。

(2) 研究費支給ポイントシステムへの申請提出率、及び研究費加算取得率アップに向けて働きかける。

(3) 若手研究者の研究推進の一環として、学内共同研究費助成への応募を促し、「学内共同研究費助成規程」に基づき、着実に実施する。

(4) 科研費獲得のための広報、及び支援について、研究推進支援室と連携を図り、引続き強化していく。

(5) 研究倫理教育および研究推進のための研究会を FD 委員会と共同で実施する。

②紀要発行チーム：所掌事項 4) 紀要発行に関する事項

(1) 2023 年度紀要発行スケジュールを作成し、スケジュールに基づいた編集・発行作業を着実に実施する。

- (2) 掲載論文数の増加のための働きかけ、特に研究論文（研究成果）の投稿を促す。
- (3) 本学紀要の査読に関するガイドラインを検討する

③年報発行チーム：所掌事項 5) 年報発行に関する事項

- (1) 2022 年度年報の発行は、「年報発行に関する規程」に則り、7 月までに発行する。
- (2) 2023 年度年報発行スケジュールを作成し、スケジュールに基づいた編集・発行作業を着実に実施する

4. 研究推進チームにおける活動の実際と評価

1) 研究推進チームにおける活動の実際

(1) 教員の研究活動の活性化を図る一環として、第 1 回看護学部教授会（4 月定例）において、学 2024 年度の内外の研究費申請のための情報提供、2023 年度のポイント実績など研究活動評価の報告を行った。学部教授会開催日：4 月 25 日(火)

- ・科研費について：2023 年度採択状況（継続 3 件）、及び 2024 年度の科研費の応募（スケジュール、コンサルタントによる支援を奨励）を報告
- ・2023 年度三育学院大学学内共同研究費助成の募集について：募集要項を配布し、（4 月 5 日より募集）5 月 31 日(水)締切を周知し、応募を募った。
- ・2023 「年度研究費ポイント加算の実施報告：『Ⅲ-27-5 研究費支給に関するポイントシステムのガイドライン』に基づき、申請、加算獲得状況についての報告 [申請期間中に提出された申請者数(15 名/23 名)、提出率 64%、加算獲得者数(9 名/15 名申請)、加算獲得率 60%、教員全体における加算獲得率 39%]。申請のあった教員には各自の加算ポイント分と基本研究費を合わせた 2023 年度個人研究費を優先して報告する（4 月 14 日）など、申請者への研究活動の活性化を図った。

(2) 第 1 回研究推進委員会の開催

5 月 9 日（火）13：00～14：00

- ・2023 年度委員会の活動方針、役割分担について承認された。
- ・2023 年度紀要発行スケジュールについて、篠原清夫副委員長（紀要発行チームリーダー）より提案され、承認された。
- ・2022 年度 年報発行スケジュールの確認、2023 年度年報発行スケジュールについて、鈴木美和副委員長（年報発行チームリーダー）より提案され、承認された、

(3) 学内共同研究費助成の募集

募集期間：4 月 5 日～5 月 31 日

- ・『三育学院大学教員研究費助成規程』に基づき、2023 年度の研究費助成（学内共同研究費）募集した結果、1 名の申請があった。

(4) 第 1 回研究推進チーム会議・学内共同研究費助成審査会の開催：6 月 6 日(火)

- ・規程に基づいて選定された審査委員（研究推進委員会の教授 2 名と委員以外の教授 1 名の 3 名）に、事前に申請書類が配布され、審査が実施された結果、採択となった。

(5) 科研費の応募に関する情報提供と申請書作成に向けた支援

5 月末～9 月（9 月中旬の公募締切頃まで）

- ・2024 年科研費応募に関する情報、科研費獲得セミナー・講習会等の開催について、メールや教授会、研修会を通じて周知した。科研費応募者に対しては、研究推進支援室を通してコンサルタントとの調整をはかるとともに、個別の相談を受けるなど、科研費獲得に向けての支援を行った。

(6) 文科省より提出要請のあった「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト（令和 5 年版）」の記載内容を確認し、研究推進支援室より 11 月 29 日(水)に文科省に提出した。

(7) 第 2 回研究推進委員会の開催

12月20～22日（メール会議）

- ・印刷業者による年報の製本廃止について、経理と相談し年報作成チームリーダーとの協議を経て、2023年度年報より実施することを、研究推進委員会にて報告を行った。

(8) 第2回FD研修（第2回研究懇話会・倫理研修）の合同開催：研究倫理教育研修の実施

8月1日(木)3限

- ・テーマは「授業等で学生が収集・管理する個人データの取り扱いについて」
- ・事前資料を準備（各領域・科目の現状調査）して情報共有し、他大学の状況や個人情報保護法についての講義、意見交換を企画し、実施した。

(9) 2023年度研究費ポイント加算の実施

2月末日～3月末

- ・『研究費支給に関するポイントシステムのガイドライン』に基づき、2024年度研究費加算申請を開始（申請期間：2月13日～3月21日）、提出された申請書類（2023年度の研究業績書）に基づき、2024年度研究業績ポイントの算定を行った。
- ・ポイント加算申請の提出者は20名で、申請の提出率は95.2%（20名提出／教員全体＝加算対象メンバー21名[新任・育休、大学院特任教授を除く]）で、このうち加算者（5ポイント以上の獲得）は13名、加算獲得率65.0%（13名／20名）であり、教員全体における加算率は61.9%（13名／20名）であった。

(10) 2024年度科研費審査結果通知（2月29日）

を受け、申請者には研究推進支援室より個別に結果を通知した。

- ・審査結果は、基盤研究（C）に3名が応募、1名が採択2名が不採択（採択率33%）であった。

(11) 第3回研究推進委員会の開催

3月27日（水）

- ・2023年度委員会（各チーム）の活動報告書を確認し、2023年度の活動を振り返り、2024年度に向けての課題を共有した。

2) 研究推進チームにおける評価と課題

(1) 教員の研究活動の活性化を図るため、昨年に引き続き、研究費支給ポイントシステムの申請奨励・加算算出の実施、若手研究者を対象とした学内共同研究費助成申請の支援、科研費申請に関する情報提供と申請書作成に向けた支援、研究倫理教育研修に科研費に関する情報提供を実施した。

(2) 研究費支給ポイントシステム実施の結果、今回の申請者は加算対象21名中20名で（1名未提出）、提出率が95%と昨年より31%上昇、加算者も13名で昨年の9名より4名増加、加算獲得率65.0%においても昨年より5%増した。未提出の1名についてはポイント加算に必要な業績が確認できていることから、次年度は今年度以上に申請の推奨を図る。2021年のポイントシステムガイドライン施行以降着実にポイント加算獲得率が上昇していることから、研究活動が徐々に促進されてきていることが伺える。なお、当該年度の研究業績が無い場合の提出について疑問を持つ意見もあるが、ポイントシステムガイドラインの趣旨（研究活動の促進）を踏まえ、引き続きポイント申請を徹底する。

(3) 学内共同研究費助成の支援に関しては、期限内に1名の応募があり、審査の結果、採用となった。今回の応募者は助教で、同領域の准教授が共同研究者とした研究指導體制もあり、本研究費助成の主旨を踏まえた体制であった。できればこのような体制で申請してもらえよう、若手研究者には積極的に勧めていきたい。

(4) 科研費応募に対する支援では、昨年同様、科研費に関する情報提供、コンサルタントの仲介・調整に加え、新規応募者には科研費採択に向けた研修の受講を奨励した。昨年度より1名多い3名からの応募があり、3名ともコンサルの支援を受け、新規2名のうち1名が研修を受講した。2月29日に審査結果が研究推進支援室に届き、結果は応募者3名中1名の採択、採択率33%で昨年の50%

よりは低くなったが、新規応募が継続し増加傾向であることから、更なる応募者の拡大を図る。また、今回採択を逃した申請者には継続して申請することの重要性を強調し、支援を継続していく。

(5) 研究倫理教育に関しては、FD委員会との共同開催において実施することになっている。今年度は学部の実習における個人情報管理の問題が浮上したため、研究を想定したものでは無かったが、「授業等で学生が収集・管理する個人データの取り扱いについて」というテーマで研修を企画することになった。事前資料を準備（各領域・科目の現状調査）して情報共有し、他大学の状況や個人情報保護法についての講義を設定し、意見交換を交えて実施したこともあり、事後のアンケートより参加者からの高評価を得た。

(6) 研究推進委員会の予算執行の際、紀要および年報の発行に関わる予算の見直しを行った。年報に関しては、学内の教職員への配布の域を出ないことや、印刷業者との調整の負担（ゲラ作成のやり取りや予算交渉等）から、印刷業者による年報の製本廃止について検討し、2023年報より実施することになった。教授会にて経緯を報告し、年報発行のための協力（原稿作成・厳切厳守・校正など）をお願いし、内容の担保を図った。紀要は学外に配布するため、印刷業者による製本のまま（印刷製本費の高騰が避けられず）となったが、年報を学内で作成することにより、次年度の研究推進委員会予算請求額は例年より20万円減額が可能となった。

5. 紀要発行チームにおける活動の実際と評価

1) 紀要発行チームにおける活動の実際

(1) 研究推進委員会第1回会議での紀要発行チーム報告 2023年5月9日(火)

- ・紀要発行チームより紀要発行スケジュール(案)の報告をした。

(2) 紀要投稿エントリー確認 7月30日(月)

- ・提出された投稿原稿表紙の内容確認、エントリ

ーの受理連絡、投稿予定者・テーマ一覧表の作成を行った。

(3) 投稿原稿の確認 9月15日(金)

- ・締め切りまでに提出された原稿が紀要投稿規程に沿って確認するとともに、執筆者に受取連絡を実施した。また提出物に不備のあるものに対して再提出を依頼し、投稿者・テーマ・連絡者一覧表を作成した。

(4) 紀要発行チーム第1回会議 9月20日(水)

- ・投稿研究論文の査読者およびその他の論文の連絡者について審議・決定をするとともに、査読ガイドラインの検討、投稿内規改正の検討、紀要のホームページへの公開報告を行った。

(5) 査読依頼・連絡者報告 9月22日(金)

- ・投稿研究論文の整理・確認、査読依頼書作成等の準備をし、査読者に査読依頼を発送した。その他の論文に関しては、執筆者に連絡者となる紀要発行チームメンバーの連絡を行った。

(6) 紀要発行チーム第2回会議 10月2日(月)～3日(火)メール会議

- ・原稿受付事務の不備による対応と対象者の特別スケジュールを決定した。

(7) 査読報告書の受理 10月13日(金)

- ・査読者からの査読結果報告書の受理連絡、査読結果報告のための文書編集・コピーおよびPDF作成を行った。

(8) 投稿者への査読結果の通知 10月16日(月)

- ・査読結果通知書および査読者の修正意見書を投稿者に送付し、論文修正を依頼した。

(9) 修正論文の提出確認 11月6日(月)

- ・執筆者に修正投稿論文の受取連絡をし、修正意見書に基づいた論文であるかの確認、査読者に再査読の依頼準備をするとともに、その他の論文については再提出の内容確認を行った。

(10) 修正論文の再査読依頼 11月8日(水)

- ・修正投稿研究論文の整理、再査読依頼書作成等の準備をし、査読者に再査読依頼を発送した。

(11) 再査読報告書の受理 11月24日(金)

・査読者からの再査読報告書を確認し、受理連絡を行った。

(12) 紀要発行チーム第3回会議 12月4日(月)

・紀要第16巻第1号投稿論文について、再査読結果報告をもとに研究論文の掲載について審議、掲載の可否の審議、決定をした。また査読なし論文についての審議、掲載の可否の決定も行った。

(13) 執筆者への掲載可否の結果通知 12月5日(火)

・掲載可否の結果通知を作成、執筆者に発送、電子データ原稿の提出依頼を実施した。再度修正が必要な論文は継続して修正作業を依頼し、紀要発行チームが修正に関するアドバイスを行った。

(14) 論文データ入稿 12月26日(火)

・論文全体を通して確認し、印刷形式に則した電子データの編集作業を行い、データを印刷会社に入稿した。

(15) 紀要発行チーム第4回会議 2024年1月10日(木)～15日(月)

・著者による紀要掲載論文撤回に関して審議をし、申請者に結果通知を行った。

(16) 発行チームによるゲラ確認・審議 2024

年1月30日(火)～2月5日(月)

・印刷会社から送られたゲラについてレイアウトや基本的なミスの校正をするとともに、論文中の付録の取り扱いに関する審議を行った。

(17) 執筆者によるゲラ校正 2月19日(月)～26日(月)

・紀要発行チームで確認した修正ゲラを執筆者へ送付し校正を依頼した。その結果について印刷会社へ連絡を行った。

(18) 発行チームによる著者校正後ゲラ確認 2月29日(木)～3月4日(月)

・印刷会社から戻った著者校正後ゲラと原稿と照らし合わせ内容確認をした。

(19) 執筆者による最終ゲラ確認・印刷会社との打合せ 3月4日(月)～6日(水)

・依頼のあった箇所について修正がなされていることを執筆者に確認してもらい、再度修正依頼のあった件に関しては印刷会社に連絡、修正を依頼した。

(20) 紀要・抜刷印刷依頼 3月7日(木)

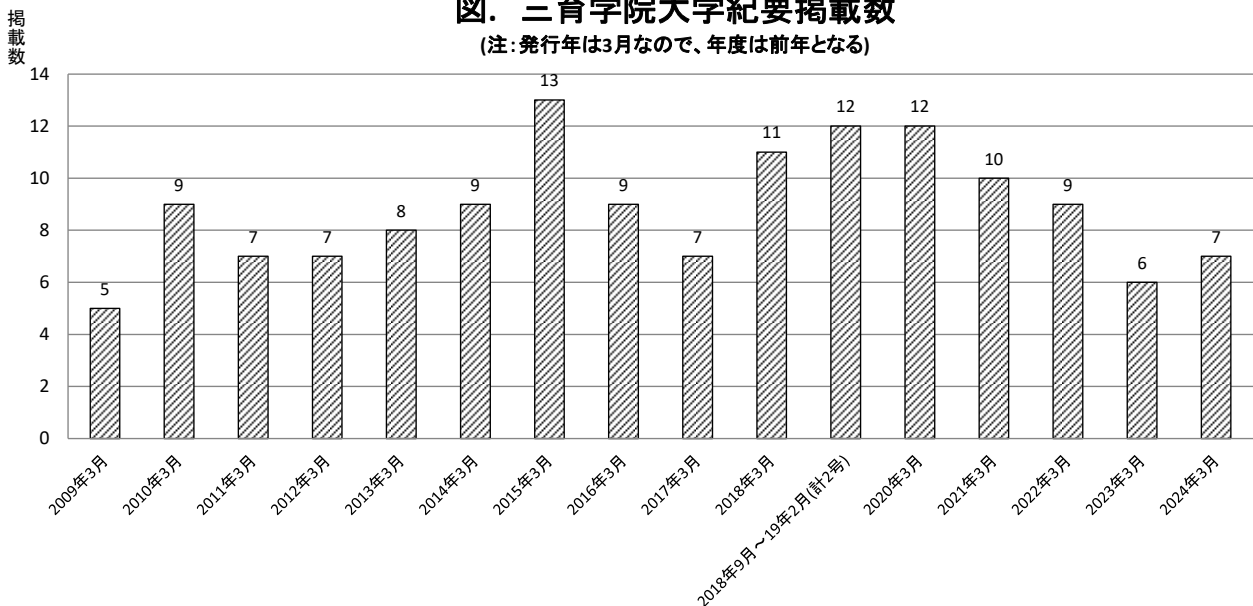
・紀要最終原稿の確定をし、印刷会社に印刷・製本を依頼した。

(21) 紀要完成・配布 3月29日(金)

・印刷会社からの納品がなされ、他大学・機関等

図. 三育学院大学紀要掲載数

(注:発行年は3月なので、年度は前年となる)



に 207 部の発送と大学関係者への配布手配を行った。

2) 紀要発行チームにおける評価と課題

- (1) 本年度の紀要には 7 論文が掲載された。査読を要する研究論文は 5 論文(原著 1・研究報告 3・総説 1)、その他の論文については 2 論文(調査報告 1・教育活動報告 1)で、全体の掲載論文数は昨年度より 1 件増加した(図参照)。エントリーがありながら投稿には至らなかった論文が 3 件あったので、研究推進のため論文作成を促し援助する活動について検討していきたい。
- (2) 文献の執筆方法を原則的に APA(American Psychological Association)方式にした結果、概ね規程通りに文献が執筆されるようになったが、APA マニュアルが改訂されたため投稿内規を改正し、改訂部分についての周知を行っていく。
- (3) 投稿論文査読の統一性また論文作成時に投稿者の手助けとなる査読ガイドラインについて検討を続けてきたが、今年度「査読ガイドライン」を作成することができた。査読者に送付するとともに Group Session にて教職員に公開することで査読に関する共通理解を図ることができた。
- (4) 一昨年度よりオーサーシップについて記した新たな投稿内規が施行され、認識が共有された結果、適切なオーサーシップについて理解が深まったと考えられる。
- (5) 他大学研究者等による本学紀要論文の引用が少ないため、委員会として長らく紀要論文の電子公開を希望していたが、関係者との打合せにより巻ごとの公開が本学ホームページより実施されるようになった。(PDF 化されている第 6 巻[2014]～第 15 巻[2023]のみ)

6. 年報発行チームにおける活動の実際と評価

1) 年報発行チームにおける活動の実際

2022 年度の年報原稿依頼の締め切りを前年度 3 月末とし、委員会活動報告、研究・社会活動、研究活動について、予定通り原稿を収集することができた。また、学事暦や専任教員一覧等は、教務課の協力を得て収集した。

昨年度同様の印刷業者を選定し、納品を 6 月末の予定として作成スケジュールを作成し、業者とも共有した。教職員の協力により、データの入稿を予定より早めて行うことができた。その後、三校まで予定通りに行い、最終データ受領は多少遅れたが、納品予定日を変更することなく年報 100 冊を納品期日である 6 月 30 日に受け取ることができた。

しかし、教職員への年報配布後に原稿の一部欠落が発覚し、差替ページの作成に 1 か月を要した。また、一部表記の誤りが生じていたが、その点については修正不可能であった。原稿の欠落については、年報担当者 2 名が確認したが、隅々まで十分に読み込めていなかったことが原因である。また、初校原稿の確認の際に、執筆担当者がデータと照合し、欠落に気づく必要がある。業務が煩雑な中での作業であり、ミスが生じる可能性を考慮して、正確な年報を作成するための仕組み作りが必要である。

2023 年度の年報作成にあたっては、印刷業者との煩雑な確認作業を省くこととした。そのため、年報データを各担当者が責任を持って作成し、校正等を行い、大学内の簡易製本とすることを教授会にて提案し承認を得た。自己点検評価の参考資料となるように引き続き正確な年報作成に取り組んでいく。

2) 年報発行チームにおける評価と課題

2022 年度の年報作成は、スケジュール通りに進めることができた。一方、原稿の欠落が生じて、修正に時間を要した。正確な年報の作成という点では、課題が残る。担当者の校正、年報作成担当者の校正、印刷業者の編集といった複数の目による確

認が必要である。

しかし、印刷業者は、校正の役割を担っていないため、年報原稿の完成度は、原稿作成・担当者の責任によるところが大きい。また、印刷製本費用の削減が必要となったため、次年度からは、製本業務の業者委託は中止することに決定した。

なお、外部に進呈する年報は、学内にて簡易製本を行い、教職員には **PDF** にて配信することに決定した。同時に原稿執筆者は、各自の責任において、正確な原稿作成に努める。

研究倫理審査委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委員：篠原清夫、齋藤泰子、
金城隆展（外部委員）、宮城眞理（外部委員）

書記：廣瀬幸美

申請書類の受付・管理業務：東京校舎教務

3) 学内の教職員を対象とした研究倫理に係わる教育を FD 委員会と共催して実施する。昨年度に引続き、研究倫理教育をより一層充実する。

4) 厚生労働省等公的機関への研究倫理審査状況の報告をする。（速やかに「倫理審査委員会報告システム」にアップロードする。）

2. 所掌事項

- 1) 研究者から申請された研究計画の倫理審査に係わる事項
- 2) 研究倫理に係わる学内の教職員を対象とした教育に関する事項
- 3) その他、研究科長が研究倫理審査に関して指示する事項

3. 事業計画

- 1) 研究者から申請された研究計画の倫理審査を円滑に行う。
- 2) 研究倫理審査申請の手続きや事務業務が円滑に行われるよう、教務・学生課と連携し、協力を得る。

4. 活動の実際

- 1) 2023 年度の研究倫理審査定例審査および事前審査日程、ならびに審査の実施については、表 1 の通りである。
- 2) 研究倫理審査委員会の開催については、①研究倫理審査委員会（定例審査）ならびに事前審査は、8 月と 1 月を除き毎月開催を予定しているが、申請が無い場合は原則として開催しない、②申請が無くても委員会の運営上必要な場合は開催する、③ただし、この場合は外部委員の出席は求めないとした。委員会・審査の開催と議題は、表 2 の通りである。

表 1. 2023 年度の研究倫理審査定例審査および事前審査日程、審査の実施について

月	申請書提出期限	事前審査	事前審査時間	定例審査日	審査時間	審査の実施
4 月	3 日(月) 15:00	10 日(月)	14:30~16:00	4 月 17 日(月)	14:30~	新規 2 件
5 月	1 日(月) 15:00	8 日(月)	14:30~16:00	5 月 15 日(月)	14:30~	新規 2 件
6 月	5 日(月) 15:00	12 日(月)	14:30~16:00	6 月 19 日(月)	14:30~	継続 1 件
7 月	3 日(月) 15:00	10 日(月)	14:30~16:00	<u>7 月 19 日(水)</u>	14:30~	
9 月	4 日(月) 15:00	11 日(月)	14:30~16:00	<u>9 月 20 日(水)</u>	14:30~	継続 1 件
10 月	2 日(月) 15:00	<u>10 日(火)</u>	14:30~16:00	10 月 16 日(月)	14:30~	
11 月	6 日(月) 15:00	13 日(月)	14:30~16:00	11 月 20 日(月)	14:30~	
12 月	4 日(月) 15:00	11 日(月)	14:30~16:00	12 月 18 日(月)	14:30~	
2 月	5 日(月) 15:00	<u>13 日(火)</u>	<u>12:50~14:20</u>	2 月 19 日(月)	14:30~	
3 月	4 日(月) 15:00	11 日(月)	14:30~16:00	3 月 18 日(月)	14:30~	新規 2 件

表 2. 研究倫理審査委員会の開催と議題

月日 (会議 / 審査)	議題、主な内容・経緯、等
4月10日(月) 14:30~15:50 第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の活動方針、所掌事項の確認 2. 2023年度定例研究倫理審査の日程、申請書類一式の確認 3. 研究倫理審査委員会の開催について（通知、出席、役割等の確認）
〃 事前審査	<ul style="list-style-type: none"> ・4月3日(月)に申請のあった新規申請2件（教員1件、大学院生1件）について、事前審査を実施 ・審査の結果、教員からの申請も面接が必要と判定され、2件とも面接審査へ
4月17日(月) 14:30~15:55 第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月定例研究倫理審査：新規申請2件について面接による審査を実施 ・審査の結果、教員からの1件は「再審査」、大学院生1件は「条件付き承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
5月8日(月) 事前審査	<ul style="list-style-type: none"> ・5月1日(月)に申請のあった新規申請2件（教員1件、大学院生1件）について、事前審査を実施 ・審査の結果、教員からの申請は書面審査、大学院生は面接審査と判定
5月15日(月) 14:30~15:30 第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5月定例研究倫理審査：新規大学院生1件について面接審査を実施、教員1件については書面審査の確認 ・審査の結果、大学院生の1件は「再審査」、教員からの1件は「承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告 2. 書面審査、迅速審査の基準を明確化し、これに伴い「三育学院大学研究倫理審査申請手順」に加筆修正、「三育学院大学研究倫理委員会規程」との整合性を図り規程の改定案を作成し、教授会に諮る。
6月12日(月) 事前審査	<ul style="list-style-type: none"> ・6月5日(月)に申請のあった継続申請1件（5月審査で「再審査」となった1件）について、事前審査を実施 ・審査の結果、大学院生からの申請のため、面接審査と判定
6月19日(火) 14:30~15:30 第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 7月定例研究倫理審査：継続申請1件について面接による審査を実施 ・審査の結果、再び「再審査」と判定 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
9月11日(月) 事前審査	<ul style="list-style-type: none"> ・9月4日(月)に申請のあった継続申請1件（5月と6月の審査で「再審査」となった1件）について、事前審査を実施 ・審査の結果、大学院生からの申請のため、面接審査と判定
9月20日(水) 14:30~15:40 第5回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 9月定例研究倫理審査：継続申請1件について面接による審査を実施 ・審査の結果、再々の「再審査」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
3月11日(月) 事前審査	<ul style="list-style-type: none"> ・3月4日(月)に申請のあった新規申請2件（教員1件、大学院生1件）について、事前審査を実施 ・審査の結果、新規申請2件とも面接審査と判定（教員の申請は迅速審査:書面審査基準を満たさずと判定）
3月18日(月) 14:30~15:50 第6回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3月定例研究倫理審査：新規申請2件について面接による審査を実施 ・審査の結果、教員の1件は「再審査」、大学院生の1件は「承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告 2. 本年度の振り返り、年報内容の確認

- 3) 研究計画変更届、研究終了届について
- ・研究計画変更届は、3件の申請があり、2020年度承認の2件、2023年5月承認の1件からであった。変更内容は、2020年度承認の1件からは研究期間の延長、もう1件は研究期間の延長、研究テーマ・研究デザインの変更であり、2023年5月承認の1件からは研究対象施設の変更であり、いずれも研究科長に申請し承認された。
 - ・研究終了届は2件（1件は2024年1月、1件は2024年3月）あり、研究終了報告書が研究科長に提出された。

5. 評価と課題

- 1) 今年度の審査体制は、昨年同様、研究倫理委員会の構成委員5名が審査委員（内部委員3名、外部委員2名）となり、8月と1月を除く毎月の開催を計画した。

今年度の研究倫理定例審査会は、表1に示すように、申請者からの申請を受け、4月、5月、6月、9月、3月の5回、合計8件（新規6件、継続2件）の審査が実施された。申請された8件の事前審査では、7件が面接審査（本審査：大学院生からの5件と教員からの2件）、1件が書面審査（迅速審査）となった。

これらの判定結果は、面接審査7件のうち、大学院生が5件で、1件が「承認」、1件が「条件付き承認」→再提出後に「承認」となったが、3件は「再審査」で、同じ大学院による申請（5月、6月、9月）の審査結果であった。その後9月以降に年度内の申請は無く、当該大学院生の申請は次年度以降に持越されることになった。面接審査2件は教員であり、2件とも「再審査」となった。このうち4月に「再審査」の判定となった1件は、年度内の再提出は無く（今後も申請の可能性は無く取下げの状態）であり、もう1件の3月「再審査」の方は、次年度4月以降の申請受付となる。

書面審査（迅速審査）の1件は教員による申請であり、「承認」となった（一部修正後）。

さらに今年度は、審査の効率化の観点から書面審査（迅速審査）を推奨し、その実施を図るため、以下の【迅速審査の基準】を設定した。

- (1) 研究計画書の軽微な修正
- (2) 侵襲を伴わない研究であって介入を行わないもの

上記の(1)(2)の何れかに該当するものを迅速審査とする。

上記の基準については、5月15日の第3回研究倫理審査委員会にて検討して、「三育学院大学研究倫理審査申請手順」を加筆修正し、「三育学院大学研究倫理委員会規程」との整合性を図り規程の改定案を作成し、教授会に諮り規程改訂の承認を得た。

【迅速審査の基準】設定後に、対象になった申請は2件で、いずれも教員による申請であり、このうち1件のみが迅速審査の基準を満たしており、書面審査となった。大学院生による申請は本審査（面接審査）となっているため、今回の迅速審査の基準に当てはめることはできないが、研究計画書も比較的軽微な修正のものが見られるようになってきている。一方、教員による研究は申請件数も相変わらず少なく、提出された計画書も軽微な修正に留まらず、「再審査」となる割合が多かった。

- 2) 今年度の申請受けは8件であり、これらを含む毎月の申請書類提出期限後の審査委員への事務連絡（申請の有無、事前審査、定例審査の実施等）、ならびに申請書類の送付においても、滞りなく実施できた。さらに今年度は、本学の研究倫理審査委員会から承認されて研究を実施中の研究者（院生の研究は除く）に対して、報告書の提出（研究終了前であれば「進捗状況報告書(様式6)」、研究終了後であれば「研究終了報告書(様式7)」）を徹底した。その結果「進捗状況報告書(様式6)」の提出は2件、「研究終了報告書(様式

7)」の提出も2件あり、これらは全て期限内に提出された。また、今年度は「研究計画変更届」が3件あったが、計画変更後の実施と届け出にタイムラグが見られるケースもあり、今後は変更が生じる際には速やかに提出するよう、対象者に周知していく必要がある。

3) 学内の教職員を対象とした研究倫理に関わる教育として、FD委員会と共催で毎年計画されるが、今年度は学部の実習における個人情報管理の問題が浮上したため、研究を想定したものでは無かったが、「授業等で学生が収集・管理する個人データの取り扱いについて」というテーマで研修を企画することになった。事前資料を準備（各領域・科目の現状調査）して情報共有し、他大学の状況や個人情報保護法についての講義を設定し、意見交換を交えて実施したこともあり、事後のアンケートより参加者からの高評価を得た。なお、次年度の2024年度は、

研究倫理教育の受講年になる（『三育学院大学研究倫理審査手順』P3、B. 研究倫理教育について：日本学術振興会 e-learning には有効期限がないため、他の研修プログラム・他大学の対応を参考に、本学では4年間を有効期間とする。）ため、研究推進支援室より、次年度開始時には日本学術振興会 e-learning の受講を指示する。研究倫理教育受講に関する情報提供を行うとともに、e-learning 受講については個別のサポートも行って受講率の向上を図り、100%受講率を目指す。

4) 厚生労働省管轄の「倫理審査委員会報告システム」に、研究倫理審査委員会の議事録のアップロードを迅速に行い、本学の研究倫理審査状況の報告を迅速に行った。また、『三育学院大学研究倫理委員会規程』および『三育学院大学研究倫理審査申請手順』の改正に伴い、これらの改正版のアップロードも実施した。

保健師課程選択者選考委員会

1. 構成員

委員長：浦橋久美子

委員：後藤佳子、鈴木美和、山本理、佐藤壽子
手塚早苗、福島正夫、小田朋子

書記：手塚早苗

2. 職務

- 1) 保健師課程選択者選抜に係る審査の計画と実施に関する事項
- 2) 保健師課程選択者選抜に係る審査に関する事項
- 3) 保健師課程選択者選抜要項および要領に関する事項
- 4) その他保健師課程選択者選抜に関する事項

3. 今年度の活動方針

保健師課程選択者選考委員会規程を作成し、委員会体制を整備するとともに、適切な学生の選抜をするために、以下の目標を設定した。

- 1) 保健師課程選択者選考委員会規程(以下、規定)を作成する。
- 2) 選抜審査内容などの検討をする。
- 3) 学生が保健師課程及び保健師活動を理解するための情報発信の推進を図る。

4. 活動の実際

委員会は、方針に基づき 11 回開催した。

- 1) 保健師課程選択者選考委員会規程の作成
規定の内容として、委員会の趣旨、所掌事務、組織の構成、委員長の職務、定足数、議決などについて検討した。規定の作成に伴い、保健師課程選択者選抜要項、および保健師課程選択者選抜に係る審査要領の見直しが行われた。これらを教授会へ提案し、承認を得た。

- 2) 保健師課程選択者選抜審査内容などの検討
審査基準の妥当性の検討、審査マニュアルの作成を行った。

(1) 審査の妥当性の検討

① 面接時の評価基準

昨年度、見直しをした、個人面接の評価項目および集団討議面接の評価項目に沿った評価基準の検討をした。この結果、一定の基準に該当した受験生について、審査担当者全員の討議を経て、適性を判断することにした。

② 小論文および集団討議面接の課題

課題(案)を受験する学年にふさわしい内容か、答えやすいかなどの視点から検討し、決定した。

(2) 審査マニュアルの作成

教務課が中心になり、マニュアル案を作成し、委員会で確認するという連携のもと作成をした。

- 3) 学生が保健師課程および保健師活動を理解するための情報発信の推進

1・2年生および3・4年生保健師課程の学生へグーグルクラスルームから、2022年度卒業生メッセージを配信した。

7月保健師課程選択者審査の説明会時に、4年生が、保健師課程の実習など学修の状況を報告した。

4) 審査の実施

2年生前期成績がGPA2.7以上22名のうち11名(50.0%)が受験し、10名が合格した。

昨年度の課題であった受験生が集中できる空間の確保、審査時の誘導などを考慮し、1月の授業開始前の実施となった。

作成したマニュアルに則り、審査が行われた。

5. 評価

1) 委員会の組織的な位置づけと職務の明確化
規定が教授会で承認されたことにより、本学の組織としての位置づけが明確になった。委員会の必要性および存在意義が認められたことになり、今後の委員会の発展が期待される。

2) 審査の妥当性

(1) 面接項目の評価基準

一定の基準に該当した受験生について、保健師課程に適切か審査担当者全員での検討は、面接した審査担当者の判断にゆだねるのではなく、客観性が担保され妥当な審査になった。

(2) 審査内容の適切性

小論文の課題を適切にとらえて回答した学生が少なかった。本学の学生の質の変化も考慮した課題検討が必要である。また、審査員による小論文の評価の差についての検討も課題である。

3) ミスのない審査の実施

審査にミスがなく終了したことは、マニュアルを有効に活用できた成果といえる。そして、マニュアル活用とともに、審査当日の環境整備ができたことは、落ち着いた空間での受験、運営のしやすさにつながった。

4) 受験生の意識

受験するにあたり、申請書類の誤字や不適切な文章表現のまま書類提出する受験生がいたこと、服装や身なりなど面接に適切か、また、保健師課程を選択するために課程や保健師活動についてどのくらい調べたのか疑問になる学生がいた。保健師課程への志向性を高めて受験できるアプローチが必要である。

3) 保健師課程および保健師活動の理解促進のための情報提供

4月の配信に留まり、以降、更新されていない。保健師課程の学修状況(グループワーク、実習など)をリアルタイムでの配信が課題である。また、在学生が1年生へ保健師課程の状況を伝える機会を設けるなど学生の効果的な活用の工夫が求められる。

表 1-1 2023 年度委員会活動 (5～10 月)

回	開催月日	内容
1	5月25日	1. 今年度の方針の決定 2. 20232年度選択者選抜スケジュールの決定
2	6月28日	1. 保健師課程選択者選抜審査の追審査の予定検討 2. 保健師課程選択者選考委員会規定の検討① 3. 委員以外の審査担当依頼教員の決定
3	7月26日	1. 保健師課程選択者選考委員会規定の検討② 2. 2024年度保健師課程選択者選抜に係る審査説明会報告
4	9月21日	1. 保健師課程選択者選考委員会規定の検討③ 2. 面接審査評価基準の検討
5	10月21日	1. 保健師課程選択者選抜要項(改正)の検討① 2. 小論文および集団討議面接課題作成担当者の決定 3. 審査マニュアル検討①

表 1-2 2023 年度委員会活動（11～3 月）

回	開催月日	内容
6	11 月 15 日	1. 保健師課程選択者選抜要項(改正)の検討② 2. 保健師課程選択者選抜に係る審査要領(改正)の検討① 3. 面接審査評価基準の検討② 4. 小論文および個人面接の課題(案)に対する意見交換 5. 審査マニュアルの検討②
7	12 月 13 日	1. 小論文および個人面接の課題(案) 2. 保健師課程選択者選抜要項(改正)の検討③ 3. 保健師課程選択者選抜に係る審査要領(改正)の検討② 4. 審査マニュアルの確認
8	1 月 10 日	審査（受験環境、審査内容）の振り返り
9	1 月 17 日	1. 2024 年度保健師課程選択者選抜審査 2. 審査の振り返り
10	2 月 28 日	1. 履修要項掲載内容の検討 2. 2023 年度活動の振り返り
11	3 月 28・29 日 (メール会議)	2023 年度三育学院大学年報掲載内容

表 2 学生への対応（保健師課程選択者選抜審査オリエンテーション、審査の実施、事後相談）

回	開催月日	内容
1	4 月 10 日～	2022 年度卒業生(保健師課程 5 名)からのビデオレターの配信
2	7 月 20 日	1. 選抜審査の説明会(参加者 15 名) 1) 保健師課程の学修体制：委員長 2) 審査までのスケジュール・手続き方法：教務課 2. 4 年生(2 名)から保健師課程の説明(参加者 15 名)
3	1 月 10 日	保健師課程選択者選抜審査 受験生：11 名 合格者：10 名 審査官：6 名（委員） 会場設営・審査進行：教務・学生課（2 名）
4	2 月 2 日	合格発表
5	2 月 7 日	保健師課程選択者選抜審査の可否に関する学生説明

FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会

1. 構成員

委員長：平野美理香

委員：廣瀬幸美（副委員長：研究研修）、
山口道子（副委員長：教育研修）、
新妻規恵、清野星二、

書記：新妻規恵、清野星二

役割分担

内容	担当者
研究プログラム	廣瀬幸美、清野星二
教育プログラム	山口道子、新妻規恵
評価アンケート	清野星二

2. 所掌事項

- 1) 教育活動の質的向上に関する事項
- 2) 研究と教育に関する研修会の実施
- 3) その他 FD に関する事項

3. 事業計画

教員を対象にした研修を5回開催し、内容は研究プログラムを2回、教育プログラムを3回とする。委員会の開催は、年4回の定例会議、及び各プログラム開催に合わせ必要時臨時会議を追加する。その際は、事前に委員長が招集する。

4. 活動の実際

1) FD 委員会会議の開催

日時	議題
第1回 FD 委員会 5月2日（火）	1. 委員会規程の改定に関する検討 2. 今年度の活動方針に関する検討（役割分担、研修会の日程と内容）
第2回 FD 委員会 7月6日（木）	1. FD 委員会規程改正案の承認 2. 第2回・第3回 FD 研修会の日程およびプログラムの検討 3. 第1回 FD 研修会アンケート結果の報告
臨時 FD 委員会 7月12日（水）	1. 第2回 FD 研修会タイムスケジュール変更の承認 2. 倫理研修会に関する検討

1) 研究関連プログラム（年2回開催）

学内教員の研究報告を行い、新たな教育的示唆を得る。

① 研究報告（年2回）

② 倫理研修（年1回）

授業等で学生が収集・管理する個人データの取り扱いについて「個人情報保護法の改正と私立大学への多大な影響」の解説

・研修日程

研究報告1：北田ひろ代先生 6月21日（水）

研究報告2：平野美理香先生 8月1日（火）

倫理研修：廣瀬幸美先生 8月1日（火）

2) 教育関連プログラム（年3回開催）

2025年度、追認証評価受審に向けた取り組みに関する内容を内部質評価委員会と連携して実施する。

・研修日程

教育研修 I：2023年8月23日（水）

認証評価で求められる内部質保証の仕組みについて

教育研修 2：2023年12月25日（月）

DP ルーブリックの検証・意見交換、内部質保証に関わる研修

教育研修 3：2024年3月26日（火）

教育の質改善を目指した検討・認証評価に向けた

取り組み 卒業時到達目標アンケート結果の検

証・新システム導入について

第3回 FD委員会 10月12日(水)	1. 大学院専任教員のFD研修会参加に関する検討 2. 個人情報保護に関するFD・SD合同研修会の検討 3. 第2回・第3回FD研究会アンケート結果の報告
第4回 FD委員会 12月27日(水)(メール会議)	1. 第5回FD研修会の日程および開催方法変更の承認
第5回 FD委員会 2024年2月1日(木)	1. 第5回FD研修会の内容、予算、担当者の承認 2. 2024年度FD研修会の検討 3. 第4回FD研修会アンケート結果の報告

2) 研修会の開催

	日時	講師	テーマ	参加者
第1回	6月21日	北田ひろ代先生	研究報告「産後の母親のコンフォートに関する研究」	18
第2回	8月1日	平野美理香先生 廣瀬幸美先生	研究報告「一般病棟師長と看護師から見た、アドバンス・ケア・プランニングの取り組みの現状と課題」 倫理研修「個人情報保護法の改正と私立大学への多大な影響」解説	24
第3回	8月23日	濱野史雄 様 (学びと成長のしくみデザイン研究所) 今野玲子先生	教育研修 講義「なぜ学修成果を可視化しなければならないのか」 グループワーク「DPルーブリックの検証、カリキュラムマップの検証」	24
第4回	12月25日	今野玲子先生	教育研修 「DPルーブリックの精査した内容の説明」 グループワーク「DPルーブリックの検証」	26
第5回	3月26日	濱野史雄 様 (学びと成長のしくみデザイン研究所) 今野玲子先生	教育研修 講義「教育の質改善を目指した検討・認証評価に向けた取り組みー卒業時到達目標アンケートの結果の検証・新システム導入に向けてー」 「卒業時到達目標学生アンケートの実施と結果説明」 グループワーク	

5. 評価と課題

1) 研究関連プログラム

研究活動の質的向上に向け、学内教員による研究懇話会を2回実施した。実際に取り組んだ

研究報告より、看護実践の示唆や活用について討議され、今後の学生指導にも活かせる内容であった。

倫理研修は、授業等で学生が収集・管理する個

人データの扱いに焦点を当てて研修を実施した。

倫理研修において、各領域の授業、学生が収集する個人データの取り扱いについてのまとめを作成し、全体で情報共有し、本学の指導の現状について討議を行った。討議では、「学生が収集・管理する個人情報については、実習記録等は手書きを原則とすることが望ましい。個人情報ではない部分、病名、病態、薬の作用等（個人の特定に直接結びつかない記述の部分）の一般的な内容ではPC利用とし、さらに、必要のない情報は収集しないなどの工夫が必要ではないか」との意見がまとめられた。全領域で統一した個人データ取り扱いの認識ができたことは倫理研修の成果と考える。

さらに、FD副委員長（研究担当）により、直近の個人情報保護の法律の改正状況の解説を行い、教員の個人情報に関する知識の向上に寄与することができた。倫理研修後のアンケートでは69%がとても良かった、41%が良かったと回答した。フリーコメントでは「記録の取り扱いについて、理解が進んだ」「領域別実習前に研修を受けることができて良かった。改めて、個人情報厳守について学生指導の大切さを学んだ」との意見があった。

今後も個人情報に関する法改正、トピックがあれば、倫理研修の中で企画していく。

2) 教育関連プログラム

2025年度の認証評価再受検および教育の質向上に向け、今後さらに取り組むべき課題や計画・改善点を明確できるよう、3回の教育研修を実施した。

第1回目の研修はSDと合同で開催し、認証評価に向けた取り組みの現状と今後に向けた計画の共有のため、内部質保証として全学で取り組むべき課題を明確にした。研修は、内部質保証委員長による自己点検評価書の説明、外部講師による認証評価で求められている教育の質保証に向けた学習成果の可視化の必要性やその方法の説明があり、それらを再確認した。カリキュラム全体の学習成

果可視化のために必要となるDPループリックの下位項目の作成・検証作業をグループワークで実施した。研修後のアンケート（回答率75%）では、研修内容について56%がとても良かった、44%が良かったと回答した。「コアカリキュラムの検討は重要で、教育を一致して実施していくためには必要」や「外部講師のプレゼンを通じ、内部質保証の展開の仕方がより分かった」などの意見があった。

第2回目の研修は、教務委員長による第1回目の研修で検証したDPループリックについて精査した内容の説明やDPループリック卒業時到達目標の検証を行った。SDと合同プログラムとして、内部質保証委員長から今後のアセスメントポリシープランの説明も行った。研修後のアンケート（回答率61.5%）では、研修内容について38%がとても良かった、62%が良かったと回答した。研修内容が明確でよかったという意見の他、グループワークの時間が短かったという意見が多数あった。

第3回目の研修は、2回目の研修後のアンケート結果を受け、1日研修として実施した。教務委員長より卒業時到達目標（コンピテンシー）の学生アンケート結果の説明と学年ごとの学習計画と振り返りについての説明が行われた。その後領域ごとに卒業時のアンケート結果の検証と改善案、さらに学部における学年の各期の目標の検討の話合いを行った。外部講師と内部質保証委員長により、学習成果の可視化に向けた取り組みである新システムについての使用法などの説明を行った。研修後のアンケート（回答率72%）では、研修内容について44.4%がとても良かった、55.6%が良かったと回答した。コメントには、「DP、コンピテンシー、卒業時到達目標について、グループワークで時間をとって議論できたことは有意義だった」や「具体的な提案もあり、PDCAが進んでいくのを実感できた」、「DP達成度の可視化の方法など、講義の内容も興味深かった。」などの意見があった。

今後も教育の質改善に向けた具体的な取り組みが実現できるよう、研修を実施していく。とくに

内部質保証委員会や教務委員会と協力し、学生・授業・カリキュラムが自己点検サイクルを回していくための仕組みづくりを、FD 教育研修として必

要な内容を検討していく。さらに教員の質向上のために必要な研修を計画していく。

国家試験対策委員会

1. 構成員

委員長：山口道子

委員：近藤かおり（副委員長）、
松本浩幸、玉那覇文美、近藤勇美、
手塚早苗、上野雪絵、石渡美由紀
※松崎敦子（オブザーバー）

書記：委員会メンバーが交代で担当

役割分担：表 1

山口道子	2年生補講 4年生看護師課程全般 スタディグループ 全体統括
近藤かおり	2・3年生看護師課程 全体統括補佐
松本浩幸	保健師課程全般
玉那覇文美	1年生看護師課程 外部講座調整等
近藤勇美	4年生看護師課程 模擬試験等
手塚早苗	保健師課程全般
上野雪絵	2・3年生看護師課程
石渡美由紀	事務

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策の計画立案と実施
- 2) 教員および関係部署との連携
 - (ア)教授会における国家試験対策の周知、依頼、情報提供
 - (イ)アドバイザー教員との連携
 - (ウ)教務課との連携：国家試験願書申請等
- 3) 委員会の開催（表 2）
- 4) 研修会への参加
- 5) その他
 - (ア)学生への情報（講座等）提供
 - (イ)学生国家試験係との連携と協力

(ウ)国家試験に関する本学の状況報告（三病院会議、保護者会等）

3. 活動計画

看護師・保健師国家試験での合格 100%を目指し、大多喜キャンパス・東京校舎でできる限りの対策を行う。看護師国家試験対策の主な活動として、模試の実施、必修問題対策として「アプリを活用した対策」、「帰れま 100」、一般・状況設定問題対策として「学内補講」、弱点補強として「東京アカデミーによる講座」（5月・11月）、低学力者対策として「スタディグループ」を実施する。保健師国家試験対策の主な活動として、模試の実施、学内補講、弱点補強として「東京アカデミー疫学講座」、および低学力者対策として「自主勉強会」「個別対策」を実施する。

4. 活動の実際

1) 4年生看護師課程学生に対する取り組み

(ア)ガイダンスの実施

(イ)模擬試験の実施：前年度本試験（第 112 回看護師国家試験）を 1 回（4 月）、全国模擬試験を 6 回実施した（6 月、9～1 月に各 1 回）。

(ウ)必修問題対策として、「アプリを活用した対策」と「帰れま 100」を実施：昨年度の看護師国家試験受験結果を受け、4 月より必修対策を実施した。指定されたアプリをダウンロードし、毎日 50 問を満点になるまで解答し、結果を報告してもらった。「帰れま 100」は、10 月から 2 月にかけて、月曜～金曜に google classroom から過去問題および予想問題、「必修ファイナルチェック 360 問」（2090 円の問題集の、500 円を大学が補助をした）を活

表 2 国家試験対策委員会の開催

日 時	議 題
第 1 回国家試験対策委員会 4 月 17 日 (月)	1. 今年度の看護師・保健師国家試験対策に関する検討 (役割分担、 模擬試験・外部講座等日程と内容) 2. 予算確認等
第 2 回国家試験対策委員会 5 月 17 日 (水)	1. 国家試験対策スケジュール確認 2. 国家試験対策セミナー参加報告・情報共有 3. 外部講座確認 (実施方法・内容等)
第 3 回国家試験対策委員会 6 月 13 日 (水)	1. 国家試験対策スケジュール確認 2. 卒業生講話についての確認 3. 外部講座の振り返り等
第 4 回国家試験対策委員会 8 月 2 日 (水)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. スタディグループについての検討 (該当者・実施方法等) 3. 今後の国家試験対策の検討
第 5 回国家試験対策委員会 10 月 2 日 (月)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 学内補講の検討 (対象者・内容・方法等)
第 6 回国家試験対策委員会	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 外部講座の確認 (実施方法・内容等)
第 7 回国家試験対策委員会 12 月 6 日 (水)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 今後の国家試験対策の検討 3. 受験票配布プログラムの確認
第 8 回国家試験対策委員会 1 月 15 日 (月)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 看護師・保健師国家試験本試受験後の自己採点会参加の検討
第 9 回国家試験対策委員会 2 月 29 日 (木)	1. 今年度国家試験対策に関するアンケート結果検討 2. 合格発表後の対応検討
第 10 回国家試験対策委員会 3 月 25 日 (月)	1. 看護師・保健師国家試験結果の共有 2. 次年度の国家試験対策についての検討

用し、20 問程度ずつ計 71 回実施した。自宅学生のための配信を行い、大多喜キャンパスでは毎日対面で実施し、学習習慣づけ、生活習慣の改善も目的とした。

(エ) 一般・状況設定問題対策

1. 教員による学内補講の実施: 10 月の模擬試験の結果で合格圏に満たない学生と希望者を対象に、各領域の教員が
2. 対面 (大多喜キャンパス) とオンライン (東京校舎) で補講を実施した (7

領域計 16 コマ)。

3. 東京アカデミー講師による講座の実施: 全学生を対象に、低得点領域を中心に計 6 コマ実施した。1 人当たり 13,000 円の受講料に対し、全コマ参加を条件に大学から各学生に 5,000 円程度の補助をした。

(オ) 低学力者対策「スタディグループ」の実施: 6 月から 1 月の模擬試験で低得点の学生を対象に、10 月から 1 月にかけて小

グループでの勉強会を実施した。各回の参加者は4名～12名程度で、教員1名が週2コマオンラインで担当した。内容は、時期と模擬試験結果を踏まえて適宜検討したが、10、11月は主に必修問題対策、12月は主に一般・状況設定問題対策、1、2月は弱点を補強する対策を行った。

(カ)卒業生講話の実施：国家試験に向けた具体的なアドバイスをしていただくことを目的に、2022年度卒業生3名に依頼し5月と11月に実施した。

2) 4年生保健師課程学生に対する取り組み

(ア)ガイダンスの実施

(イ)模擬試験の実施：前年度本試験(第109回保健師国家試験)を1回、全国模擬試験を4回実施した(6、9、11、1月に各1回)。模擬試験実施後には振り返り解説を行った。

(ウ)教員による学内補講の実施：全学生を対象に、11月から12月にかけて計18コマ実施した。

(エ)東京アカデミー講師による疫学の補講を実施した(計2コマ)。

(オ)卒業生講話の実施：国家試験に向けた具体的なアドバイスをしていただくことを目的に、2022年度卒業生1名に依頼し6月に実施した。

3) 3年生に対する取り組み

(ア)ガイダンスの実施

(イ)模擬試験の実施：学研「基礎学力UPチャレンジテスト」を6月に1回実施した。模擬試験実施後、学研基礎学力UPチャレンジテストeラーニング復習機能を活用し、夏休みの課題としてeラーニングによる復習を促し、教員による実施状況の確認とコメントのフィードバックを実施した。

4) 2年生に対する取り組み

(ア)ガイダンスの実施

(イ)教員によるマイノート作成に関する指導の実施

(ウ)模擬試験の実施：学研「基礎学力UPチャレンジテスト」を2月に1回実施した。春休みの課題としてeラーニングによる復習を促し、教員による実施状況の確認とコメントのフィードバックを実施した。

5) 1年生に対する取り組み

(ア)ガイダンスの実施

(イ)模擬試験の実施：東京アカデミー「人体の形態と機能」を2月に1回実施した。模擬試験実施後、振り返りを1コマ実施した。

5. 結果

1) 看護師国家試験の結果(表3)

(ア)合格率：新卒では95.2%、既卒では40%、全体では89.4%だった。

(イ)不合格になった学生(新卒)の傾向：2名ともに東京校舎(自宅他より通学)の学生であった。2名とも10月から継続してスタディグループに参加していたものの、模擬試験での成績は一貫して低く、学習の効果が小さかった。1名はスタディグループの学習進度や学習方法に合わないという理由より、参加対象者であったが、11月後半から退会した。外部の講座も受講したが模試成績が伸びなかった。4年間のGPAはそれぞれ2.4、2.26と2.4以下の学生であった。2名ともに異なるアドバイザーが担当していたが、指導に困難を要した。

2) 保健師国家試験の結果(表4)

(ア)合格率：100%だった。

(イ)学生の傾向：模擬試験の結果、11月以降、2回の模試でB判定のため、模擬試験の結果だけで判断を行うことは困難であっ

た。そのため、次年度は模試の結果は参考程度にし、学生個人の理解状況をもう少し深く見ていく必要がある。

6. 評価および今後の課題

1) 低学力者への対応

(ア)スタディグループの実施：模擬試験で低得点だった学生を対象に小グループを作り、教員1名がオンラインで指導にあたった。模擬試験毎に対象者を入れ替えたが、学生へのアンケートでは、指導方法・頻度・期間は適切であり、効果を感じるという回答がほとんどであった。指導の結果、学力が向上した群、学力の向上が最小限だった群に大別できた。学力の向上が最小限だった群に対しては、スタディグループだけではなく、予備校等の利用を含めて、指導方法の更なる検討が必要である。対象学生に上記を勧め、保護者にも依頼し、利用していた学生がほとんどであった。不合格となった学生全員が最後までスタディグループ対象者であったことから、最後まで教員に依存的に学習するスタイルではなく、国家試験2か月前頃より自律した学習が確立できることを目指し、指導に当たれるよう進めていく。

(イ)アドバイザーとの連携：12月の模擬試験において合格圏に達していない学生は6名(14%)であった。アドバイザーと対策委員会メンバーで相談し、学生と委員会メンバーが面談にあたった。そこで各学生の学習や生活面での問題を確認し、アドバイザーの協力のもと、学生への指導、学習改善案などの話し合いを行った。

(ウ)学生の経済的問題：低学力の学生に対し、予備校や家庭教師の利用を勧めたが、経済的問題から予備校にいけないと答えた学生が一定数いた。コロナ禍において、

家庭の経済的困窮は顕著となっている現状がある。

2) 各委員会との連携

国家試験合格に向けて低学年から対策を講じる必要があるが、低学年では勉強習慣と効果的な学習方略の獲得が何よりも重要である。この点に関し、国家試験対策委員会だけではなく、教務委員会や学修委員会と連携して、大学一丸となって合格100%を目指す仕組みづくりが重要である。

表3 看護師国家試験結果（厚生労働省発表資料）

	総数（新卒+既卒）				新卒				既卒			
	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率
三育学院大学	47	47	42	89.4%	42	42	40	95.2%	5	5	2	40.0%
大学 ¹⁾	25,210	25,060	23,430	92.0%	24,105	24,000	22,932	95.6%	1,105	1,060	498	47.0%
全国 ²⁾	63,931	63,301	55,557	87.8%	58,215	57,860	53,903	93.2%				

1) 大学：全国の大学の結果

2) 全国：大学・短大・専門学校の結果

表4 保健師国家試験結果（厚生労働省発表資料）

	総数（新卒+既卒）				新卒				既卒			
	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率
三育学院大学	13	13	12	92.3%	12	12	12	100%	1	1	0	0.0%
大学 ¹⁾	6,934	6,893	6695	97.1%	6,614	6,592	6,495	98.5%	320	301	200	66.4%
全国 ²⁾	7,845	7,795	7456	95.7%	7,409	7,387	7,218	97.7%				

1) 大学：全国の大学の結果

2) 全国：大学・短大・専門学校の結果

自己点検評価委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委員：今野玲子、手塚早苗、山口伊作、
平澤久美子、中村信一

書記：篠原清夫

2. 所掌事項

自己点検項目に基づき、次の事項を審議する。

- 1) 自己点検評価の実施方法に関する事項
- 2) 自己点検評価結果の分析に関する事項
- 3) 自己点検評価結果に基づく改善策に関する事項
- 4) 自己点検評価結果の公表に関する事項
- 5) 「第三者評価制度」に係る事項
- 6) セブンスデー・アドベンチスト学校大学認可協会による評価に関する事項
- 7) その他自己点検評価に関する事項

以上の所轄事項に基づき、本学の教育研究に関する全学の活動状況並びに組織、施設・設備、運営の状況などについて全学的観点に立って自己点検評価を行うため、内部質保証委員会の依頼に基づき資料を集約、結果報告を行う。

3. 事業計画

以下の項目における資料収集を行い、『2021～2022年度自己点検評価書』を作成、内部質保証委員会に報告する。

【基準1 使命・目的等】

- 1-1 使命・目的及び教育目的の設定
- 1-2 使命・目的及び教育目的の反映

【基準2 学生】

- 2-1 学生の受け入れ
- 2-2 学修支援
- 2-3 キャリア支援

2-4 学生サービス

2-5 学修環境の整備

2-6 学生の意見・要望への対応

【基準3 教育課程】

3-1 単位認定、卒業認定、修了認定

3-2 教育課程及び教授方法

3-3 学修成果の点検・評価

【基準4 教員・職員】

4-1 教学マネジメントの機能

4-2 教員の配置・職能開発等

4-3 職員の研修

4-4 研究支援

【基準5 経営・管理と財務】

5-1 経営の規律と誠実性

5-2 理事会の機能

5-3 管理運営の円滑化と相互チェック

5-4 財務基盤と収支

5-5 会計

【基準6 内部質保証】

6-1 内部質保証の組織体制

6-2 内部質保証のための自己点検・評価

6-3 内部質保証の機能性

4. 活動の実際

- 1) 自己点検評価委員会活動方針の検討・確認
・本年度の活動方針を検討し、自己点検評価書の作成方針を確認した。(第1回委員会：2023年5月24日)
- 2) 自己点検評価書作成
・昨年度の委員会において『2021～2022年度自己点検評価書』の原稿執筆者を決定し(2022年度第2回委員会：2023年1月26日)、学長より執筆依頼をするとともに委員長より依頼メールの配信(2023年1月30日)を既にしてあった。

- ・上記依頼に基づき、各基準担当者を中心に原稿作成が行われ、提出・委員会による編集が行われた。(2023年1～12月)
 - ・委員会で内容を確認・修正するとともに、各基準の評価を行い、自己点検評価書を完成させた。(2023年12月24日)
- 3) 自己点検評価書の内部質保証委員会への提出・公開
- ・委員会で承認が得られた『2021～2022年度自

- 己点検評価書』を内部質保証委員会に提出し(2023年12月24日)、委員会で承認された後(2024年1月23日)、本学ホームページに公開された(2024年1月30日)。
- 4) 本年度活動の評価と課題・来年度方針検討(第4回委員会:2024年3月11日)
- 5) 『2023年度自己点検評価書』の原稿依頼の実施。(2024年3月12日)

委員会開催と議題

日 時	議 題・内 容
2023年5月24日 第1回自己点検評価委員会	2023年度自己点検評価委員会活動方針の検討 1) 『2021～2022年度自己点検評価書』作成・内部質保証委員会への報告および公表 2) 『2023年度自己点検評価書』作成のための情報収集 3) 社会に公表する「改善を要する点」の改善報告の資料収集 4) 自己点検評価のデータ収集・整理・保管方法の検討 5) 自己点検評価のスケジュールの検討 6) 「自己点検評価委員会規程」の改正への協力 7) FD教育研修への協力 8) 「日本看護学教育評価機構(JABNE)」の認証評価受審の検討
2023年10月12～16日 第2回自己点検評価委員会(メール会議)	1. 『2021～2022年度自己点検評価書』(案)の確認 2. 『2021～2022年度自己点検評価書』(案)の内部質保証委員会への提出承認
2023年12月4～11日 第3回自己点検評価委員会(メール会議)	1. 『2021～2022年度自己点検評価書』(案12.4版)の確認 2. 『2021～2022年度自己点検評価書』(案12.4版)の内部質保証委員会への提出承認
2024年3月11日 第4回自己点検評価委員会	1. 『2023年度自己点検評価書』作成方針の検討 2. 2023年度の評価と課題の検討

5. 評価と課題

本年度の中心的な活動方針である『2021～2022年度自己点検評価書』を作成し、内部質保証委員会に報告することについては計画を果たすことができた。しかし情報収集や執筆の遅れ、複数回にわたる修正により6月に完成させることはできず、内部質保証委員会への提出が大幅に遅れたことは大きな課題である。次年度は『2023年度自己点検評価書』を作成するが、目標期限に完成できるための工程表を作成、実施していく。これらの活動

を通して、2025年度に予定されている高等教育評価機構による追評価審査の準備について内部質保証委員会と連携しながら検討していく。

また全教職員が自己点検評価内容を理解し、それを踏まえた自己点検評価書作成に関わる情報共有ができる方法を構築することも課題として挙げられる。そのため自己点検評価に関する指針の作成について検討していく。

ICT 委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委員：中村信一、板橋正幸、大橋喬紀、
渡辺隆一

書記：篠原清夫

2. 所掌事項

- 1) 学内全体に関わるネットワーク環境、PC 環境等の ICT 関連事項の検討
- 2) ICT 環境整備のための提言と補助
- 3) 新入生用パソコンの選定と提言

3. 事業計画

- 1) 学内 ICT 分野に関する答申
学内の ICT に関する事項について各部署からの諮問・相談に対し、審議・答申する。
- 2) 学内 ICT 分野に関する啓発活動
教職員・学生に ICT 分野に関しての情報を提供し、ICT に関する啓発活動を行う。
- 3) 新入生用 PC の選定と答申
適切な PC を選定し、入試広報課へ答申する。
- 4) 新入生用 PC 設定・オリエンテーションの協力
入学オリエンテーション時に、大学で推奨した PC の設定と操作説明に関する協力をする。
- 5) ICT 委員会規程制定への協力
任命権者に対し規程制定の協力をし、委員会の役割を明確化する。

4. 活動の実際

- ・ 4 月：新入生オリエンテーションにおいて、委員長が ICT 担当とともに PC の設定、基本となる PC 操作、ポータルサイト、メールの扱い方などを説明
- ・ 5 月：「授業等における学生のヒアリング・データに関する指針」の策定および取り消し
- ・ 10 月：学生の使用する Mac PC 対応の検討

- ・ 12 月：2024 年度新入生の PC の選定・答申
- ・ 3 月：2024 年度新入生の PC に関するオリエンテーション内容の企画・次年度方針検討

5. 評価と課題

1) 学内 ICT 分野に関する答申

教員からの要請の基づき「授業等における学生のヒアリング・データに関する指針」を策定したが、包括的な指針の策定は他委員会等の協力が必要と判断し取り消した。「授業等における学生のヒアリング・データに関する指針」については他委員会等も交え検討が必要である。

同様に教員からの要請の基づき Mac PC の授業時の取り扱いについて検討した件に関しては、方針を出したことにより PC の支援に関して学生への対応が明確になった。

2) 学内 ICT 分野に関する啓発活動

継続検討してきた学内の Group Session の更新については、平尾正弘法人事務局長に設定の協力依頼し、使用することが可能になった。今後はセキュリティの高い https でアクセスできるように環境整備することが課題となる。学内 Google Drive・三育メールの容量制限については今後の運用方法に関して継続検討する。

3) 新入生用パソコンの選定と提言

価格・性能・保証・授業での使いやすさ等から PC を検討・判断し適切な答申が行なえたと考える。

4) 新入生用 PC 設定・オリエンテーションの協力

学生への ICT リテラシー教育は新年次オリエンテーションで ICT 担当が実施した。

5) ICT 委員会規程制定への協力

関係部署と共同で規程内容に関して引き続き検討し規程制定に向け協力していく。

委員会開催と議題

日 時	議 題
2023年5月12日～14日 第1回委員会（メール会議）	・「授業等における学生のヒアリング・データに関する指針」の策定
2023年5月16日 第2回委員会	・「授業等におけるヒアリング・データに関する指針」の取り消し ・2023年度ICT委員会活動方針の検討
2023年10月10日 第3回委員会	・学生の使用するMac PCへの対応の検討
2024年1月22日 第4回委員会	・ICT委員会の課題 2023年度入学生PC推薦機種を選定 （候補2台のPCの比較検討）、入試広報課への答申 ・Group Sessionの更新報告
2024年3月27日 第5回委員会	・2024年度入学生PCに関するオリエンテーション内容と役割 ・今年度の評価と課題

労作教育委員会

1. 構成員

委員長：田渕裕（前期半ばまで）

委員：山本理（副委員長、前期半ばから委員長代理）、
相川由紀夫、遠田きよみ、
城間俊次、棚橋浩史、田渕蒔

書記：山本理

2. 所掌事項

- 1) 教育活動としての労作のありかたの研究とその推進に関する事項
- 2) 労作に関わる学生の指導と評価に関する事項
- 3) 勤労奨学生の採用、配置、指導、および評価に関する事項
- 4) その他、労作教育に関する各種研修会、研究会の実施に関する事項

3. 事業計画

2021年度から実施されている「新しい労作教育プログラム」を引き継ぐ。必要な調整と改善を行い、学内外において安定継続を目指す。

4. 活動の実際

表1参照

5. 評価と課題

- 1) 各学期の最終回に成果発表会を実施した。班ごとに担当場所での作業内容と体験からの学びの振り返りを実施、口頭発表をすることにより追体験をすると同時に個々の学びも深まった。
- 2) 天候不順によるスケジュール変更が前期、後期ともにあった。その結果、一度も学外作に携われなかった班が存在した。体験学修のためには、より良い対応が望まれる。

表1

日 時	議 題
2023年4月10日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作オリエンテーションについて ・一年生労作の上級生ボランティアについて ・勤労奨学生について
2023年4月17日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・前期勤労奨学生 決議
2023年4月19日水曜	<ul style="list-style-type: none"> ・前期勤労奨学生 場所変更について
2023年5月1日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作 現状報告 ・勤労奨学生 現状報告
2023年5月29日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労奨学生辞退 決議
2023年6月5日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作 現状報告 ・勤労奨学生 現状報告 ・予算計画の検討決議
2023年7月3日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作 現状報告 ・勤労奨学生 現状報告
2023年8月7日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作 成績決議 ・勤労奨学生 前期人事考課決議 ・前期一年生労作振り返り ・前期勤労奨学生振り返り
2023年9月4日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作スケジュール検討 ・勤労奨学生 現状報告
2023年10月2日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作スケジュール決議 ・勤労奨学生 現状報告
2023年11月6日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労奨学生時給変更 ・一年生労作 現状報告 ・勤労奨学生 現状報告
2023年12月4日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作 現状報告：欠席の穴埋め ・勤労奨学生 現状報告
2024年2月5日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労奨学生 後期人事考課決議 ・勤労奨学生賞与 決議 ・一年生労作 現状報告 ・勤労奨学生 現状報告
2024年2月14日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労奨学生 後期人事考課決議：追加 ・勤労奨学生賞与 決議：追加
2024年3月4日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度前期 勤労奨学生 決議 ・2023年度一年生労作振り返り

宗教教育委員会

1. 構成員

委員長：長谷川徹

委員：池田直子、伊佐山流鹿、伊藤滋、近藤光
 頭、杉正純、清野星二、高橋祐希、田
 淵、玉那覇直大、福田ダニエル、諸見
 里優子、八藤愛美、山本理

書記：八藤愛美

役割分担

チャプレン（大多喜）	長谷川徹、伊藤滋、福田 ダニエル
チャプレン（東京）	近藤光頭、高橋祐希
CMC※（大多喜）	長谷川徹、伊佐山流鹿
CMC※（東京）	近藤光頭、高橋祐希
活動支援（大多喜）	杉正純、田淵、玉那覇 直大、八藤愛美、山本理
活動支援（東京）	池田直子、清野星二、諸 見里優子

※キャンパス・ミニストリー・センター

2. 所掌事項

- (1) 宗教教育の予算に関する事項
- (2) 宗教教育プログラム全般に関する事項
- (3) 学生の地域ボランティア活動に関する事項
- (4) CMC の企画する宗教プログラムに関する事項
- (5) 三育学院教会聖歌隊の活動に関する事項
- (6) 教職員の宗教的啓発に関する事項
- (7) 教授会への提案に関する事項
- (8) その他宗教教育に関する事項

3. 今年度の活動方針

本学教育事業デザインの基礎であるキリスト教教育においては、知的にキリスト教思想に触れ、自らの価値観を顧みることが奨励するとともに、礼

拝への参加やキリスト者との交流を通じた全人的なキリスト教経験を提供することを目的とする。この目的を果たすため、大多喜においてはキリスト教への「入り口」を、東京においてはキリスト教の雰囲気のある「居場所」を提供することを活動の基本的な軸とする。

4. 活動の実際

- ・バイブルウィーク（春季・秋季・卒業）・全学礼拝・ミッションデー等、全学生の参加義務のあるプログラムの企画・実行
- ・ベスパール・祈祷会・教会プログラム・スポーツ交流会等、自由参加プログラムの充実

5. 評価と課題

- ①新型コロナウイルス感染症の五類移行に伴い、各プログラムの対面実施、賛美・飲食を伴う活動が再開されたことは、宗教教育にとって大きなプラスであった。今後も感染対策を心がけつつ、交流の中でキリスト教を知る機会を増やしたい。
- ②バイブルウィークの出欠に関する規程を整備した。また、東京校舎バイブルウィークの時間割を調整し、出席率の向上が見られた。
- ③従来卒業式直前に行われていた学生バイブルウィークの日程を変更し、1月と2月の全学礼拝の時間に行った。在校生が対面でメッセージを聞き、賛美に触れることができ、宗教教育として効果的であった。
- ④卒業礼拝前日の金曜夜に卒業献身会を行い、三育で学んだことの意味を確認し、卒業後社会に奉仕する者として献身をする機会となった。
- ⑤大多喜の学寮では、学生が主体となるキリスト教活動が充実している。また、CMCスタッフが企画をしているカフェも毎週開かれ、学校の宗教教育プログラムとは異なる形でキリスト教を知る良い機会となっている。このような学生主体の学

び・賛美・祈りによる交流が、キャンパスの雰囲気向上に大きく貢献しているように思われる。

⑥宗教教育委員会は、性質上客観的評価が難しい活動を担う部門ではあるが、学生・教職員からのフィードバックとその適時活用の仕組み作りは、引き続き重要課題の一つである。

⑦学生は、教職員の姿勢からも多くを学ぶため、教職員の皆様に学生へのビデオメッセージや特別賛美歌など協力をいただいたことは宗教教育にとって利するところ大であった。キリスト教教育は一つの委員会だけではなし得ないものである。今後の活動の充実に向けての意見・提案があれば、ぜひ委員までお寄せいただきたい。

1. 委員会開催と議題

日 時	議 題
4月27日 16:10-17:40	年度方針、春季バイブルウィーク（準備進捗・欠席者対応）他
5月25日 16:10-17:40	卒業学生バイブルウィーク日程、聖歌隊夏季練習他
6月22日 16:10-17:40	大多喜 CMC スタッフ、クリスマス関係スケジュール確認他
7月20日 16:10-17:40	東京 CMC、秋季バイブルウィーク他
9月21日 16:10-17:40	学生バイブルウィークメッセンジャー候補、ハンドベル活動他
10月26日 16:10-17:40	24年度年間行事予定確認、各キャンパス活動他
11月30日 16:10-17:40	クリスマス関連学外活動、24年度バイブルウィーク講師候補他
1月15日 メール会議	卒業学生バイブルウィークプログラム確認他
1月25日 16:10-17:40	24年度全学礼拝メッセンジャー、宗教教育規定、聖歌隊方針他
2月22日 16:10-17:40	オリエンテーションスケジュール、24年度体制他

図書委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委員：相川由紀夫、杉正純、清野星二

書記：山本理

2. 所掌事項

- 1) 図書・雑誌・視聴覚資料等に関する事項
- 2) 図書予算策定と執行状況に関する事項
- 3) 図書館・図書室の運営に関する事項
- 4) その他、図書に関する事項

3. 活動方針

- 1) 学生の学修と知的活動を積極的に支援する。
- 2) 教職員の研究教育活動を積極的に支援する。
- 3) 各種研修等で修得した知識・スキルを他部門に紹介し、サービスの拡充に努める。

4. 活動の実際

- 1) 4/26 水曜 第1回
 - ・2022年度の振り返り
 - ・2023年度の計画
 - a. 図書予算について
 - b. 寄贈図書規程の整備
 - c. 図書の廃棄について(除籍に関する規程の整備)
 - d. 書籍滅菌器について
 - ・委員会の運営方針
- 2) 6/5 月曜 第2回
 - ・前期学生選書ツアー決定
 - ・後期学生選書ツアーの検討
 - ・図書予算計画の検討
 - ・図書館ツアーの検討 (N1生対象)
- 3) 10/18 水曜 第3回
 - ・図書予算計画の検討
 - ・後期学生選書ツアーの検討

5. 評価と課題

- 1) 大多喜在住の学生数減少に伴い、来館者ならびに利用者数が減少した。直接の来館に頼らない活用法の検討と実施が必要である。
- 2) 書籍殺菌機の早期導入が望まれる。
- 3) 図書館スタッフ減少により、常時開館が難しくなり、臨機応変な対応が求められた。
- 4) 寄贈図書に関する規程が存在せず、未処理書籍の整理が滞っている。規程整備が必要である
- 5) 価値の無くなった書籍の取り扱いについて、除籍・廃棄の規程整備が必要である。
- 6) 首都圏大手書店との提携による選書ツアーは好評だった。定期実施の可能性を検討する。

学修委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委員：篠原清夫、田淵路、新妻規恵

書記：山本理

2. 職務

1) 学生が学修目標を達成しうる仕組み作りに関する事項

2) 初年次教育の質的保証に関する事項

3) 初年次教育の充実と改善に関する事項

3. 今年度の活動方針

1) 学修センターの活動を通し、大学生としての学びに必要な素質と能力の向上を図るためのプログラムを企画・実行する。

2) 基礎学力の低い学生に対して個別面談を実施するとともに、学修習慣を含めた改善案を提供する。

4. 活動の実際

1) 年度始めに基礎学力確認テストを実施（学修センターに委託）

2) 国語の読解力と数学の計算力における基礎学力の底上げプログラムの実施（学修センターに委託）

- ・音読と視写のプログラムを実施（前期）

- ・計算ドリルを用いた基礎計算力向上プログラムの実施（前期）

3) 学修アンケートの実施と振り返り（学修センターに委託、N1 アドバイザー報告）

4) 学修能力向上のための各種プログラムの実施（学修センターに委託）

- ・タイムマネジメント講習

- ・タイムマネジメントノート活用法の指導

- ・ノートテイキングの種類と練習

- ・レポート作成上適切な日本語表現

- ・レポート作成の段取り

- ・KJ法を用いた活動内容の相互分析

- ・先輩学生による学修アドバイス

5. 評価と課題

1) 前期は基礎学習セミナーとの連携を行った。ノートテイキング、レポート作成、活動分析において、授業時のグループ活動を発展させることができた。しかし、各演習を十分に行うことができるほどの時間はとれなかった。

表 1. 委員会開催と議題

日 時	議 題
2023 年 4 月 18 日火曜 3 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度学生アンケート振り返り ・ 2023 年度学修センタープログラム検討 ・ 基礎学力テスト結果振り返り
2023 年 5 月 1 日月曜 3 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度活動方針検討
2023 年 9 月 25 日月曜 3 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期学生アンケート振り返り ・ 前期学修センタープログラム振り返り ・ 後期学修センタープログラム検討 ・ 入学前教育についての検討
2024 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期学生アンケート振り返り ・ 後期学修センタープログラム振り返り

- 2) 読解力向上を目的として音読と視写プログラムを実施したが、数回にとどまった。学生の負担が重く、継続できなかった。
- 3) 計算力向上を目的とした計算ドリルの活用は該当学生の半数において、終了に至った。
- 4) 各自のペースで自助学修を継続できること、また、同級生同士の学び合いを発展させていけるよう取り組みたい。

地域共創委員会

1. 構成員

委員長：平澤久美子

委員：浦橋久美子、市川光代

サムエルコランテン、新妻規恵

平田和美、メディーナ 晟生

谷口莞奈（9月末まで）

Von Doronila（10月から）

2. 所掌事項

1) 英語教育支援

(1) 県立高等学校の英語教育の質向上に関すること。

(2) 町立保育園、小学校、中学校の英語教育の質向上に関すること。

(3) 光風台小学校、三育学院中学校・中等教育学校の英語教育に関すること。

2) 健康支援

(1) 健康な地域づくりに関すること。

(2) 地域住民の QOL の向上に関すること。

3) 公開講座の企画運営

地域に開かれた大学として、本学が持つ教育・研究の成果を地域社会（東京キャンパス練馬区舎）に解放し、地域交流と教育文化の向上に貢献すること。

4) 高大連携事業

高大連携の協定調印に戻づく本学の知の財産を用いた地域高等学校への支援に関すること。

3. 活動の実際

1) 英語教育プログラム

(1) 大多喜町の町立保育園、小学校、中学校、高等学校、三育学院大学附属光風台三育小学校、三育学院中学校・中等教育学校の計9つの教育機関に

おいて、以下5名の講師で英語教育支援活動を行った。

英語教育チーム 構成員（合計5名）

スーパーバイザー：新妻規恵

チームリーダー：Samuel Koranteng

メンバー：平田和美、メディーナ 晟生、谷口莞奈（9月末まで）、Von Doronila（10月から）

(2) 大多喜町小学校外国語教育研修会（表1参照）

大多喜町教育委員会が主催する研修会が計11回開催された。英語指導力の向上や小中連携などの課題の解決について情報共有および検討を行い、連携を強めた。参加者は、小学校の英語担当の教員（主に担任）とALT、教育委員会の学校教育係の職員、英語教育アドバイザー、そして本学のスーパーバイザーであった。

(3) 授業以外の支援

・大多喜町立みつば保育園・つぐみの森保育園：親子英会話、クリスマスの英語による歌や寸劇の指導

・大多喜町立大多喜小学校・西小学校：休み時間や給食時間、読み聞かせの時間の児童との関わり

・大多喜町立大多喜中学校：英検指導、スピーチコンテスト指導、高校入試対策の指導、部活動指導、学校行事（文化祭・体育祭）への参加

・千葉県立大多喜高校：英検指導、大学入試対策の指導、英語部の活動の支援、英語による「降誕劇」の指導

・光風台三育小学校：「表現の時間」の学習発表会の英語での発表指導

・三育学院中学校・中等教育学校：部活動指導の補助

(4) 地域貢献活動

・地域の小学生向けの英語プログラム：English Café（8/8, 9, 10 午前9時-12時）、三育学院大学学生ラウンジ

・「広報おおたき」にEnglish Caféの記事を掲載した。

・英会話個人レッスン（全30回）

4名の講師により全30回実施し、本年度受講生は、小学生5人、大人2人、大学生2人で、合計9人であった。

2) 地域との連携による活動

(1) 御宿町との連携(表3参照)

御宿町との包括的連携に関する協定に基づき、以下のとおり活動が行われた。活動について、包括的連携推進会議を年2回行い、年度の計画及び進捗状況の確認をした。

① 地域保健・医療・福祉

公開講座(3.3参照)を活用し、町民の保健・医療・福祉への関心を高めた。

② 教育・人材育成

本学の教育プログラムである、専門教育科目の講師や教育ボランティアを町保健師や住民に依頼するとともに、労作教育のフィールドとして活動を展開した。10プログラムを40日間実施し、32名の住民、11名の町職員に180名の学生の教育に協力をいただいた。

③ まちづくり

学生のボランティア活動を通して行われた。4プログラムを11日間、110名の住民、19名の町職員とともに25名の学生が町づくりに寄与した。

御宿町広報紙に、脳トレのために1ページ紙面をいただき、学生の考えたクイズなどを年8か月掲載した。

多世代交流事業として、放課後児童クラブの児童や介護予防保健事業に参加している高齢者などのサポートとして活動するほか、本学の教職員によるミニ講義やレクリエーションなどを実施した。また、町と本学が企画している「世界でひとつシリーズ」は今年度で4年目を迎え定着しつつある。参加者は、児童12名、成人・高齢者15名、学生2名、スタッフ(町・本学)8名であった。本学のスタッフは、学部教員に留まらず、職員の協力も得、全学的な取り組みになった。

(2) 夷隅ひなた(中核地域生活支援センター)との協働: 居場所カフェへの参加

夷隅ひなたが中心になり、大原高等学校と居場所カフェ(県補助金事業)を月に1回実施した。夷隅ひなたから本学に学生ボランティアの依頼があり、活動を開始した。活動内容は、高校生との交流やスタッフとして物品配付・管理などであるが、学生が授業のため、参加できない月もあった。学生が参加できない時には、大原高等学校とのつながりをつけることも考慮し、学部教員およびカレッジ教員が参加した。

3) 公開講座

(1) 日 時: 2023年11月5日(日)

10時30分~12時00分

(2) 講 師: 平林あゆみ

(東京衛生アドベンチスト病院 内科医師)

(3) テーマ: 在宅医療の現状と今後について

(4) 実施方法: 東京校舎からオンライン配信

(5) 共 催: 東京衛生アドベンチスト病院

(6) 後 援: いすみ市・勝浦市・御宿町・大多喜町

参加者は118名であり、各自でオンライン参加した人が26名、いすみ市・勝浦市・御宿町・大多喜町の各会場から92名が参加した。募集案内は大学のホームページと共催である東京衛生アドベンチスト病院での案内、4市町にはポスターの掲載を依頼した。特に今年度は、4市町の保健福祉や在宅医療推進事業に携わっている保健師の方がたの多大なる協力を得ることができ、各会場に参加された地域住民との意見交換が活発に行われ、地域住民の在宅医療に対する関心の高さを感じた。また、オンラインでは東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、北海道函館市からの参加もあった。講座終了後のアンケートには貴重な意見が多数寄せられており、今後の地域共創活動を実施していくうえでの参考にしていきたい。

4) 高大連携事業

(1) 大多喜高校魅力化コンソーシアム代表者会議に参加した。

3回【6/8(木)、11/30(木)、2024/1/25(木)】

(2) 大多喜高校、総合的な探求の時間における出前授業を実施し、看護についての体験型学習を提供した。

(3) 大多喜高校イングリッシュクラブにて英語劇等の指導を行った。

4. 評価と課題

1) 英語教育支援の在り方

- ・各学校からの本学の英語教育支援の受け止め

本学が派遣する外国語講師たちへの評価は、非常に好評であったと言える。ALT(外国語指導助手)として期待されている役割(ネイティブ話者として英語使用者のモデルとなること)以上に、講師たちの個性や特技、そして人格的な魅力が殊の外、効果的に良いインパクトを与えていることが、各学校の教員や教育委員会の担当者の声としてあがっていた。講師たちの熱意や創意工夫を凝らした授業実践や教室内外での関わりが、児童・生徒や教員に高い満足度を与えていたと考えられる。

キャンパス内で週1回の英会話個人レッスンが地域の成人の受講生を対象に提供されているが、10年以上通う受講生もいる。地域に英語教室や塾が少ないため、近年は英語講師が教えている公立の小学生の受講希望者が継続的に受講をしている。地域からの本学講師による英会話レッスン受講へのニーズは一定数あるため、今後の継続の検討が待たれる。

- ・三育学院大学から公教育の現場に英語講師を派遣する意義

大多喜町と大学の英語教育の連携は13年以上にわたっている。就学前の保育園児から高等学校を卒業する生徒まで、町内全ての公立学校の英語教育の支援に本学の英語講師が携わっていること

の意義は大きい。

地域共創センター内では講師間の情報共有が密に行える環境であるため、互いに知っている具体的な対象者の成長を経年比較できるため、継続的で多面的な指導が可能となっている。そのような視点から、保育園から高校までの学びがシームレスにつながるように学習内容の順序性も意識されている。また、前任者のレクチャーや教材などが共有・保管され、後任者に引き継がれていることから、たとえ離職しても、一貫性のある英語教育が継続的に提供できている。これらの人的・物的な三育の英語教育の資源やノウハウを、今後も引き続き地域に還元していきたい。

- ・アドベンチストのクリスチャンとしての講師の役割

本学が派遣する外国人講師(日本人バイリンガル講師)がキャンパス外で果たす役割は、宣教の役割も併せ持つ。公立の学校では明確な宣教活動は出来ない中でも、人格、振る舞い、持ち物、教育活動中で使用する歌の歌詞や教材選びに至るまで、クリスチャンとしての在り方を示し、三育派遣の講師としての存在感が高められるように配慮していきたい。大多喜高校英語部の「降誕劇」の実施は好評を得た。生徒たちがクリスマスの意味を知る良い機会となった。また、夏のEnglish Caféは、普段、公立の学校で英語を学ぶ児童たちが、三育のキャンパスに足を運び、お祈りをしたり、賛美歌を歌ったりして、彼らにとって異文化であるキリスト教文化に触れる機会となった。

- ・外国人講師雇用と採用後の育成の課題

上述した通り「三育から派遣するALT」に対する地域からの期待は少なくはない。そのため、外国籍の講師の採用には、慎重なスクリーニングが必要である。また採用後も、教育委員会との連携を大事にしつつ、授業参観(外国語教育研修会)に参加したり、学内で定期的なミーティングを持ち(表

2参照)、英語講師としての資質向上と三育のミッションマインドを持った講師として管理・監督していくことが必要である。そして新規の確保の継続に努めたい。

2)地域との連携による活動

(1) 御宿町との連携

①教育・人材育成

教育活動において協力いただいた科目では、各科目で評価がされているが、学生にとっても住民にとっても評価の高いプログラムになっている。特に、学生は、リアルな演習が実践でき、学修への影響が大きいと推察される。

②まちづくり

学生にとって世代の違う児童や高齢者との交流は、コミュニケーションの取り方を考えたり、多様な価値観に触れる機会となり、人間としての幅を広げる機会である。実際、活動が学生にとってどのような意味があるのか評価がされていないため、今後、学生への影響を明らかにしていく必要がある。

(2) 居場所カフェを活用した本学の広報活動大原高等学校生徒との交流は、本学の広報活動の場にもなるため、どのような広報活動ができるのかなど入試広報課とも連携しながら活動を展開していく必要がある。

3)公開講座のあり方

現在の医療が、病院から在宅医療へとシフトしている現状から、今年度の講座は地域住民が興味関心を示すテーマであったと考えている。日本は世界でも類を見ない速さで超高齢社会へと突入しているため、高齢者に対する制度や支援体制が追い付かないことや、地域差も出ているという現状がある。今回のアンケートでも、東京ではなく参加者が生活している地域（特に夷隅郡市）の現状を知りたいとの意見も数件あった。次年度も、今回同様の健康に関する講座を企画するのであれ

ば、地元で保健福祉事業を実践している保健師と話しあいを重ね、テーマや実施場所・方法を決めていく必要がある。そうしたうえで、公開講座の目的である「地域交流と教育文化の向上に貢献」できるような企画を考えていく必要がある。

表1 大多喜町小学校外国語教育研修会

研修会の目的	開催日
全体研修会（大多喜小・西小合同）	4/14, 8/17, 3/1
授業参観および授業後の協議会・指導	5/19, 5/26, 6/23, 7/4, 7/6, 9/28, 11/29
授業参観（大多喜中）、小中連携	7/3

表2 英語教育チーム月例ミーティングの開催日と議題

日時	議題
2023年4月11日 14:40-16:00 第0回 Kickoff Meeting	<ul style="list-style-type: none"> 英会話レッスンの在り方について 就業規則などの労務規程の確認 英語講師間のレッスンプランの共有
2023年4月27日 16:30-18:00 第1回	<ul style="list-style-type: none"> 地域共創センター長辞任にあたっての挨拶 町内公立保育園・小・中・高、系列三育小・中の各授業実践報告
2023年6月8日 16:10-18:10 第2回	<ul style="list-style-type: none"> 地域共創センター長赴任の挨拶 英会話個人レッスンについて 2名の退職予定講師の後任候補について 夏のEnglish Caféの企画の提案 教育委員会、公立小学校、本学ALTとの情報共有のためのオンラインツール「Teams」の導入について 各講師の授業実践報告
2023年6月29日 16:30-17:40 第3回	<ul style="list-style-type: none"> 夏のEnglish Caféの検討 「Teams」の活用と使用感についての共有
2023年7月19日 14:00-15:20 第4回	<ul style="list-style-type: none"> English Caféの進捗状況確認、詳細の検討 日程：8月8日, 9日, 10日 午前9時-12時 1学期の各講師の授業実践報告、教育活動全体の振り返り
2023年9月28日 16:30-17:10 第5回	<ul style="list-style-type: none"> 退職セレモニーおよび後任英語講師の歓迎 English Caféの振り返りおよび報告書作成について
2023年10月19日 16:10-17:10 第6回	<ul style="list-style-type: none"> 英語講師間での業務の把握について 各講師の授業実践報告、振り返り、困りごとの共有 少人数でも可能なVocab Activitiesのアイデア共有 「Teams」を活用した次年度へ向けた教材・資料の保管と活用について 大多喜町住民からの協働での取り組み要請に関する検討 「広報おおたき」にEnglish Caféの記事掲載（10/24発行）
2023年11月16日 16:30-17:30 第7回	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の親子英会話開始および活動報告 各講師の授業実践報告
2023年12月21日 15:00-16:30 第8回	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の親子英会話教室の活動報告 各講師の授業実践報告、課題の共有 大多喜町住民との協働企画の下見として行った12/11「味の研修館」訪問の報告。
2024年1月25日メール会議 第9回	<ul style="list-style-type: none"> 各講師の授業実践の報告
2024年2月29日 16:45-17:55 第10回	<ul style="list-style-type: none"> 各講師の授業実践の報告 英語教育実践を経験して培った「教育観」についての共有

表3 2023年度御宿町・三育学院包括連携推進に関する実績

	企画数	実績(延べ人数9)					
		日数	住民	町職員	学生	大学教職員	
地域保健医療福祉	1	1	24	2		6	
教育・人材 育成	実習	2	19		2	7	2
	講師	2	2	1	1	26	5
	看護教育ボ ランティア	5	8	28	7	86	14
	労作	1	11	3	1	61	24
小計	10	40	32	11	180	46	
まちづくり	脳トレ	1	8		2	10	2
	梅ジュース づくり	1	2	97	16	10	16
	介護予防 事業	1	1	13	1	5	2
	世界にひと つシリーズ	1	1	27	3	2	5
小計	4	12	137	22	27	25	
合計	15	53	193	35	207	77	

衛生委員会

1. 構成員

委員長：杉正純

伊藤真夏（産業医）、小田朋子（衛生管理者）、松本浩幸（保健センター長）、新城明子、平田まき

2. 審議事項

衛生委員会は次の事項を審議または実施する。

- 1) 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- 2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
- 3) 労働災害の原因及び再発防止で衛生にかかるものに関すること。
- 4) 定期に行われる健康診断、臨時の健康診断、自発的健康診断及びその他に行われる医師の診断、診療又は処置並びにその結果に対する対策の樹立に関すること。
- 5) 長時間にわたる労働による教職員の健康障害の防止を図るための対策の樹立に関すること
- 6) 教職員の精神的健康の保持増進を図るための対策の樹立に関すること。
- 7) その他安全衛生に必要と認められる重要な事項に関すること。

3. 活動方針

2023年9月から毎月1回衛生委員会を開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進を図る。

4. 活動目標

- 1) 毎月1回衛生委員会を開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進について検討する。
- 2) 衛生委員会規定について作成する。
- 3) 希望者や高ストレス者に対して面談し、必要なサポートを行う。

5. 活動内容

表 1. 衛生委員会開催実績参照

6. 評価・課題

保健センターに専任の看護師が配属され、産業医も衛生委員会に加わった。

2023年9月より三育学院大学衛生委員会を立ち上げ、月に1回のペースで衛生委員会を開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進について検討した（表1参照）。

大学では、勤怠管理システム（ハ-メス）を導入し教職員の勤怠状況と長時間労働の実態把握及びメンタルヘルス、休職者、労災件数の把握など幅広いテーマで衛生委員会活動を行ってきた。また、衛生委員会活動の指針となる三育学院大学衛生委員会規程の作成を行ってきた。更に、年度末には2024年度の年間の活動計画を立案した。2024年4月から実際に教職員が働いている職場（東京校舎/大多喜校舎）を巡視する予定である。今後、職場巡視、定期健診、労働時時間の把握、ストレスチェック等を実施する中で、教職員の健康障害の防止や健康の保持増進に努めてゆく。

表 1. 衛生委員会開催実績

回	開催日	議 題
1	9月22日(金) 10:30~11:15	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日労働者について ・全ての労働者の労働時間の把握 ・面接指導の実施方法・実施体制について ・面接指導等の申し出について ・面接指導者等の申し出を行ったことにより不利益な取り扱いが行われないような対策・接指導者等を実施する場合の基準策定について
2	10月20日(金) 13:10~14:15	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回衛生委員会会議事録について ・衛生委員会規程について ・長時間労働者の健康障害の防止を図るための対策 ・時間管理について
3	11月29日(水) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回衛生委員会会議事録について ・衛生委員会規程について ・勤怠システム（ハ・モス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・委員長より（杉学長）
4	12月14日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回衛生委員会会議事録について ・衛生委員会規程について ・勤怠管理システム（ハ・モス）による教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について ・委員長より（杉学長）・産業医より（伊藤先生）
5	1月25日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回衛生委員会会議事録について ・三育学院大学衛生委員会規程について ・勤怠管理システム（ハ・モス）による教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について ・職場巡視について（伊藤先生・小田先生）・委員長より（杉学長）
6	2月22日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回衛生委員会会議事録について ・衛生委員会規程について ・勤怠管理システム（ハ・モス）による教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について ・職場巡視について ・年報の作成について ・有給休暇取得状況 ・24年度の方針について ・24年度の委員会日程
7	3月13日(水) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回衛生委員会会議事録について ・議事録の書式について ・衛生委員会年報について ・勤怠管理（ハ・モス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有給取得状況 ・24年度委員会日程について ・24年度の方針に ・長時間労働者に疲労蓄積チェックリストを実施について

保健委員会

1. 構成員

委員長：松本浩幸

書記：小田朋子

委員：松本浩幸、小田朋子、平田まき、玉那覇文美

2. 職務

保健センター業務の企画、運営、検討

- 1) 学生の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること
- 2) 学生の予防接種に関すること
- 3) その他学生の保健に関すること
- 4) 教職員の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること
- 5) 教職員のストレスチェックに関すること

3. 活動方針

2023 年度の方針と年間計画

活動方針

学生・教職員が、意識して感染症防止対策に取り組み、感染後は迅速かつ的確な対応・対策に乗り出し、学生及び教職員が安全で安心した学生生活を送ることができるよう支え、心身の健康保持増進について自己管理できるよう支援する。

活動目標

- 1) 感染症に対する予防及び対策ができ、かつ感染後は迅速に対応することができる。
- 2) 身体的及び精神的な健康相談が気軽に行えるよう窓口を保健センターに設置する。
- 3) 救急処置が必要な学生・教職員に対し、的確に判断し救急対応することができる。
- 4) 定期健康診断およびストレスチェックを実施し、健康面でサポートすることができる。
- 5) 学生の保健・健康に関する必要な教育および指導を行うことができる。

4. 活動内容

1) 保健委員会

毎月1回の保健委員会を11回開催した(表2参照)。

5月8日以降、新型コロナウイルスは5類に分類変更があった。当大学においては寮生活のため感染症による感染拡大が起りうる環境にあるため、引き続き感染予防対策に注力した。

2) 保健センター活動内容

2023年3月より正規看護師の配属が決定され、保健センターは常時開放となった。

2023年の5月より新型コロナウイルスが5類に移行されたことで、学生・教職員の活動が活発となり、体育館や運動場での活動の機会が増えたことで、整形外科関連の受傷者が増え、健センター利用と外部クリニック受診者の増加がみられた。

感染対策については感染力の強いインフルエンザ、新型コロナウイルスの罹患が増える冬季に備えてインフルエンザ・コロナウイルス両方の検査が行える抗原キットを購入。引き続き

感染者の動態に注意し、基本的な感染予防対策について適宜注意喚起を行った。

寮内で感染者が出た場合は寮監と連携をとり、寮内に確保した隔離部屋を使用し感染者を隔離。運搬食の手配、お風呂時間設定、トイレの分離、換気、同室者へ注意喚起を行い、寮生に対しても、繰り返し基本的な感染予防対策の徹底を行った。

授業に関しては教務課へ連絡し、感染症の報告、病気療養期間について等の必要事項を報告し、学部の教員に連絡をしていたことで連携がスムーズに行えた。

年間計画

表 1. 三育学院大学保健センター年間計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新生生に対し健康管理ノートの活用方法説明 (B型肝炎・麻疹・風疹・ムンプス・水痘) ・ 予防接種のスケジュールについて指導 ・ 救急箱の配布・指導 (配置場所：ミルテ・スミルナ寮、カレッジ寮) ・ 保健委員会 1回/月
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回献血調整会議 (千葉県赤十字血液センター担当者と日時調整) ・ 防錆訓練 (救急用品の確認・担架の準備) ・ 保健委員会 1回/月
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6/1 定期健康診断：教職員・看護学科1年・2年・保健指学科4年生・神学科 (血液検査、尿、胸部レントゲン、心電図、視力検査等) ・ 6/8 献血：第1回目 (年/2回) ・ 保健委員会 1回/月
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健康診断・要再検査学生、教職員への対応 ・ 看護学1年生・2年生、神学科予防接種について説明と指導 ・ 保健委員会 1回/月
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常備薬の補充・点検 (富士薬品へ依頼) ・ 害中対策教育 (ポイズンリムーバーの取り扱い方)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフルエンザ注意喚起 ・ 私学共済へ健康診断報告 ・ 保健委員会 1回/月
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎病院病院長 (学校医) とインフルエンザ予防接種調整 ・ 保健委員会 1回/月
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎病院 (学校医) にてインフルエンザ予防接種 ・ 保健委員会 1回/月
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/12 献血第2回目 (年/2回) ・ 保健委員会 1回/月
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健所へTB検査報告 ・ 私学共済健康診断最終報告 ・ 保健委員会 1回/月
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健委員会 1回/月
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急箱の確認と配置 (配置場所：ミルテ・スミルナ寮、カレッジ寮) ・ 保健委員会 1回/月

表 2. 保健委員会活動内容

回	開催日時	テーマ	参加者	場所
1	3月30日(木) 16:30~17:30	・2023年度の方針と年間計画、方針の確認、活動目標の確認 ・2022年度年報確認。・4月予防接種オリエンテーションの確認 ・学内学生の予防接種時期の確認 ・学内感染対策について ・抗原検査キット運用と管理について ・2023年度の年間計画の再確認	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇文美(委任)	大多喜 保健セン ター
2	5月16日(火) 13:30~14:50	・4月議事録の確認 ・6月大多喜健康診断体制 ・海外研修予防接種 ・学内感染対策確認 ・感染症マニュアル改定 ・第1回目献血 ・その他ポイズンリムーバー使用方法と熱中症について説明会	松本(司会)、小田(書記)、 玉那覇(文)、平田	大多喜 保健セン ター
3	7月4日(火) 9:00~10:45	・中学校との交流会について ・出校停止の条件の確認 ・海外研修 ・今後の感染対策予防接種状況 ・健康診断振り返り ・AED管理につ いて ・ストレスチェック ・カレッジの予防接種	松本(司会)、小田(書記)、 平田、石渡、田淵蒔	大多喜 保健セン ター
4	8月24日(木) 14:30~15:50	・ストレスチェックの確認 ・後期入寮者感染対策確認 ・海外研修振 り返り ・インフルエンザ予防接種の実施方法について ・新型コロナ 予防接種確認 ・後期保健センター体制について	松本(司会)、小田(書記)、 玉那覇文美、平田、新城	大多喜 保健セン ター
5	9月22日(金) 13:00~14:30	・後期保健センター体制について ・救急箱の取り扱い ・予防接種の 確認ルート ・インフルエンザワクチン ・次年度健康管理ノートの確 認 ・献血について(2回目)	松本(司会)、小田(書記)、 玉那覇文美、平田、新城	大多喜 保健セン ター
6	10月20日(金) 10:30~12:00	・インフルエンザ予防接種 ・学内感染状況、対策確認 ・年間行事確 認 ・規程の改定	松本(司会)、小田(書記)、 玉那覇文美、平田	大多喜 保健セン ター
7	11月29日(水) 13:00~	・2024年度 健康診断日程確認 行事 ・保健センター規程確認 ・平田Ns寮監補佐に伴う勤務体制 ・年末年始の学生の体調管理につ いて ・インフルエンザ実施状況 ・入学前案内:カレッジについて	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇文美(委任)	大多喜 保健セン ター
8	12月14日(木) 11:00~12:00	・規程の確認 ・保健センターの予防接種業務について ・12月12日の 献血の実施状況報告	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇文美(委任)	大多喜 保健セン ター
9	1月25日(木) 13:30~13:30	・コロナウイルスの感染状況について ・保健センター規程、保健委員 会規程について ・新年度予算について	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇文美(産休)	大多喜 保健セン ター
10	2月22日(木) 13:00~14:00	・新年度の感染対策 ・学生カルテについて ・年報について ・新年度方針について	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇文美(産休)	大多喜 保健セン ター
11	3月18日(月) 13:00~14:00	・保健センターオリエンテーション ・予防接種オリエンテーション ・年報について ・新年度方針と年間計画について ・新年度スケジュール	松本(司会)、小田(書記)、 平田、玉那覇(産休)	大多喜 保健セン ター

表 3. 保健センター（大多喜・東京）の月別の学生・教職員利用状況

利用月	1年	2年	3年	4年	神学科	総件数	教職員
4月	24	17	1	6	5	53	7
5月	10	11	5	4	7	37	6
6月	18	15	0	8	9	50	7
7月	26	22	2	9	11	70	1
8月	6	0	0	0	0	6	1
9月	10	0	0	6	4	20	0
10月	28	0	0	13	3	44	4
11月	22	0	0	21	2	45	0
12月	20	0	0	8	1	29	2
1月	27	0	0	14	10	51	7
2月	9	0	0	1	4	14	5
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	200	65	8	90	56	419	40

表 4. 学生（看護学科・神学科）・教職員の目的別利用件数

利用領域	学生件数	学生割合	教職員件数	教職員割合
内科	85	57.00%	4	4.90%
コロナ関連	30	20.10%	11	13.40%
外科	17	11.40%	1	1.20%
整形外科	77	51.70%	6	7.30%
皮膚科	38	25.50%	4	4.90%
婦人科	17	11.40%	0	0.00%
眼科	12	8.10%	2	2.40%
耳鼻咽喉科	26	17.40%	0	0.00%
歯科	15	10.10%	1	1.20%
メンタル	22	14.80%	0	0.00%
保健指導	2	1.30%	0	0.00%
予防接種	34	22.80%	3	3.70%
相談	12	8.10%	2	2.40%
その他	32	21.50%	6	7.30%
	419	100.00%	40	100.00%

①学生、教職員の保健センター利用状況

大多喜校舎に於いては、大学の校医、近隣の病院のサポートを得ながら保健センターが中心となって、学生、教職員の健康管理を行った（表 3、表 4）。多くの学生が学寮に入寮しているため、夜間は寮監、授業時間は保健センターで対応した。大多喜では大学の立地上、受診、通院に不便さが伴う為、寮監や保健センターが必要に応じ病院への送迎を行った。また、各寮や教務課・管理課に救急処置に用いる消毒薬、富士薬品常備薬を配置し、夜間帯や休日などに対応できるように

した。

東京校舎に於いては、実習病院が隣接しているため、病院の支援を得て、学生の健康管理を行なった（表 3、表 4）。三育学院大学・カレッジ教職員の保健センター利用状況を表にした。

②感染対策

表 3. 学生（看護学科・神学科）・教職員の目的別利用件数の中で、新型コロナウイルス感染症について、学生（看護学科・神学科）は 20.1%、教職員では 13.4%と昨年と比べ大幅に減少となった。要因としてワクチンの接種

率の増加、学生自身が感染し免疫を持ったことも大きな要因と考える。

③定期健康診断、看護実習に関する健康管理支援

4月から6月にかけて、全学年及び、教職員（中・大）を対象に、定期健康診断を実施した。看護学科は、1年次にHBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、QFT検査、四価抗体検査（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）を行なった。2、3、4年次もHBs抗原・抗体検査を実施した。神学科新入生は心電図と四価抗体検査を行った。健康診断結果に於いて、要精密検査、要治療、要観察の指摘を受けた学生及び教職員には、受診勧告・保健指導・健康相談などを個別に実施した。今年度より聴力検査にオーディオメーターを採用した。

④実習に必要な予防接種の推奨

a. インフルエンザの予防接種

冬季に流行するインフルエンザの予防対策として全学生に予防接種を推奨している。本年度は、学校医が院長である川崎病院で11月17日（金）・11月24日（金）にインフルエンザ接種の枠を設けていただき、学生23名と教職員5名がインフルエンザワクチン接種を受けた。

b. 他予防接種に関すること

新型コロナワクチンについては②を参照。

⑤学生相談

2023年度の学生相談の内訳は下記の表（表5）の通りである。

大多喜ではWEBで、東京では対面で臨床心理士がそれぞれ学生相談を行った。

5. 評価・課題

1) 2023年3月に常勤の看護師が配属された。常勤の看護師は保健センターの要となり、学生教職員の健康面のサポートを行った。看護師が定着して業務を遂行できるように体制を整える必要がある。

2) 2023年5月8日から新型コロナウイルスが2類相当から5類となった。学内でも複数の新型コロナウイルス感染が発生することがあったが、関係者で状況の把握と情報共有をし、適切に対処し、授業や学生が学生生活に大きな影響はでなかった。今後も学校医、教務・学生課など学内外の関係者と連携して対応してゆく必要がある。

3) 実習に向けた学生の予防接種について、実習WGに協力して検討している。今後、新型コロナウイルス、インフルエンザの流行以外にも麻疹の流行が考えられ、実習に必要な予防接種のサポートを確実にやりたい。

4) メンタル面で体調を崩す学生が目立ってきている。教務・学生課や学生委員会、寮監やカウンセラーと連携をとりながら学生をサポートしていく必要がある。

5) 2023年9月から衛生委員会が発足した。これまで、教職員の健康診断とストレスチェックは保健委員会が担っていたが、2023年9月から衛生委員会で担うこととなった。

表5 学生相談内訳

学期	人数	看護学生	神学学生	教職員	対人	危機	教員学生	家族	学業仕事	性格	健康	寮生活	進路	DV・ストーカー等	過去	服薬	カンファレンス	備考
前期	6	6			2	3	2	2	5	2	1				1	1		すべてwebでの相談
後期	19	12	2	5	2	2	2		11	4	11	2	1	3	2		2	12件webでの相談

IR 委員会

1. 構成員

委員長：松崎敦子

委員：遠田きよみ（副委員長）、北田ひろ代、
玉那覇文美、平澤久美子

2. 職務

学生の学修に関するデータを収集・分析し、質の高い学生確保及び教育の質向上のための基礎資料として報告すること。

3. 今年度の活動方針

- 1) データ収集に関する活動：教務・学生課、入試・広報課、及び各委員会等でデータ収集・分析しているデータを収集する。また、学生のジェネリックスキルを把握するため、PROG（株式会社リアセックが提供するジェネリックスキルのアセスメントテスト）を実施する。
- 2) データ分析に関する事項：各部署及び委員会からデータ分析の依頼があった際には、必要なデータを共有していただいた上で、分析し結果を共有する。また、PROG から得られたリテラシー及びコンピテンシー能力を横断的に分析する。
- 3) 大学への報告に関する事項：分析したデータを各部署、委員会等で活用していただけるよう、基礎資料として報告する。
- 4) 学生への働きかけに関する事項：PROG 実施後、各学年において解説会を開催し、学生のジェネリックスキル向上及び活用方法について説明する。解説会を開催できない場合には、録画映像を配信し学修できる環境を整備する。

4. 活動の実際

- 1) IR 委員会の開催（表1）

- 2) データ収集に関する活動：4 月に入学者のデータを入試・広報課と共有し、8 月及び3月に学生の成績及び身分変更等に関するデータを教務課と共有した。ジェネリックスキルのアセスメントに関しては PROG を活用し、1, 4 年生にはリテラシー及びコンピテンシーテストを、2, 3 年生にはコンピテンシーテストを実施し、そのデータを収集した。
- 3) データ分析に関する活動：PROG から得られたリテラシー及びコンピテンシー能力を学年毎に比較し、成績との相関関係を明らかにした。また、本学3年生のコンピテンシー能力が他大学看護学部学生と比較して有意に低かったことを受け、その要因を明らかにした。
- 4) 分析結果報告に関する活動：第3回教授会にて、1 年生に実施した外部講師による解説会の概要について説明し、録画映像を配信した。第4回教授会にて1年生の PROG 結果と基礎実習 I での活用について報告した。第8回・9回教授会にて、3, 4 年生の PROG 結果報告をした。第14回教授会にて、PROG 結果の全学年のまとめ、他大学学生との比較、及び本学学生の特徴を報告した。3 月には学生の弱みを強化するための指導案を4項目作成し、教職員へ配布した。
- 5) 学生への働きかけに関する事項：PROG の結果が出た後、学年ごとに解説会を実施した。1, 2 年生には、主に「自身の強みと課題の考え方」と「成長のためにできること」を伝えた。3 年生には上記に加え「個人の特長を実習及びグループで活かす方法」を、4 年生には「卒業後のジェネリックスキルの伸ばし方」についても説明した。

5. 評価

- 1) データ収集に関する活動：データ共有は担当者を通じて円滑に行われたが、今後は分析に必要なデータを適宜使用できるようデータの一元化が必要であると考え。教職員や各委員会との連携に関しては積極的に行われることがなかったため、今後は IR 委員会の活動を周知できる取り組みを積極的に行う必要がある。PROG については初めての取り組みであったが、担当者と綿密に連絡を取り合うことでスムーズに進められたと考える。
- 2) データ分析に関する活動：PROG の結果と、入学時の成績（高校偏差値、評定値、面接点等）、そして入学後の成績（GPA）との関連を明らかにすることで、本学学生の特徴と、低学力の学生の課題が明らかになった。今後は PROG の結果を縦断的に分析していくことで、本学の教育の成果を明らかにしていく。
- 3) 分析結果報告に関する活動：教授会での報告は、短時間ではあったものの、PROG の説明から結果、分析に至るまで継時的に報告できたと考える。また、PROG で得られた結果から指導案を作成し配布できた点も意義は大きい。今後は PROG の結果と教育との連携についても分析が必要となると考えている。
- 4) 学生への働きかけに関する活動：今年度は PROG 実施初年度であったこともあり、全学年への解説が必要となった。来年度以降はより効率的に働きかけをしていきたい。また、今後は学生たちが PROG の結果を学修、就職、そして自己理解のために利用できるよう、よりきめ細やかな指導をしていきたい。

表 1 IR 委員会の開催

日時	議題
4月18日(火)	1. 委員会での活動内容に関する事項 2. PROG アンケート内容に関する事項
5月29日(月)	1. 株式会社リアセックからの結果報告と実施に関する事項
6月7日水	1. PROG 実施に関する事項 ・データ収集方法、分析方法、大学への報告内容、学生への働きかけ
10月18日(水)	1. 株式会社リアセックからの結果報告と結果に関する事項
1月11日(木)	1. PROG 結果及び分析に関する事項 2. 教育及び入試広報での活用方法について 3. 今後の方針について

ハラスメント防止委員会

1. 構成員

委員長：後藤佳子

委員：新城明子、池田直子

2. 所掌事項

- 1) ハラスメント防止のための啓発
- 2) 学内でハラスメントが起こった場合の対応

3. 活動の実際

2023年度内におけるハラスメントの訴えがなかったため、委員会は開催されていない。

学生にハラスメントを訴える窓口を提示した。

5. 評価と課題

- 1) ハラスメントに関する啓発活動が不足しているため、次年度は企画を検討する。
- 2) ハラスメントを訴える窓口は提示したが、学生に十分認識されていない可能性があるため、わかりやすく提示していく。

防災（危機管理）委員会

1. 構成員

委員長：杉 正純

委員：平野美理香（副委員長：東京）、
山口伊作、福島正夫、後藤佳子、
平澤久美子、松崎裕重、棚橋ゆか

2. 所掌事項

- 1)大学の防災ならびに危機管理に関する事項
- 2)関連規定の整備に関する事項
- 3)その他必要と認める事項

3. 今年度の活動方針

- 1)大多喜キャンパスならびに東京校舎での防災訓練を計画、実行する。

4. 活動の実際

1)委員会開催と議題

3月2日開催 式典時（卒業式）の対応について

2) 防災訓練の実施

(1)大多喜キャンパス防災訓練 4月13日

大多喜キャンパスの防災訓練は、1年生、2年生、4年生（保健師課程）、神学科生を対象に地震を想定した避難訓練を行った。地震後の火災を想定し、実際に消火訓練を行い、消火器について説明と使い方を消防署員より説明していただいた。

(2)東京校舎防災訓練 4月13日

東京校舎の防災訓練は、3・4年生を対象に、広域避難所であるはらっぱ公園まで避難しながら移動時の防災拠点（警察や病院など）をチェックする形で訓練をおこなった。

3)3月2日（土）式典（卒業式）時の対応について

房総半島沖を震源とする群発地震が続いていることを受け、卒業式において避難経路等を来場者に

アナウンスした。

5. 評価と課題

大多喜キャンパスの防災訓練は、火災発生の連絡を内線で行ったが、災害が起きた時は内線を使用できない可能性が高いため自動火災報知設備の電話機能を使用した訓練も今後検討していきたい。また、以前から課題となっている校内放送の聞こえない施設について、早急に対応を検討したい。

東京校舎の避難訓練は、学生が広域避難所を自分の目で確認できたことによって実際に被災した場合に具体的な行動につながると考える。幅広い対応を考え、次年度は消防署による訓練を想定する。

SD 委員会

1. 構成員

委員長：山口伊作

副委員長：中村信一

委員：平澤久美子、新城明子

2. 所掌事項

1) 職員の資質向上に関する事項

2) 研修会の実施に関する事項

3) その他 SD に関する事項

3. 事業計画

1) 職員個々の資質向上を図るため、SD 研修会（全体研修）を実施する。

2) 職員個々の資質向上を図るため、それぞれの業務にあわせた研修参加を促す。

4. 活動の実際

1) 委員会の開催：表 1

2) SD 研修会の開催：表 2

3) 個別研修の参加状況：表 3

5. 評価と課題

大学の優先課題である内部質保証の取組みについて各職場での理解を深め対応するため、FD と合同の全学研修、また分科会として SD 研修の機会を夏と冬の 2 回行った。SD は部署による職務内容、課題、内部質保証に対する理解度等に差異があり、SD 全体として理解、目標を共有するために継続的な取組が必要である。

部署ごとの研修は例年とおおり個別研修を中心に行った。

表 1 委員会の開催状況

開催日	議 題
第 1 回 2023 年 7 月 13 日	1. 年間計画・方針 2. SD 研修会計画
第 2 回 2023 年 7 月 26 日	1. 職員研修（労務管理）内容検討
第 3 回 2023 年 11 月 1 日	1. 第 1 回 SD 研修の振り返りと第 2 回 SD 研修内容の検討
第 4 回 2023 年 12 月 15 日	1. 第 2 回 SD 研修内容の検討
第 5 回 2024 年 3 月 7 日	1. 2023 年度総括

表2 SD研修会の開催

開催日	内 容	参加者
8月23日	FD/SD 合同研修：認証評価へ向けた取組み ～現状と今後に向けた計画～ SD研修：・組織の強み ・職場・業務の課題、改善点	30名
12月25日	FD/SD 合同研修：アセスメントポリシープランの進め方 SD研修：・全体研修（学長より） ・グループディスカッション	31名
2024年 3月25日	ハラスメント研修会 「キャンパス・ハラスメント防止研修」 講師：公益財団法人21世紀職業財団	53名

表3 個別研修

日程	主催者	内容	参加者
6月27日	千葉県夷隅健康福祉センター (夷隅保健所)	令和5年度給食施設管理者・従事者講習会	2名
7月～8月	筑波大学ヒューマンエンパワ ーメント推進局	多様な学生支援スキル養成プログラ ム：基礎コース	1名
8月22日	一般社団法人日本看護学教育 評価機構	特別講演「教学マネジメント：基礎 と応用」 パネルディスカッション「受審準備 と受審により生じた学内外の変化」	1名 (他教員 4名)
8月23日	文化庁国語科	令和5年度国語問題協議会「日本語 をどう書くか」(オンライン)	1名
8月28日	千葉県地域保健福祉課	夷隅郡市栄養士会総会・研修会	2名
8月31日	グレープシティ株式会社	インボイス制度講習会	5名
9月22日	グレープシティ株式会社	インボイス制度等法改正に関わる会 計ソフトの新機能説明会	1名
9月29日	千葉県私立大学短期大学協会	私立大学を取り巻く現状と課題につ いて	4名
10月16日～ 11月6日	一般社団法人私学研修福祉会	大学経理部課長相当研修会	1名
10月17日	一般社団法人千葉県調理師会	千葉県調理師講習会	1名
10月20日	千葉県夷隅健康福祉センター (夷隅保健所)	令和5年度地域における健康づくり 推進講演会	2名
11月27日	学びと成長しくみデザイン研	学修成果の可視化の実質化と教学マ	5名

	研究所	ネジメントの確立に向けて	
12月6日	千葉県調理師会	千葉県調理師講習会	1名
2月15日	日本学生支援機構	令和6年度業務説明会	1名
2月27日	千葉県夷隅健康福祉センター (夷隅保健所)	令和5年度給食施設研修会	2名
3月5日	厚生労働大臣指定法人・一般社 団法人いのちを支える自殺対 策推進センター	大学生の自殺を防ぐ —教職員にできること—	1名

教学委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委員：市川光代、齋藤泰子、鈴木美和

書記：諸見里優子（東京校舎教務大学院担当）

3) 学生の入学・休学・退学等、身分異動に関する事項

4) 研究科長が諮問した事項及び運営会議が付託した事項に関する事項

2. 所掌事項

1) 教育課程に関する事項

(1) 教育課程の運営に関する事項

- i 年間授業計画に関する事項
- ii オリエンテーションに関する事項
- iii 履修要項に関する事項
- iv 学位審査に関する事項
- v その他教育課程に関する事項

(2) 教育課程の評価方法の検討

(3) 試験及び単位の認定に関する事項

2) 学生支援全般に関する事項

(1) 生活指導に関する事項

(2) 健康管理に関する事項

(3) 履修指導に関する事項

(4) 奨学金に関する事項

3. 事業計画

1) 今年度より新カリキュラムが開始となり、適応となる新入生に着実に実施する。

2) 修士論文作成過程における研究計画書の提出、演習、発表会について、これまで3年間の院生の学修状況を踏まえ、より効果的かつ円滑な論文作成に繋がるようスケジュールを見直し、提出物や発表会の開催方法についても改善を図る。

3) 学生生活や履修について、迅速丁寧かつ適切に学生に対応する。

4) 入学者の獲得に向け、広報の充実を図る（在学生への周知強化、HPの充実など）とともに関連病院との協力体制をより強化する。

5) 2024年度入試（Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期）を円滑に実施する。

4. 活動の実際

1) 委員会の開催

月 日	議 題（検討事項、報告事項）
第1回 2023.4.18 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 第11回教学委員会議事録の承認 ・2023年度の教学委員会活動方針について確認 ・2024年度学生募集要項大学院入学ガイド、募集チラシについて ・修士論文執筆ガイドラインの文献の記載について ・M1の合同演習〔前期：実践看護学演習Ⅰ〈事例分析〉、後期：特別研究Ⅰ〈第1回研究計画発表会〉〈第2回研究計画発表会〉〕について ・修士論文審査関連：修士論文中間発表会の開催について、学位論文審査関連書類の配信について報告

第2回 2023.5.23(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第1回教学委員会議事録の承認 ・2023年度の主・副研究指導教員について ・2023年度修士論文中間発表会、M1の合同演習〈事例分析〉について、時間、場所、参加形式等の確認 ・2024年度大学院入試の広報、募集について報告
第3回 2023.6.13(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第2回教学委員会議事録の承認 ・授業（前期共通科目：必修科目）アンケート実施について報告 ・2024年度大学院Ⅰ期入試の広報、募集について報告
第4回 2023.7.18(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第3回教学委員会議事録の承認 ・前期科目の成績の入力（教務課への提出）について報告 ・2024年度大学院Ⅰ期入試の応募状況について報告 ・昨年度退職し、本年2023年度より専任教員ではないことに伴う、【2023年度大学院履修要項（シラバス）】の修正について報告
第5回 2023.8.29(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第4回教学委員会議事録の承認 ・前期の成績判定 ・2024年度大学院Ⅰ期入試の応募状況について
第6回 2023.9.12(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第5回教学委員会議事録の承認 ・第1回研究計画（研究テーマと方向性）発表会（10/5）の実施について報告
第7回 2023.10.17(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第6回教学委員会議事録の承認 ・2025年度大学院入試関連スケジュール（年間行事予定に反映）について ・2023年度修士論文審査スケジュールについて確認 ・2024年度大学院Ⅱ期入試の応募状況について報告 ・学外者の大学院ゼミ参加について
第8回 2023.11.14(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度第7回教学委員会議事録の承認 ・2023年度Ⅱ期入試関連日程について報告 ・2023年度修士論文審査 主査・副査（案）について検討 （予定していた12月12日は、Ⅱ期入試の資格審査がないので休会）
第9回 2024.1.16(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第8回教学委員会議事録の承認 ・2024年度Ⅱ期入試(1/21)の実施について、実施要項等の確認 ・第2回研究計画発表会（特別研究Ⅰ：合同演習）2/8(木)の実施について報告 ・2023年度修士論文発表会・大学院教授会（判定会議）2/15(木)の時間について確認 ・後期成績の締切り、提出先についての報告（教務・学生課大学院担当より） ・後期授業アンケートおよび修了時アンケートの実施について報告（ 〃 ） ・2024年度Ⅲ期入試(2/23)の応募状況について報告
第10回 2024.2.20(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度第9回教学委員会議事録の承認 ・後期成績判定、修了判定について確認 ・2024年度Ⅲ期入試(2/23)の実施について、入試実施要項等の確認 ・2024年度大学院履修要項の確認 ・募集できない専攻領域（開講できない科目）について報告（研究科長より） ・院生の身分変更：本年度休学者2名の休学の継続の報告
第11回 2024.3.12(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度教学委員会活動報告書の確認 ・2024年度新入生、M2のオリエンテーションについて報告

2) 入試の実施

- ・2024年度Ⅰ期試験：2023年9月3日(日)、応募者無く、試験実施せず
- ・2024年度Ⅱ期試験：2024年1月21日(日)、一般入試に2名の応募があり、2名が受験し2名合格
- ・2024年度Ⅲ期試験：2023年2月23日(金)、推薦入試1名と一般入試1名合計2名の応募があり、2名が受験し2名合格

5. 評価と課題

- 1) 本年度は、研究科開設4年目であり、昨年度カリキュラム改正を行い、本年度の新1年生3名より新カリキュラムの対象となった。主な改正点として、旧カリ「キリスト教人間学」を新カリ「キリスト教人間学Ⅰ」とし1年後期に「キリスト教人間学Ⅱ」の新設、専門科目の選択には他の専攻科目の履修を課さず、修了要件30単位内に演習を調整するなど、本学の設置の背景を反映しつつ院生には過度の負担無く修了できるような意図で、新カリキュラムを開始した。新設の「キリスト教人間学Ⅱ」は後期Ⅴ限目のため、Ⅵ限「保健医療福祉連携特論」の共通科目2コマ続きで遅い時間帯となったが、負担になったとの声は無く、また、専門科目の履修においても、専攻する特論・演習に効率よく時間を活用することができ、新カリキュラムはスムーズに実施できた。
- 2) 修士論文作成過程における研究計画書の提出、演習、発表会について、これまで3年間の院生の学修状況より、より効果的かつ円滑な論文作成に繋がるようスケジュールを見直し、提出物や発表会の開催方法についても改善を図ることを今年度の計画とした。具体的には、1年次の第1回および第2回研究計画発表会の位置づけを調整し、2年次の修士論文発表会を2月の中旬に固定しコロナ後の対面式として広く参加

を募った。また、これらのスケジュールや各提出物について、1年生には「2023年大学院履修要項」に詳細に記述したものを配布し、2年生・今年度修了予定者には既に配布した「2022年大学院履修要項」に追加の内容として差込の資料を配信し周知でき、特に問合せや混乱もなく、スムーズに実施できた。

2年次の中間発表会(6月1日実施)については、この発表直前の5月の研究倫理審査で再審査となった院生も発表し、その院生は6月および9月の研究倫理審査においても再審査となった。研究倫理再申請のための十分な振返りや時間の確保ができなかったものと推察される。次年度からは中間発表会の主旨を踏まえ、特別な事情が無い限り、当該年度の修了予定者、即ち研究倫理審査の承認が得られた院生が中間発表会に臨むように指導教員にも指導を依頼する。加えて、中間発表会の時期を1か月先送りし、7月上旬とする。なお、2年生・修了予定者による中間発表会は、1年生にとっても有意義であることから、次年度より1年生の参加を認める。この件については2年生、新入生オリエンテーションにて周知する。

- 3) 学生生活や履修の支援については、今年度休学中の2名(2年次生1名：修論を残すのみ、1年次生1名)が次年度も引続き休学となり、2名とも休学2年目でこれ以上の休学は不可となる。2年次生は次年度には職場・仕事の調整がつき復学の予定との情報を得ているので、修士論文作成にスムーズに取り掛かれるように準備体制を整えておく。1年次生については、学生からの申し出を待つなど大学院側として可能な支援を引続き行っていく。

今年度の授業評価アンケートは、新カリキュラムの新たな科目も加わり、共通科目(必修科目)：「キリスト教人間学Ⅰ」、「キリスト教人間学Ⅱ」、「研究方法論Ⅰ(総論)」、「研究方法論Ⅱ(量的研究・質的研究)」、「保健医療福祉福

社特論」の5科目、選択科目：「看護理論」「実験的行動分析学特論」の2科目で実施した。アンケート結果は回答した学生が特定されないようにまとめ、担当教員に伝達した。アンケートには、新たな視点の提示や学び直して理解が深まった、ディスカッションで楽しく学べた、自己の看護観が深まったなど、例年同様の高評価の記述が多く見られた。修了生対象の修了時アンケートにおいても本研究科における様々な学びがあり、カリキュラムや履修指導・研究指導に対しても高い評価であった。

教育環境の整備として、過去にも希望が出されていたシュレッダーを院生室に設置する予定である。

4) 入試広報については、昨年に引き続き、HPの充実、看護系学会でのチラシの配布、関連病院への働きかけを行った。さらに、同窓会に出席の研究科長に、本学大学院のアピールをお願いした。今回4名の受験者があり、1名はネット上の情報から受験を希望し、1名は本学同窓生（カレッジ・短大卒も含む）であり、徐々にではあるが、本大学院も広く認知されるようにはなっているかもしれない。なお、在学

生に対する広報は、卒後に臨床経験を経てからの入学を奨励する（本大学院の設置の趣旨にも合致する）ことから、2024年度の入試についての情報提供は行わず、将来のキャリアとして本学の大学院への入学を奨励するに留めた。

看護系学会でのチラシの配布においては、昨年以上に拡大して、東京都中央区、横浜2大会、川崎で開催された4つの学会にそれぞれ50部ずつに加え、都内の病院の研究指導時に10部ほど担当者に送付して反応を見たが、今年度も問合せ等は無く、次年度は実施方法も含めて見直す必要がある。

5) 2024年度入試では、I期入試は応募が無かったが、II期入試で2名応募2名合格、III期入試では2名応募2名合格で、合計4名の入学者（定員充足率80%）であり、昨年度より1名増（充足率10%増）であった。入学者4名のうち、2名は東京衛生アドベンチスト病院の看護師であり、1名は関東圏内の病院助産師、1名は近隣病院の師長であった。なお、東京衛生アドベンチスト病院看護師2名中1名は本学卒業生2期生であった。

2023年度在籍／2024年度入学	履修生／入学生	休学	合計
2023年度 1年次生	3名	1名	4名
2年次生	2名	1名	3名
2024年度入学予定	4名	—	4名

2023年度 修了生		修士論文題目	研究指導
1	藤江 直子	健康診断後の受診に影響を及ぼす要因	齋藤 泰子 教授

内部質保証委員会

1. 構成員

委員長：山口伊作

委員：浦橋久美子、後藤佳子、今野玲子
篠原清夫、鈴木美和、平野美理香
廣瀬幸美、平澤久美子、松本浩幸

書記：山口伊作

2. 所掌事項

- 1) 大学の人材養成および教育目標に関する事項
- 2) 3つのポリシーに関する事項
- 3) 自己点検・評価の評価項目に関する事項
- 4) 内部質保証組織機能の適切性の点検および評価に関する事項
- 5) 自己点検評価結果に基づく改善案の立案と学長への報告に関する事項
- 6) 認証評価に関する事項
- 7) その他必要と認める事項

3. 事業計画

1) 機関別認証評価受審準備

日本高等教育評価機構による追評価を2025年度に受審し「適合」判定を受けるための仕組み作りを進め、実質的な運用（PDCAサイクル）を目指す。

2) 研修実施

FD委員会、自己点検評価委員会と協力のもと、昨年度に続き研修を計画し、内部質保証の浸透を図る。

3) 内部質保証の状況、自己点検・評価結果の公表

大学の進める内部質保証の状況及び自己点検・評価結果等を含む教育研究活動等の状況を公表し、法律上に明記される情報公開の義務を果たす。

4. 活動の実際

表1参照

5. 評価と課題

2022年度委員会では、2021年度認証評価結果の改善活動として、主に規程・ポリシー・説明資料（図表等）の整備、修正作業を行った。2023年度はそれらをPDCAサイクルとして実行に移す環境作りと研修を主な方針、活動とした。

機関別認証評価受審準備としては、2022年度末に学長と委員長が評価機構を訪問し説明を受けた結果を受け、次の評価受審時期を決定し評価に至る工程表を作成、実行する道筋を共有した。サイクルを実行し学生、教職員が課題・成果を可視化するためには専門業者によるコンサルティング支援が必要との判断から、システム導入とそれによるサポートを受けることを決定し、システム導入準備を進めた。2024年度よりシステムを運用する予定である。また、前年度からの継続としてはアセスメントポリシーの補足資料としてアセスメントリストの作成、サイクルマップの更新を行った。これらの環境整備から次年度には改善サイクルが実態とエビデンスを伴った活動となることが期待される。

研修実施としては夏と冬の2回、FD/SD委員会との協力のもと大学全体の内部質保証活動の実質化をテーマとした研修会を実施した。また上述のシステム導入準備とあわせ、カリキュラムマップ、DP到達目標の確認などをFD委員会と協力し進めている。

自己点検評価報告書の公表については、当初スケジュールからかなり遅れてしまったが、2021～2022年度自己点検評価報告書について、精査と修正作業を繰り返し、大学ホームページに公表した。

以上、今年度の多くの時間とエネルギーを注いだ学修成果可視化システム導入準備、全学研修が次年度以降実態としてのPDCAサイクルに繋がると考えている。

表1 内部質保証委員会開催日と議題

開催日	議 題
第1回 4月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認証評価実施時期の確認 2. アセスメントリスト作成の提案 3. 外部機関によるコンサルティングの検討 4. 工程表の確認
第2回 5月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントリストの確認 2. 全体研修の提案 3. 外部機関によるコンサルティングの検討 4. 年間工程表の確認
第3回 6月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外部機関によるコンサルティングの検討 2. 全学研修準備進捗報告 3. 自己点検・評価報告書の精査、改善計画 4. カリキュラムマップの確認
第4回 7月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検・評価報告書の精査、改善計画
第5回 9月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. FD/SD 研修報告 2. 学修成果可視化システム導入準備状況報告 3. 自己点検評価報告書「各基準自己評価」検討
第6回 10月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021～22年度自己点検評価報告書の精査 2. 学修成果可視化システム導入準備状況報告 3. 中期計画作成
第7回 11月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021～22年度自己点検評価報告書の精査
第8回 12月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検評価報告書の確認 2. FD/SD 研修計画 3. 学修成果可視化システム導入準備状況報告
第9回 1月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021～22年度自己点検評価報告書 2. 学修成果可視化システム導入準備状況報告
第10回 2月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学修成果可視化システム導入準備状況報告 2. 質保証工程表の確認
第11回 3月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. FD 研修内容の確認 2. 委員会活動報告の確認

教育活動

教養教育・専門基礎領域

教授 篠原 清夫

教授 山本 理

講師 新妻 規恵

講師 サムエル・コランテン

本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラム内容は【教養教育科目】【専門基礎科目】【専門教育科目】の3区分から構成されており、教養教育・専門基礎領域では、【教養教育科目】《アドベンチストの信仰と生活》《人間の理解》《文化・社会の理解》《情報科学》《基礎科学》《語学の修得》の6科目群、【専門基礎教育科目】《人間と健康》《健康と環境》の2科目群の教育を実施した。

《情報科学》の〈基礎学習セミナー〉(1年生)は、15回中一斉授業6回・ゼミ形式9回の授業で構成されている。各ゼミの学修内容統一のため、プログラムを科目責任者の新妻が作成し、教養教育・専門基礎領域以外も含め8名の教員で教育に当たった。ゼミ形式グループ学習は入学生にとって本科目が最初で、ゼミでのディスカッション形式の学びのプロセスである LTD (Learning through Discussion) は、大学での予習・復習中心の勉強方法を身につける機会となっている。3回のレポート作成、ゼミにおける意見交換の方法や振る舞い方については、事前に提示したルーブリック表が効果的に活用された。また本科目内容と並行して実施される学修センターのプログラムや実習におけるカンファレンス、他課目で課されるレポート課題の作成に活かすことができた。

篠原は【教養教育科目】の中の《文化・社会の理解》の〈社会学〉(1年生)、《情報科学》の〈情報科学〉(1年生)、〈統計学〉(1年生)を、【専門基礎教育科目】の中の《人間と環境》の〈保健統計演習〉(2年生)、《健康と環境》の〈保健医療社会学〉(3年生)を担当した。1年生の必修科目〈情報科学

〉は、前半に情報科学に関する講義、後半に PC 操作の演習を実施した。PC 演習では学習に必要な主要アプリケーションの使用方法だけでなくタイピング練習も行い、今後レポート作成などで使用するキーボード操作に慣れてもらった。2年生の選択科目〈保健統計演習〉は、1年生の必修科目〈統計学〉の発展として Excel を用いて分析方法の授業を行ったが、比較的少人数のため個別対応による効果的な授業を実施することができた。東京校舎での3年生の必修科目〈保健医療社会学〉は、担当教員の業務の都合で大多喜キャンパスから Zoom によるオンライン授業が多かった。次年度に関しては東京校舎での対面授業を中心に実施することを検討する。

山本は【教養教育科目】の中の《自然の理解》の〈生物学〉(1年生)を、《情報科学》の〈基礎学習セミナー〉(1年生)を、【専門基礎教育科目】の中の《人間と健康》の〈人体の形態と機能 I〉(1年生)、〈人体の形態と機能 II〉(1年生)、〈生化学〉(1年生)、〈微生物学〉(1年生)を担当した。〈人体の形態と機能 I〉と〈人体の形態と機能 II〉では、Google Classroom 上で全員が同一紙面に書き込む形式の課題を各章ごとに実施した。各自の入力履歴が残ることから、自分の書き込みと他者のものを比較し、自分の書き込みとの違いを認識することができ、良い振り返りの機会にもなった。〈人体の形態と機能 I〉では、グループ毎に人体骨格標本の紙模型を制作する活動を行った。各パーツに記名し、一つ一つ組み立てる過程で、人体骨格の緻密さや複雑さ、繋がり学びを深めると同

時に、細かいパーツを助け合って組み上げることにより、手先の器用さと協調作業の練習にもなった。〈人体の形態と機能Ⅱ〉では、グループ毎に振り当てられた教科書単元の復習教材を制作する活動を行った。それぞれ趣向を凝らし、要点のまとめ、対応する国家試験過去問題の解説、復習問題などの教材を作成し、教材の活用方法についての発表を行った。〈生化学〉では、Google Classroom 上で提出された課題を匿名にて相互評価する活動を実施した。自分と異なる表現や視点を知る良い機会になり、同級生による評価は励みになった。〈微生物学〉では、毎授業後に大福帳を提出し、質問と振り返りを行った。質問は、次回授業開始時に解答され、復習の機会と同時に関連するトピックへの広がりを知る機会にもなった。また、家族に対する予防接種の接種アンケートを実施するグループ課題を行った。匿名で実施された接種アンケートにより、現実的な予防接種の接種状況を知ると同時に、公衆衛生に関わる働きや、身近な人に予防についての啓発活動をする難しさや大切さを学ぶことができた。

新妻は【教養教育科目】の中の《情報科学》の〈基礎学習セミナー〉(1年生)を、《語学の修得》の〈英語Ⅰ〉(1年生)、〈英語Ⅱ〉(2年生)を担当した。英語は、高校までの既習内容や習熟度に個人差が大きく、一斉授業の形態で可能な個々の英語力のバラつきへの配慮として、毎時クイズを実施しスモールステップで学べるようにし、ペアやグループでの取り組みを増やす工夫を行った。初回と最終回に語彙知識のプレとポストテストを実施し、授業を通して適切な覚え方を習得することで語彙力の伸びを実感できるようにした。発表スライドを教員が授業前にチェックすることで学生の理解度を把握し、授業で教えるポイントを焦点化することができた。授業後には毎回リフレクションシートを配信し、次回の授業展開に活かした。〈英語Ⅱ〉は、国際看護の内容の自作テキストを使用して、英語を通して看護の学びや一般的な知識に

関連づけて読むことで英文読解力の向上や、社会で役立つ汎用的能力の向上を目指した。Lesson ごとに発表グループを割り当て、英語Ⅰで学んだリーディング・スキルを用いて読解した内容を英語で発表し、英語Ⅰの既習内容との連結に配慮した。発表スライドを教員が事前にチェックすることで、学生各々の習熟度にあったアドバイスを行なうことができた。教科書の著者をゲストスピーカーとして招いた最終講義は、オンラインで実施し、全員の顔が見える工夫をしたが、ネット環境の整備に手間取ったため次年度は改善したい。

コランテンは【教養教育科目】の中の《語学の修得》の〈英会話Ⅰ〉(1年生)、〈英会話Ⅱ〉(1年生)を担当した。〈英会話Ⅰ〉および〈英会話Ⅱ〉では、昨年と同様に LMS プログラム (Google Classroom/ Flip) を用い、授業時間外にネット接続による動画と音声ファイルの提供を行った。これにより学生は適時おのおの学修課題に取り組むことができた。また一昨年から行っている Zoom のブレイクアウトルームを活用した小グループでの活動も引き続き実施した結果、少人数での英会話のやりとりが学生の気恥ずかしさを低減させ、より多くの学生が積極的に授業内活動に関与する傾向が見られた。

上記科目以外に篠原、山本、新妻は【専門教育科目】《看護の発展科目》の〈卒業研究〉を担当し、計 8 名の卒業論文指導を行った。また新妻は〈国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)〉を担当し、2 年生とコロナ禍で参加できなかった 4 年生を対象にアメリカ渡航前の指導などを行った。

教養教育・専門基礎領域は広範囲な学問領域のため、専門学校三育学院カレッジ神学科や系列病院の専門領域の非常勤講師が一部科目を担当した。非常勤講師による科目は、【教養教育科目】では《アドベンチストの信仰と生活》の 1 年生 4 科目(必修 2 科目)、2 年生 1 科目、3 年生 1 科目、《人間の理解》の 1 年生 5 科目(必修 1 科目)、2 年生 1 科目、《文化・社会の理解》の 1 年生 3 科目、2 年生 2

科目、《情報科学》の1年生1科目(必修)、《基礎科学》の1年生1科目、2年生1科目、《語学の修得》の2年生1科目であった。【専門基礎教育科目】では《人間と健康》1年生2科目(必修)、2年生3科目(必修)、《環境と健康》1年生2科目(必修1科目)であった。上記科目の非常勤講師は系列校・系列病院の教員が多数を占めるため、本学の理念を理解している。また昨年度に続き【教養教育科目】【専門基礎教育科目】を専任教員で担当する科目が増加しており、本学のカリキュラム・ポリシーに適した教育環境が整えられている。

基礎看護学領域

教授 後藤佳子
准教授 山口道子
講師 遠田きよみ
玉那覇文美

看護学領域では、アドベンチストのキリスト教教育を土台に、看護の対象を神に愛され人として個別性を持つ存在として尊重できる看護のあり方を考え、それを看護技術を通して実践していくことのできる基礎的な力を身に着けることを目指し、基礎看護学領域の各科目群を通して教育指導を展開している。また、3年次からの配置となるスピリチュアルケアおよびその実習は、全ての領域の基盤となる本学の特徴的な科目であり、基礎看護学領域として重要な位置づけである。今年度は、新型コロナウイルスが5類となったこともあり、従来通りの内容で実技演習を行うことができた。

以下、学年ごとにまとめる。

(1年生)

<看護学概論(1年次)>は後藤が担当した。この科目では、看護を考える上で基盤となる人間、健康、環境、看護といった概念のほか、人間の尊厳や看護の役割、看護理論といった看護を考えていく上で重要なことらを取り上げた。特に本学の特徴であるスピリチュアルケアの教育の土台となる部分をこの科目で取り上げた。<看護技術の基礎(1年次)>は後藤および遠田が担当した。この科目では看護の実践に向けた基盤づくりをした。看護技術の根拠や感染予防といったどの領域の看護でも不可欠な技術を取り上げた。

<生活行動援助論Ⅰ(1年次)>は、遠田と玉那覇、安ヶ平(非常勤講師)が担当した。この科目は環境調整、活動の援助、睡眠・休息の援助といった看護の基本となる知識と技術を取り上げた。また、各

単元の技術演習前にデモンストレーションを行い、次回演習までに技術の練習を行い技術チェックを行った。実技演習は、担当教員で協力しながら少人数で対応し、学生らが練習した技術を確認、積み上げていけるよう実技演習を組み立てた。

<生活行動援助論Ⅱ(1年次)>は、玉那覇・遠田、安ヶ平(非常勤講師)が担当した。この科目は後期に開講され、前期の生活行動援助論Ⅰに引き続き、日常生活の援助技術を取り上げた。食事の援助、排泄の援助、清潔の援助といった日常生活の援助技術を取り上げた。学生がより具体的にイメージし主体的な学びにつながるように動画教材も活用した。昨年度に引き続き、清潔の単元では、御宿町の協力を得て高齢者ボランティアに対し足浴を実施する演習を行った。この取り組みでは、学生以外の方へケアを実施することで得られる実体験や、他者意識、看護への意欲の向上を得ることができた。また地域住民とのつながりの機会を得ることができた。

<基礎看護学実習Ⅰ(1年次)>は、病棟での同行実習を2日間行い、最後にまとめの報告会を実施した。看護の役割は何か、看護の対象の特徴は何かということを実習を通して学んだ。指導は、後藤、遠田、玉那覇、山口のほか、他領域の教員から協力を得た。

<看護過程の基礎(1年次)>は遠田と玉那覇、安ヶ平(非常勤講師)が担当した。また、この科目では、1年次の学生の学修状況に合わせて疾病治療学や検査等の知識を補い、事例が理解できるよう

に、事前学習を設定した。2つの事例をロイ適応看護論の枠組みを用いて展開した。また、講義とグループワークを交互に行うことで、看護過程の段階ごとに理解しながらステップアップできるように注力した。看護問題を明確にする段階では、新たな試みとして記録用紙を作成し、根拠に基づいた判断ができるように工夫した。振り返り評価し次年度へつなげていく必要がある。また、基礎看護学と成人看護学との連携をしていく必要もある。

〈三育の全人的看護と伝統(1年次)〉は後藤が担当した。この科目は、三育が掲げる全人的看護の土台となっているアドベンチストの思想や歴史的背景を取り上げた。

(2年生)

〈診療の援助技術論Ⅰ(2年次)〉は、山口が担当した。この科目では与薬の援助技術、検査や導尿の援助技術等の診療の援助技術を取り上げた。ナーシングスキルを活用し、学生個人で映像の視聴やオンライン上でのテストなども実施することができた。少人数グループでの実技演習を実施し、基礎的な手技を学んだ。

〈ヘルスアセスメント(2年次)〉は遠田と安ヶ平(非常勤講師)がオムニバス形式で授業を展開した。この科目はバイタルサインをはじめとする系統別アセスメントの力を身につけるために講義のあとオフィスアワーを設定し、次回の演習までに練習を重ね、技術のチェックをおこない、タスクトレーニングによる技術の習得を行った。また、動画教材を活用し視覚的に繰り返し確認できるよう工夫した。臨床で実際に活用する技術となるよう各単元に状況設定事例を作り、必要とするフィジカルアセスメントを考える工夫をした。

〈診療の援助技術論Ⅱ(2年次)〉は、山口が担当した。この科目では呼吸の援助技術や侵襲的処置の看護、皮膚創傷処置の看護等の診療の援助技術を取り上げた。皮膚創傷処置の看護の単元では隣接の東京衛生アドベンチスト病院の皮膚・排泄ケア認定看護師により講義を持っていただき、より

実践的な学びにつなげた。

〈基礎看護学実習Ⅱ(2年次)〉は、2月に2週間の実習を行った。実習前のオリエンテーションをはじめ、いくつかの事例を設定したバイタルサインの測定技術テストを行い準備した。指導は、遠田、玉那覇、山口、後藤のほかに、他領域の教員の協力を得た。

(3年生)

〈スピリチュアルケア(3年次)〉は、山口が担当した。スピリチュアル、スピリチュアルケアの関連用語の定義について国内外のスピリチュアルケア研究者から幅広く学習した。さらに実際の遺族の方の語りをDVDで傾聴し、スピリチュアルペインのある遺族の思いを知ることができた。事例分析(小児、成人の症例)をグループに分かれて行い、スピリチュアルペインのある患者の事例をスピリチュアルペインの理論を用いた分析に取り組んだ。リフレクションペーパーの書き込みでは、患者の思いや家族の思いをよく傾聴し、共感する看護をしていきたいとこれからの学びの姿勢を新たにしていた。

〈スピリチュアルケア実習(3年次)〉は、山口が担当した。東京衛生アドベンチスト病院チャプレンより実習指導を受け、病む人の心に真に寄り添うこと、自己を知ることなどを通してスピリチュアルケアについて体験的に学んだ。

〈看護診断論(3年次)〉は、後藤が担当した。モデル事例でNANDA-I・NOC・NICの学修をした後、各学生が基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者にNANDA-I・NOC・NICを展開した。

〈総合看護実習(4年次)〉は、遠田、山口、後藤で担当した。成人の慢性期看護実習を後藤が担当し、緩和ケアの実習を山口が担当した。また、基礎看護学実習Ⅰの教育実習という形で実習を行い、2名の学生が教員・臨床指導者の立場から看護学教育や、自身の看護観について考え学ぶ機会となった。〈卒業研究(4年次)〉は、遠田、山口、後藤、玉那覇で10名の学生を担当した。

小児看護学領域

教授 廣瀬幸美

特任准教授 松崎敦子

助教 清野星二

小児看護学領域では、子どもの成長・発達と社会的環境、健康障害・健康問題をもつ子どもと家族の看護支援について教育を行っている。令和5年度は、子どもの特徴と生活と健康、子どもの健康と看護、健康問題をもつ子どもと看護、小児看護学実習、総合看護実習、卒業研究を、それぞれの教員が分担して行った。

子どもの特徴と生活と健康では、子どもの成長・発達と家族の特徴、医療・看護・福祉の現状と社会的環境の変化、そして子どもと家族への看護の役割に関する講義を行った。

子どもの健康と看護では、病気・障害を持つ子どもと家族の特徴、子どもにおける疾病の経過・症状・必要な看護、子どものアセスメントに必要な知識、子どもの基本的な生活習慣の支援方法について講義を行った。

健康問題をもつ子どもと看護では、小児期の主な疾患・症状・診断・治療・看護、与薬・抑制・バイタルサインズ測定に関する知識、発達段階を踏まえた看護過程の展開について講義と演習を行った。

小児看護学実習では、子どもの成長発達に関しては私立裕和幼稚園、東京衛生病院病児保育室こひつじハウスで実習指導を行った。外来における看護は東京衛生アドベンチスト病院附属教会通りクリニックにて実習指導を行った。病気の子どものと家族の看護については東京衛生アドベンチスト

病院小児科病棟にて実習指導を行った。各実習場における子どもと家族との関わりや看護師からの助言・指導をグループメンバー間で共有し、各実習場での学びをまとめる機会を提供することで、小児看護に対する学生の理解が深まるよう実習環境を整えた。

総合看護実習では、東京衛生アドベンチスト病院小児科病棟、渋谷区障害者福祉センター代々木の杜ピア・キッズ、杉並区立重症心身障害児通所施設わかば、重症心身障害児通所施設放課後等デイサービスミントで実習を行った。領域別看護学実習での学びを踏まえ、より専門性を深めた健康に障害をもつ子どもと家族への看護を学ぶことができるよう実習環境を整えた。

廣瀬は、講義・演習科目において、科目責任者である松崎に協力し、授業内容の確認と授業資料の提供などを行った。小児看護学実習では、主に幼稚園、病児保育室、重症心身障害児通所施設、重症心身障害児通所施設放課後等デイサービス、外来、学内実習において清野と協力して学生指導にあたった。総合看護実習では、Zoomを用いたオンライン形式および学内での学生指導において、松崎、清野と協力して6名の学生指導にあたった。卒業研究では、3名の学生指導を清野とともに実施した。

松崎は、子どもの特徴と生活と健康、子どもの健康と看護、健康問題をもつ子どもと看護において中心となり授業計画を立案し授業を行った。総

合看護実習では、廣瀬、清野と協力して4名の学生指導にあたった。また、卒業研究においては1名の学生の指導を担当した。

清野は、健康問題をもつ子どもと看護の授業を2回担当し、演習と看護過程の展開を廣瀬とともに担当した。小児看護学実習では、主に幼稚園、病児保育室、外来、病棟実習を廣瀬とともに担当し、実習の計画・調整・実施・評価において中心的役割を果たした。総合看護実習では、4つの実習場において廣瀬、松崎と協力して4名の学生指導にあたった。また、卒業研究においては2名の学生指導を廣瀬の下で担当した。

女性看護学領域

教授 廣瀬幸美
准教授 北田ひろ代
助教 近藤勇美

女性看護学領域では、女性を中心とした看護（Women centered care）を学ぶとともに、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念に基づき、女性のライフサイクルに応じて、ウェルネスの視点からよりよい健康状態を目指すための支援を学ぶことを目的としている。

【2年生】＜女性の特徴と生活と健康＞は、北田が担当した。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念や動向、女性を中心としたケアのあり方と女性看護学における倫理、女性のライフステージ各期の特徴と看護について講義を行った。女性を取りまく社会環境問題についても講義を行い、内外のデータからわが国の周産期医療の特徴を学ぶ機会とした。

＜リプロダクティブ・ヘルスと看護＞は、北田が担当した。正常な経過をたどる妊産褥婦や新生児の特徴と、母子とその家族に必要な看護を中心に講義を行った。また、ソーシャルサポートに関するレポートでは、文献検索を行い、母子とその家族の健康支援に活用される様々な社会資源について考察する機会とした。また、災害時における母子支援や外国人妊産婦への看護についても講義を行い、社会的環境が女性や母子に及ぼす影響を考える機会とした。

【3年生】＜女性の健康問題と看護＞は、北田が担当した。2年次の学修内容を踏まえ、出生前診断や不妊治療と倫理、周産期における正常経過からの逸脱について講義を行った。看護過程の学修では、ウェルネスに関する講義とグループワー

クを行った。実技演習では、子宮底の計測、レオポルド触診法と胎児心音聴取、産褥期の進行性変化と退行性変化の観察、新生児のバイタルサイン測定と観察、沐浴を北田と近藤で行った。

＜母性看護学実習＞では、事前課題として母性看護に必要な知識についてポケットサイズのノートを作成しまとめることを課した。実習中の課題としてナーシングスキル映像の視聴やテストを実施した。1週目の外来・分娩室実習は見学実習とし、実習指導者とともに一部のケアを実施した。東京アドベンチスト衛生病院が開催する、オンライン両親学級への参加と併せ、三宅保健師による講義によって、ハイリスク妊産褥婦への支援の実際、地域連携による切れ目のない支援についても理解を深めることができた。2週目は、産科病棟と新生児室で実習を行い、母子1組を学生がペアで受け持った。母子相互作用、母子愛着形成、母親役割過程といった母性看護学の特徴と退院後のサポートや社会資源について学ぶ機会となった。

【4年生】＜総合看護実習＞では、保健センター、助産院、東京衛生アドベンチスト病院の産科病棟、新生児室、母乳外来、小児科外来で実習を行った。領域別看護学実習での学びを踏まえ、さらに専門性を深め、退院後の母子を取り巻く母子保健活動を理解できるよう実習環境を整えた。

＜卒業研究＞では、各学生が興味・関心のあるテーマを選出し、テーマに沿って指導した。廣瀬が4名の学生指導を担当し、北田が2名の学生指導を担当した。

成人・老年看護学領域

教 授	平野美理香
特任教授	市川光代
准 教 授	今野玲子
講 師	近藤かおり
講 師	素村知佳（育休中）
助 手	上野雪絵

【1年次科目】

「成人の特徴と生活と健康」（1単位）は、今野と近藤が担当した。成人各期の特徴と発達課題、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策、および成人を看護する際の基本的アプローチを理解することを科目目標とした。レポート課題「現代日本における成人期の健康問題とその対策」を課し、個々の学生が興味のある健康問題について調べて論述した。引用など論文の作法も、資料を付記して説明し、ルーブリック評価を用いることで、論文のポイントについて学生と共有した。しかし、単なる調べ学習ではなく、根拠資料を用いて自分の考えを構造立てて論述することに課題が残る学生も散見された。

「高齢者の特徴と生活と健康」（1単位）は、初回、講義全般についてのオリエンテーションを行った後、「あなたが考える高齢者のイメージについて具体例を入れながら述べる」というテーマでレポートを課した。講義では、老いを生きるということ、超高齢社会と社会保障、老年看護における理論・概念の活用、高齢者のヘルスアセスメント、高齢者の生活機能を整える援助、治療を必要とする高齢者の看護、エンドオブライフケア、生活・療養の場における看護、高齢者のリスクマネジメントについて講義を行った。

【2年次科目】

「慢性期看護論」（2単位）は、疾患や症状を踏

まえた看護を学ぶ演習科目である。今野が慢性期看護概論と循環器、内分泌・代謝系の障がいがある対象者の看護、近藤が、消化器、腎臓、身体防御機能の障がいがある対象の看護、市川が脳・神経、呼吸器疾患の看護の講義を担当した。2023年度は、脂質異常症から心筋梗塞を起こした事例の看護過程を展開し、対象者の疾患の特徴と個別性を考慮した指導案と資料を作成し、学生同士で健康指導を実施した。

「回復期リハビリテーション看護論」（1単位）では、リハビリテーションに用いられる主要な概念、チームアプローチと看護の役割、生活の再構築へのアセスメントと援助、事例で学ぶリハビリテーション看護として、脳血管疾患患者を事例としたリハビリテーション看護とリハビリテーションチームにおける看護師の役割について、市川が講義を行った。また、クラス全員に中途失明をした全盲者の疑似体験をしてもらい、体験から全盲者への支援方法を学ぶという目的で体験学修を行った。

「急性期・周手術期看護論」（2単位）は、近藤が急性期看護概論、周手術期看護、救急看護、化学・放射線療法を受ける対象の看護、今野が疾患により人体の機能に急激な脳・神経機能障がい、呼吸器障がい、循環器障がい、消化器の障がいを起こしている対象の看護を担当した。トピックが広範囲に渡るため、授業で網羅できる内容に限りがあるが、後述の演習科目「看護展開演習I」と連

携し、理解を深めた。

「看護展開演習Ⅰ」（1単位）は、今野と近藤が担当した。急性期・周手術期看護論と結び付けつつ、急性期看護の理解を深めた。手術を受ける患者の事例を展開して、①関連学習、②術後（帰室時）の全身状態の観察演習、③術後合併症の観察/初回離床の介助演習、④退院後の生活に向けての指導案作成と指導を演習として実施した。加えて、本年度はCPRトレーニングマネキンを用いた心肺蘇生の演習も実施した。

「看護理論」（1単位）は選択科目だが、今野と近藤が担当した。前半は主に講義形式にて、看護理論についての総論と、成人看護に有用な理論について講義した。後半は、2名ずつのグループに分かれ、興味のある看護理論について調べてまとめ、プレゼンテーションを行い、看護理論の臨床事例への応用を含めて、討議・考察する機会を持った。

【3年次科目】

「看護展開演習Ⅱ」（2単位）では、老年看護技術演習として高齢者疑似体験を通して、高齢者のイメージと、必要となってくる看護についてグループで考え発表した。2023年度は、C型肝炎から肝硬変に至った患者事例の看護計画の立案と、状況設定を伴うシミュレーション演習を、患者役と看護師（看護学生）役、観察者に分かれて実施し、ディブリーフィングを実施した。また、最終回は事例についての口頭試験および実技テストを、今野、近藤、市川、上野で実施し看護実践力の向上に努めた。

「緩和ケア・終末期看護論」（1単位）は、緩和ケア認定看護師の足立非常勤講師が担当した。本学の基本理念であるキリスト教精神に基づき、終末期にある患者や家族に対して生きることを支える看護について教授した。

「慢性期看護実習」（2単位）は、地域包括ケア病棟と、健診センターにて行い、今野、近藤と実習補助教員が担当した。健診センターでは、健診に

おける看護師、保健師の役割と受診者の生活に合わせた保健指導のあり方を学ぶ機会を持った。また、医療ソーシャルワーカーによる講義を通して、退院後の療養生活に向けた退院調整活動や、保健・医療・福祉チームの役割と社会資源の活用、チームにおける看護の役割について意識を深めつつ、退院後の生活を見据えた看護を展開する機会を持った。受け持ち患者の多くは後期高齢者で、家族の支援や社会的なサービスを必要とするため、退院に向けての目標設定や、家族への働きかけ調整など、学びを深めることができた。

「急性期看護実習」（2単位）では、外科病棟・手術室・外来の3か所で実習を行い、今野と上野が担当した。外来では、半日の見学実習を通し、診断を受けた後の外来看護師の迅速な対応や調整等について学んだ。また、意思決定や継続看護を必要とする患者の事例や外来看護師の指導を通して、看護師が患者の代弁者であり、弁護、相談口となるアドボカシーの役割について学ぶことができた。手術室では、臨機応変に対応する器械出し・外回り看護師の役割を知り、実際に手術侵襲を受ける人体への影響を考えた。これは病棟で患者を受け持つ際に、術後の観察と関連付けて考えるきっかけとなっていた。病棟実習では、周手術期患者の受け持ち看護を通して、アセスメント力を養いつつも、知識不足を実感していた。後半に行くにしたがって、学習力も上がっていき、深く学べる事への喜びを感じるなど成長が見られた。患者を受け持つにあたり、適切な観察項目を挙げ、その観察したことへの意味付けができるようアセスメント力をつけることが今後の大きな課題である。

「回復期看護実習」（2単位）は、リハビリテーション病棟の他に、脳外科病棟、整形外科病棟で、今野と非常勤講師の岡田が担当した。実習1週目には、ICF（国際生活機能分類）を用いて看護過程の展開と全体像の把握を行い、対象者の全人的な理解を深め具体策を立案した。2週目には立案した看護計画の実践と修正・評価を行い、退院後の

生活を見据えた看護援助を実施することができた。また、リハビリテーション科スタッフ（PT、OT、ST）など多職種と連携を行うことで、対象者に必要な福祉・社会資源や、チーム医療についての学びを深めていた。

「緩和ケア・終末期看護実習」（2単位）では、緩和ケア病棟にて終末期にある患者を受け持ち、患者と家族の全人的痛みを知り、限られた時間をよりよく生きられるよう支援するためのケアを看護師とともに実践した。実習では実際の患者、家族との関りの中で、終末期にある患者家族の理解を深め、その人らしさを支える看護に一部関わり、看護とは何か深く考える機会となった。病棟の実習指導者の多大なる協力のもとに今野が担当した。

「老人福祉施設実習」（1単位）では、8グループあるうちの1グループは、老人福祉施設内で発生したコロナ感染症により、学内実習へと変更した。施設での実習は、特別養護老人ホームで生活している高齢者と自宅からデイサービスに参加している高齢者の状況を見学したうえで、両施設の特徴と役割について学修した。また、看護師に同行し、施設で暮らす高齢者の日常生活の状況と高齢者ケアの実際を見学し、指導者同行のもとで学生にできるケアを実施した。医師の回診にも参加し、利用者の移動介助と診療補助業務を実践した。また、施設内で行われている利用者と家族を含めた専門職会議に参加し、多職種連携のあり方を学修した。市川が担当した。

【4年次科目】

「総合看護実習」（2単位）では、学生に希望看護領域のアンケートをとり、成人・老年看護領域を希望した合計20名の学生が、9病棟で4年次のまとめとなる実習を行った。周手術期・急性期看護を選択した学生8名を今野、上野、近藤、玉那覇（基礎看護領域）が、亜急性期／慢性期を選択した学生4名を近藤と後藤（基礎看護領域）が、回復期看護を選択した学生6名を今野が、緩和ケア

を希望した4名を市川と山口（基礎看護領域）が担当した。

「卒業研究Ⅰ」（2単位）では、学生に領域やテーマの希望を取り、市川が2名、今野と上野が3名、近藤が3名の合計8名の学生に対して、各自が興味を持ったテーマについての研究計画書立案を指導した。

【その他】

上記科目以外に、近藤は「国際看護実習Ⅰ」（欧米の看護体験）（2単位）を担当し、米国にある本学の系列大学へ学生を引率した。本来は2年次の選択科目であるが、コロナ禍で参加ができていなかった4年生も参加した。コロナ禍を経て4年ぶりに再開された約2週間のプログラムでは、キャンパス内での英語や看護のクラス・演習のほか、医療・福祉施設見学を行った。これらを通して、地域住民の健康課題や保健医療福祉の状況を知り、健康との関連を考察する機会となった。また、実習期間中のホームステイを通して、英語を話す機会に恵まれ異なった文化をもつ人々との交流を深めることができた。

精神看護学領域

准教授 松本浩幸

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行された。コロナの制限が解除され、基本的に対面で授業となったが、一部、遠隔でのZOOMやグーグルクラスルームを用いての授業が続いた。こころと健康、こころの健康増進と看護、こころを病む人と看護、卒業研究のすべてについて松本が担当した。精神看護学実習については、主に実習指導教員の須藤が担当し、松本は須藤のサポートを行った。精神看護学領域では、精神的健康の回復、維持増進について理解し、精神の健康問題を抱えて入院している患者および地域で生活をしている人やその家族に対し、その人らしく生きることを支える為の諸制度や諸理論、ならびに具体的な看護実践方法について教育を行っている。

こころと健康においては、看護学部2年生に向けて対面で、精神保健の概念、自己洞察と自己活用、ひきこもり、家庭における危機、医療現場、災害現場の精神保健についての授業を行った。

こころの健康増進と看護においては、一部ZOOMで、看護学部2年生に向けて精神保健の概念、自己洞察と自己活用、ひきこもり、家庭における危機、医療現場、災害現場の精神保健についての授業を行った。

こころを病む人と看護においては、一部ZOOMで看護学部3年生に対して、精神の健康問題を抱えて入院している患者および地域で生活をしている人や家族に対し、その人らしく生きることを支える為の諸制度と諸理論、ならびに具体的な看護実践方法についての授業を展開し、ペーパーセッションを用いて個別に添削して、看護過程の展開の指導を行った。

卒業研究Iにおいては、看護学部4年生3名に対して、文献検討を通して精神看護に関する研究計画書作成までの指導を行った。

その他、精神看護学の国家試験対策、保健師課程の対象別支援技術論の精神障害者支援に関する

授業を行った。

精神看護学実習においては、実習要項の作成、実習指導者との実習内容とスケジュールの調整は松本が、須藤は臨地実習指導を行った。2023年10月から2024年2月まで全8グループが、前年のようなコロナ感染の影響は無く、6日間（祝日の場合は5日間）の病棟実習、1日のデイケアでの地域看護学実習と学内実習を行うことができた。

デイケア実習では、就労移行支援・定着支援の就労班プログラムとスポーツ、WRAP等生活班のプログラムに参加することができ、カンファレンスを行い、グループ内で違いや内容を共有することができていた。また、慈雲堂の組織には、病院をはじめ、デイケア室、グループホーム、訪問看護ステーションがあることを、看護部からオリエンテーション時に説明を受けているため、精神に障害をもつ人々を包括的に知ることができた。そして、入院中の患者と地域で生活している精神に障がいをもつ者の両方との関わりを持ち、より理解を深めることができていた。特に、病棟実習では、コロナ渦のような受け持ち患者との関わりや実習日数に制限はなく、6日間の実習で、考え、悩みながら、患者と良い関係性を（信頼関係を）築くまでのプロセスを体験することができた。

指導においては、学生が、幻覚、妄想等の精神症状や自閉等の陰性症状、情緒症状がある患者とコミュニケーションをとることが実習の初期は難しいため、患者との関わりに戸惑っている学生には、教員が同伴し、学生が常に報告相談ができるように心掛けていた。また、毎日、1日のまとめとして、指導看護師を含めカンファレンスを行ない、次の実習に繋げることができていた。

学生からの欠席等の連絡、インシデント対応時等、須藤では対応ができないときは、松本が対応した。

精神領域の総合実習は松本が担当した。

大学院地域看護学領域の地域看護学特論では、地域精神保健活動の講義と演習を、実践看護学演習I、特別研究Iでは学生の研究支援を行った。

地域看護学・公衆衛生看護学領域

教授	浦橋久美子
教授	鈴木 美和
特任教授	佐藤 壽子
助教	手塚 早苗
助手	朝見 優子

地域看護学・公衆衛生看護学領域は、看護師基礎教育としての地域看護学、保健師基礎教育としての公衆衛生看護学の教育を展開している。

2023年度は、COVID-19が、新型インフルエンザ等感染症（2類相当）対応から5類感染症対応へと移行し（2023年5月8日）、患者や濃厚接触者に対して、感染症法に基づく外出自粛は求められなくなった。それ故、学生個々による自立的な感染対策がより一層求められるようになった。しかしながら、感染症によるクラスター等の発生もなく、予定通り対面による講義・演習・実習を実施できた。

＜地域看護学概論＞は1年次の前期に、看護をおこなう上での地域、生活者としての対象や健康のとらえ方について浦橋が講義を担当した。健康づくりをプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの視点から教授するとともに、病院以外で活動する看護職とその役割について視聴覚教材を活用しイメージ化を図った。また、地域看護活動のコアスキルである家庭訪問の演習を取り入れ、浦橋・佐藤・手塚が担当した。

＜地域看護学実習＞は1年次の前期、地域看護学概論の終了後に実施した。生活の視点で看護をとらえることの重要性から、基礎看護学領域の教員である遠田・玉那覇を加え、浦橋・佐藤・手塚・非常勤講師1名が担当した。学生が訪問するA町あるいはB町の保健師に地域の特徴と保健サービスの説明を依頼した。その後、高齢者が生活している場に学生3名一組で出向き、日常生活の状況・

価値観、健康状態などについてインタビューや観察を行い、地域の特徴・資源と健康の関連、生活と健康の関連を考察した。学内の報告会后、訪問した高齢者に担当した町の公民館などへ集まっていただけ、報告会を行った。

＜地域交流実習＞は選択科目として1年次後期に行った。人としての尊厳を尊重する姿勢を培うための実習を浦橋・佐藤・手塚が担当した。6名の履修者が、大学周辺の町に居住している高齢者を訪問し、人生を振り返り大事にしてきたことや取り組んできたことなどを自由に語ってもらい、聞き書き手法を取り入れ、まとめた。まとめるにあたり、聞き書きの第一人者である小田豊二氏を講師に招き、手法について深めた。

＜健康教育論Ⅰ＞は1年次後期に、保健行動を促すための理論について浦橋が講義を担当した。そして健康教育の実際として企画書・指導案作成、教材づくりに必要な技術について佐藤が講義を担当し、次年度の健康教育論Ⅱへつなげた。

＜健康教育論Ⅱ＞は2年次前期に、健康相談の対象を生活者として捉えるための演習と対象の生活に合った教材作成の演習を、浦橋・佐藤・手塚が担当した。演習では、大学周辺の市町に居住している高齢者にボランティアとして患者役を担当してもらい、生活把握のための問診を学生3名一組で行った。

＜家族看護学＞では、家族をシステムとしてとらえた家族発達理論、家族ストレス対処理論、家族アセスメントモデル・家族支援モデルを中心に鈴

木が講義を担当した。使用テキストが 2013 年度以降、更新されていないため、次年度は変更することを検討した。

＜在宅看護論Ⅰ＞では、訪問看護を中心とした在宅看護のあり方、在宅療養者を支える資源、地域包括ケアシステム、住環境のあり方等について講義を行った。また、今年度も現役の訪問看護ステーション所長に、訪問看護活動の実際の講義を依頼した。さらに、今年度着任した朝見助教は、小児の訪問看護を専門としており、その専門性を生かした講義を実施した。

＜在宅看護論Ⅱ＞では、＜在宅看護論Ⅰ＞の知識を基に、在宅療養者の問題や課題を解決するための看護過程の展開を鈴木・朝見で担当した。演習事例を理解し、情報整理からアセスメント、課題の明確化、目標および具体策の検討をグループワークにより実施した。また、在宅療養者支援の視聴覚教材の視聴、経管栄養法の演習、文字盤を用いたコミュニケーションの演習を実施した。

＜在宅看護論実習＞は、履修学生 39 名の実習指導を鈴木・朝見が担当した。東京校舎近郊の訪問看護ステーション 4 施設、立川市にある訪問看護ステーション 1 施設、国立市にある訪問看護ステーション 1 施設の協力を得て実施した。

公衆衛生看護学領域では、公衆衛生看護とは何かを常に問い、保健師としてのアイデンティティを培うための教育とともに公衆衛生看護学に必要な理論と実践について系統的に教育を展開した。

＜公衆衛生看護学原論＞では、保健師活動の本質の探究を先人の保健活動を例に講義・演習を浦橋が担当した。現場の保健師と地域づくりに参加している住民にそれぞれの立場から連携する意義、ヘルスプロモーションの実際、保健師の魅力を語っていただいた。

＜公衆衛生看護活動展開論Ⅰ＞では、保健師活動の基盤となる地域診断の理論について浦橋が講義を担当した。東京校舎周辺の地域踏査を行い、地域把握の演習を浦橋・手塚で担当した。

＜公衆衛生看護活動展開論Ⅱ＞では、公衆衛生看護学実習で担当する市町村を受け持ち地域として、既存資料および地区踏査の情報をもとに地域診断のプロセスの演習を浦橋・手塚が担当した。

＜対象別支援技術論＞では、様々なライフステージにある人々とその家族、健康障がいをもつ人への支援について鈴木・松本（精神看護学領域の准教授）が担当した。本科目は、前学期 30 回であり、講義と演習を組合せながら、地域の健康課題を解決するための具体的方法をグループワークにより検討した。

＜地域ケアシステム論＞は、地域ケアシステムの構築およびコーディネーターとしての保健師の役割について浦橋が講義を担当した。事例をもとにケアシステムの構築の演習を手塚が担当した。

＜組織協働活動論＞では、保健師が組織活動を育成する一連のプロセスと保健師の役割について浦橋が講義を行い、事例をもとにそのプロセスと保健師の活動を確認する演習を行った。

＜健康危機管理論＞では、災害時の保健師活動および感染症の集団発生時の保健所や市町村の役割、そこで行われる保健活動についての講義を佐藤が担当した。

＜公衆衛生看護管理＞は、公衆衛生看護管理の基本について佐藤が担当した。公衆衛生看護学実習終了後に開講される科目であり、公衆衛生看護管理の視点から実習を振り返り、深めた。

＜公衆衛生看護学実習Ⅰ＞は 3 市町の臨地で行い、浦橋・佐藤・手塚が担当した。各市町の既存資料や地区踏査から地域診断、家庭訪問、健康教育の企画・指導案作成・および実施するとともに、各種保健事業に参加し保健師の機能と役割についての理解を深めた。

＜公衆衛生看護学実習Ⅱ＞は千葉県内の保健所 1 か所を学生が 2 グループに分かれて実施した。佐藤と手塚が担当した。保健所の機能や役割に関する講義を 1 日聴講した。その後、主に健康危機管理における保健所の活動の理解、難病療養者や結

核患者の支援における保健所保健師の役割について事例を通して学んだ。

＜公衆衛生看護学実習Ⅲ＞では、学生は2か所の企業に分かれて産業保健実習を行った。その職場の特性に合わせた健康管理や職場巡視、産業医との連携、産業保健チームの取り組みについて理解を深めた。

＜総合実習＞在宅看護論の総合実習は、鈴木・朝見が4名の学生を担当した。2週間の実習内容として、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、デイサービス事業所、居宅介護支援事業所における看護職者の活動を組み合わせてプログラムを作成した。学生は、訪問看護の実践への理解を深めるとともに、地域包括支援センターやデイサービス等の関連事業への参加を通し、地域包括ケアシステムへの理解を深めた。なお、1名の学生においては、実習施設での学習が困難な状況となり、学内実習に切り替えるとともに、目標達成に向けて、実習期間を延長し、3週間とした。

公衆衛生看護学の総合実習では5名の学生を、浦橋・手塚が担当した。2町で実施し、公衆衛生看護学実習Ⅰから興味・関心を持った分野を選び、実習内容および計画の立案をし、保健活動の実施・評価するPDCAサイクルに添って実習した。

＜卒業研究Ⅰ＞は、鈴木が3名の学生を担当した。2名は、研究計画書作成、旧カリキュラムの学生1名は、研究計画書作成および論文を完成した。

公衆衛生看護分野においては、浦橋が3名の学生を担当し、それぞれのテーマに基づいた研究計画書の作成に取り組んだ。

研究・
社会活動

教養教育・専門基礎領域

1. 研究論文

- 1) 篠原清夫. (2024). マンガに描かれる養護教諭の職務に関する社会学的分析. 三育学院大学紀要, 16(1), 37-46.
- 2) サムエル・コランテン. (2024). A Review of Experiential Learning Theory: A Practical Approach to Learning and Student Engagement. 三育学院大学紀要, 16(1), 47-46-55.
- 3) 山本理. (2024). 看護系大学生におけるタイピング能力の推移と練習の有効性. 三育学院大学紀要, 16(1), 37-46. 65-66.

2. 学会発表

- 1) 藤平敦, 篠原清夫, 牛渡淳. (2023). 教員免許状取得希望学生への支援を目的とした追跡調査の中間報告(3). 日本教師教育学会第33回大会, 東京大学, 9月30日.
- 2) 篠原清夫. (2023). マンガからみる養護教諭へのまなざし(2): 養護教諭の役割. 第96回日本社会学会大会, 立正大学, 10月8日.
- 3) サムエル・コランテン. (2024). Cooperative learning: Organizing the Classroom for Effective Learning. English Teachers in Japan (ETJ), 2024 東京大会(Tokyo Expo), 大妻女子大学, 2月4日.

3. その他(書籍, 総説, 解説など)

- 1) 篠原清夫. (2023, 4月). ヤンキーをどのように見るか?: アウトサイダーの社会学, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第31回). 教職課程4月号(pp. 114-115). 協同出版.
- 2) 篠原清夫. (2023, 5月). 障害者の反対ってなに?: 障害者と社会, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第32回). 教職課程5月号(pp. 114-

115). 協同出版.

- 3) 篠原清夫. (2023, 6月). 障害者は清く正しい?: 感動ポルノ, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第33回). 教職課程6月号(pp. 114-115). 協同出版.
- 4) 篠原清夫. (2023, 7月). 不登校の子どもの特徴は?: 不登校へのまなざし, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第34回). 教職課程7月号(pp. 114-115). 協同出版.
- 5) 篠原清夫. (2023, 8月). 不登校統計の信頼度は?: 不登校データのあいまいさ, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第35回). 教職課程8月号(pp. 114-115). 協同出版.
- 6) 篠原清夫. (2023, 9月). 社会学者は嫌われる?: 「普通」であることへの疑問, マンガから学ぶ学校教育の社会学(第36回). 教職課程9月号(pp. 184-185). 協同出版.

4. 学内外活動・社会活動(賞など)

- 1) 篠原清夫. (2023, 4月-2023, 9月). 亀田医療技術専門学校 助産学科 非常勤講師. 「家族社会学」.
- 2) 篠原清夫. (2023, 4月-2023, 7月). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「社会学1」.
- 3) 山本理. (2023, 4月-2024, 3月). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「生物学I」「生物学II」.
- 4) 新妻規恵. (2023, 4月-2024, 3月). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「英文法I」「英文法II」.
- 5) サムエル・コランテン. (2023, 4月-2024, 3月). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「神学書購読I」「神学書購読II」「英会話I」「英会話II」「英会話III」「英会話IV」「TOEFL」.
- 6) 新妻規恵. (2023, 4月-2024, 3月). 三育学院

中等教育学校 非常勤講師。「英語コミュニケーションⅠ」。

- 7) 山本理. (2023, 10月8日). 三育学院大学附属光風台三育小学校 非常勤講師. 体験学修「ヒグマについて(触ってみよう)」。
- 8) サムエル・コランテン. (2023, 4月-2024, 3月). 三育学院大学附属光風台三育小学校 非常勤講師。「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」「英語Ⅵ」「個人研究Ⅰ」「個人研究Ⅱ」「個人研究Ⅲ」。
- 9) 篠原清夫. (2023, 4月-2024, 3月). 日本総合文化研究会 理事。
- 10) 篠原清夫. (2023, 4月-2024, 3月). 夷隅郡市行政不服審査会 委員. 千葉県夷隅郡市広域市町村事務組合。
- 11) 新妻規恵. (2023, 4月-2024, 3月). えいごあそび 講師派遣コーディネーター. 大多喜町立みつば保育園・つぐみの保育園。
- 12) 新妻規恵. (2023, 4月-2024, 3月). 大多喜町立小学校外国語研修会 講師. 4/14, 8/17, 3/1. 授業参観および協議会 講師. 5/19, 5/26, 6/23, 7/3, 7/4, 7/6, 9/28, 11/29 の計 11 回. 大多喜町立大多喜小学校・西小学校・大多喜町教育委員会。
- 13) 新妻規恵. (2023, 4月-2024, 3月). ALT 派遣に関するコーディネーター. 大多喜町立大多喜中学校・千葉県立大多喜高等学校。
- 14) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020 年度～2023 年度「養護教諭の職業的社会的な育成に関する研究」研究代表者: 篠原清夫. 全体経費 3,900,000 円（直接経費 3,000,000 円）・今年度経費 0 円（直接経費 0 円 [事業延長]）。
- 15) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2023 年度～2026 年度「『4 年間の追跡調査』を踏まえて再構築する教員免許状取得希望学生への支援方法」研究代表者: 藤平敦・研究分担者: 篠原清夫. 全体経費 4,550,000 円（直接経費 3,500,000 円）・今年度分担額（直接経費 200,000 円）。

基礎看護学領域

1. 研究論文

- 1) 遠田きよみ, 玉那覇文美, 後藤佳子 (2024) .
日本におけるアドベンチスト看護教育の特徴, 三
育学院大学紀要, 16(1), 13 - 26.

2. 学会発表

特になし

3. その他 (書籍,総説,解説など)

特になし

4. 学内外活動・社会活動 (賞など)

- 1) 遠田きよみ (2023, 4 月 - 2024, 3 月). 「御宿町多
世代交流仕組みづくり事業」支援 (梅ジュース
づくり 5 月 29 日), (世界に一つだけのオブジ
ェ 3 月 27 日). 御宿町.
- 2) 遠田きよみ, 玉那覇文美 (2023, 11 月 16 日).
御宿町ボランティア, 生活行動援助論Ⅱにおける
足浴ボランティアの実施.
- 3) 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 2022 年度
～2025 年度「幼児の「健康をつくる力」育成に
むけたアクションを支援する WEB システムの
開発」分担者: 後藤佳子. 全体経費 4,928,000
円・今年度分担額 130,000 円

小児看護学領域

1. 研究論文

- 1) 清野星二, 廣瀬幸美, 松崎敦子. (2023). 幼児期の子どもをもつ父親の育児関与とその関連要因. 小児保健研究, 82(5), 453-462.

2. 学会発表

- 1) 松崎敦子, 出口貴美子, 岡橋彩, 山瀬聡一, 長野信彦, 石井和嘉子, 桃木恵美子, 井上健, 西田佳史, 森岡一朗 (2023). 早産児の乳幼児期の発達と母親の育児ストレス. 第70回日本小児保健協会学術集会. 神奈川. 6月18日.
- 2) Deguchi, K., Nakamura, A., Saito, A., Nishida, Y., Matuzaki, A., & Ken Inoue (2023). Is transient hypertonia in the lower extremities in infancy an early sign of autism spectrum disorder? An on-going prospective study. 15th European Paediatric Neurology Society Congress. Praha, Czech Republic. 6月23日.
- 3) Okahashi, A., Deguchi, K., Hidaka, K., Nakamura, A., Yamase, S., Nagano, N., Ishii, W., Matsuzaki, A., Inoue, K., & Morioka, I. (2023). A prospective study for early detection of neurodevelopmental disorders in preterm infants in the follow-up outpatient clinic. 15th European Paediatric Neurology Society Congress. Praha, Czech Republic. 6月23日.
- 4) 高崎洋子, 廣瀬幸美, 松崎敦子 (2023). 無痛分娩を選択した産婦の出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因. 第64回日本母性衛生学会学術集会. 大阪. 10月13日.
- 5) 黒澤佳世子, 廣瀬幸美, 松崎敦子 (2023). 無痛分娩後1ヶ月時の母乳育児の実態と母乳栄養の確立に影響する要因. 第32回日本新生児看護学会学術集会. 神奈川. 11月4日.
- 6) 松崎敦子, 中村晃子, 西田佳史, 井上健, 出

口貴美子 (2024). 自閉スペクトラム症疑い児の発達的特徴～生後10ヶ月および18ヶ月時の経時的調査からわかること. 日本発達心理学会第35回大会. 大阪. 3月6日.

3. その他 (書籍, 総説, 解説など)

4. 学内外活動・社会活動 (賞など)

- 1) 廣瀬幸美 (2023). 東洋大学文学部教育学科非常勤講師, 選択科目「病弱児の病理と臨床」, 7回の講義: 4月11日, 4月18日, 4月25日, 5月9日, 5月16日, 5月23日, 5月30日
- 2) 廣瀬幸美 (2023). 日本乳幼児精神保健学会理事, 理事会: 第1回は7月9日, 第2回は11月3日に開催, いずれも Zoom Meeting
- 3) 廣瀬幸美 (2023). 日本看護研究学会査読委員, 投稿論文1編を査読: 1回目7～8月, 2回目10月 (取消により査読中止)
- 4) 廣瀬幸美 (2018～2022). 日本小児看護学会査読委員, 投稿論文1編を査読: 1回目4～5月 (取消により査読中止)
- 5) 松崎敦子 (2023～2024). 星槎大学大学院兼任講師, 選択科目「応用行動分析学特論」, 2回のスクーリング: 7月1日, 1月7日.
- 6) 松崎敦子 (2023～2024). 日本大学医学部客員研究員.
- 7) 松崎敦子 (2023). 新学期に向けてアドバイス! ～スムーズにスタートを切ろう, Nursing Canvas, Gakken 2023年4月号.
- 8) 松崎敦子 (2023). 千代田区2023年度子育て支援員研修「小児栄養・小児保健・新生児期から乳児期の病気・病(後)児対応・子どもの障害・特別に配慮を要する子どもへの対応 I, II まとめ」7月7日.

- 9) 松崎敦子 (2023). 港区 2023 年度前期子育て支援員研修「小児栄養・小児保健・新生児期から乳児期の病気・病（後）児対応・子どもの障害・特別に配慮を要する子どもへの対応 I, II まとめ」7月7日.
- 10) 松崎敦子 (2023). 福島県保健協議会南支部保育士部会研修会「発達障害と適切な行動の増やし方」8月31日.
- 11) 松崎敦子 (2023). 港区 2023 年度後期子育て支援員研修「小児栄養・小児保健・新生児期から乳児期の病気・病（後）児対応・子どもの障害・特別に配慮を要する子どもへの対応 I, II まとめ」11月17日.
- 12) 松崎敦子 (2023-2024). ミュージック as パレット「プラクティショナー養成講座」9月24日, 12月3日, 3月17日.
- 13) 松崎敦子 (2023) 超早産児神経発達症研究会 2023 年度セミナー「Vineland-II、PARSTR の基礎知識 について」11月19日.
- 14) 松崎敦子 (2024). 多摩市 2023 年度後期子育て支援員研修「小児栄養・小児保健、新生児期から乳児期の病気、子どもの障害・特別に配慮を要する子どもへの対応まとめ」1月20日.
- 15) 松崎敦子 (2024). 高浜市 2023 年度子育て支援員研修「子どもの障害」「特別に配慮を要する子どもへの対応」2月28日.
- 16) 松崎敦子 (2023~2024). 福島県郡山市 医療法人仁寿会菊池医院 保育園・幼稚園・小学校・中学校訪問支援, 全 24 回.
- 17) 松崎敦子 (2023~2024). 渋谷区障害福祉センターはあとびあキッズ、代々木の杜ピア・キッズ療育指導, 全 12 回.
- 18) 松崎敦子 (2023~2024). 東京衛生アドベンチスト病院発達相談, 全 12 回.
- 19) 松崎敦子 (2023~2024). 東京三育小学校教育相談, 全 6 回.
- 20) 北田ひろ代, 近藤勇美, 清野星二 (2023). 東京三育小学校「いのちの授業」2年生 19 名. 10月3日.
- 21) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020 年度～2023 年度「先天性心疾患児の養育ニーズに応じた前向き子育てプログラムの開発とその評価」代表者:廣瀬幸美, 分担者:清野星二. 全体経費 4,290,000 円（直接経費 3,300,000 円）・2023 年度経費 1,040,000 円（直接経費 800,000 円）
- 22) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020 年度～2023 年度「オンライン教材を用いた保護者トレーニングの開発と評価：地域で行う早期発達支援」代表者: 松崎敦子. 全体経費 4,290,000 円（直接経費 3,300,000 円）. 2023 年度研究期間延長のため、経費なし.
- 23) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2019 年度～2022 年度「周手術期の小児と家族に携わる一般病棟看護師への複合的支援に関する基礎的研究」分担者: 廣瀬幸美. 全体経費 4,290,000 円（直接経費 3,300,000 円）. 2023 年度研究期間延長のため、経費なし.

女性看護学領域

1. 研究論文

- 1) 清野星二, 廣瀬幸美, 松崎敦子, (2023). 幼児期の子どもをもつ父親の育児関与とその関連要因. 小児保健研究, 82(5), 453-462.
- 2) 北田ひろ代, 齋藤泰子 (2024.3). 保健医療分野における切れ目のない支援に関する文献検討, 三育学院大学紀要, 16 (1), 27-36.

2. 学会発表

- 1) 高崎洋子, 廣瀬幸美, 松崎敦子 (2023). 無痛分娩を選択した産婦の出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因. 第64回日本母性衛生学会学術集会. 大阪. 10月13日.
- 2) 黒澤佳世子, 廣瀬幸美, 松崎敦子 (2023). 無痛分娩後1ヶ月時の母乳育児の実態と母乳栄養の確立に影響する要因. 第32回日本新生児看護学会学術集会. 神奈川. 11月4日.
- 3) 北田ひろ代, 一之瀬浩美 (2023). カルテデータを用いた産後ケア利用者に関する実態報告ー事業法定化以前の利用実態からー, 日本母子看護学会学術集会, 8月4日ー8月5日, 東京
- 4) 北田ひろ代, 齋藤泰子 (2024). 保健医療分野における切れ目のない支援に関する文献検討, 日本公衆衛生看護学会, 1月6日ー1月7日, 福岡.

3. その他 (書籍, 総説, 解説など)

- 1) 北田ひろ代, 一之瀬浩美 (2023). カルテデータを用いた産後ケア利用者に関する実態報告ー事業法定化以前の利用実態からー, 公益社団法人日本助産師会機関誌「助産師」, 77 (4), 41-44.
- 2) 近藤勇美 (2023). 調査報告 1ヶ月健診までの家庭における新生児スキンケアの実態調査～A

病院における保湿ケア指導後の実態～, 三育学院大学紀要, 16(1).

4. 学内外活動・社会活動 (賞など)

- 1) 廣瀬幸美 (2023). 東洋大学文学部教育学科非常勤講師, 選択科目「病弱児の病理と臨床」, 7回の講義: 4月11日, 4月18日, 4月25日, 5月9日, 5月16日, 5月23日, 5月30日
- 2) 廣瀬幸美 (2023). 日本乳幼児精神保健学会理事, 理事会: 第1回は7月9日, 第2回は11月3日に開催, いずれも Zoom Meeting
- 3) 廣瀬幸美 (2023). 日本看護研究学会査読委員, 投稿論文1編を査読: 1回目 7～8月, 2回目 10月 (取消により査読中止)
- 4) 廣瀬幸美 (2018～2022). 日本小児看護学会査読委員, 投稿論文1編を査読: 1回目 4～5月 (取消により査読中止)
- 5) 北田ひろ代, 近藤勇美, 清野星二 (2023). 東京三育小学校「いのちの授業」2年生 19名. 10月3日.
- 6) 北田ひろ代 (2023). 日本助産師会 東海北陸地区研修会シンポジウム「助産師とはなにをする人?」, 11月11日.
- 7) 北田ひろ代 (2023～2024). 双日国際事業「コロナ禍におけるモンゴルの助産師卒業教育『分娩期のケア』向上のための交流事業」, 7月2日, 7月30日, 9月3日, 2月18日.
- 8) 北田ひろ代 (2023～2024). 日本産前産後ケア・子育て支援学会 編集委員.
- 9) 近藤勇美 (2023). 広島三育学院高校 CMM クリスマス医療伝道授業「医療従事者の役割」, 7月12日.
- 10) 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 2020年度～2023年度「先天性心疾患児の養育ニーズに

応じた前向き子育てプログラムの開発とその評価」代表者:廣瀬幸美, 全体経費 4,290,000 円
(直接経費 3,300,000 円)・2023 年度経費
1,040,000 円 (直接経費 800,000 円)

11) 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 2019 年度
～2022 年度「周手術期の小児と家族に携わる
一般病棟看護師への複合的支援に関する基礎的
研究」分担者: 廣瀬幸美. 全体経費 4,290,000
円 (直接経費 3,300,000 円) . 2023 年度研究期
間延長のため、経費なし.

成人・老年看護学領域

1. 研究論文

なし

2. 学会発表

- 1) 上野雪絵 (2023). 評価の差異に生じる「違和感」から見えた看護教育上の課題, 第54回日本看護学会学術集会, 11月9日, パシフィコ横浜ノース (神奈川県).

3. その他 (書籍, 総説, 解説など)

なし

4. 学内外活動・社会活動 (賞など)

- 1) 平野美理香 (2022—2024). 東京都地域医療対策協議会専門委員, 8月30日, 3月8日.
- 2) 平野美理香 (2022—2024). 東京都看護人材確保対策会議委員, 6月26日, 8月22日, 3月18日.
- 3) 平野美理香 (2022—2024). 東京都ナースプラザ運営協議会委員, 3月1日.
- 4) 平野美理香 (2022—2024). 東京都看護師修学資金選考委員, 7月28日, 1月25日.
- 5) 平野美理香 (2022—2024). 河北医療財団倫理審査外部委員, 倫理委員会, 4月17日, 9月4日, 10月16日, 12月18日, 2月19日.
- 6) 平野美理香 (2023). 千葉県看護協会, 千葉県看護教育コース講師「ACPを学ぼう」を講義, 7月31日.
- 7) 平野美理香 (2023). 昭和大学看護管理セカンドレベル演習アドバイザー, 9月10日.
- 8) 平野美理香 (2023). セブンスデー・アドベンチスト首里教会講演会講師「幸せな人生を生きるための選択—アドバンス・ケア・プランニングとは」を講演, 12月10日.

- 9) 平野美理香 (2023). 沖縄三育中学校, 命の教育講義「いのちの大切さ」を講義, 12月11日.

- 10) 市川光代 (2023). 東京都同胞援護会昭島病院看護師を対象とした講話:「看護研究の基礎」, 6月2日, 6月9日.

- 11) 市川光代 (2023). 東京衛生アドベンチスト病院看護師を対象とした講話:「看護研究を始める前に」, 12月14日.

- 12) 市川光代 (2023). 東京都同胞援護会昭島病院内5部署の看護研究指導, 2023年7月～2024年1月まで対面とオンラインで全10回実施.

- (1) 回復期リハビリ病棟看護師がFIM評価を正確に行うための取り組み.

- (2) 術前オリエンテーションに対する患者の意識調査.

- (3) ベッドセンサーを解除するための取り組み: ADL評価表とカンファレンスボードを活用して.

- (4) 日常生活動作(ADL)の援助統一を目指して: ピクトグラムを使用した情報共有.

- (5) 大腸内視鏡検査を安全に実施するための外来看護師の取り組み.

- 13) 市川光代 (2023). 昭島病院看護部研究発表会で前述の5テーマについて講評担当, 2024年2月17日.

精神看護学領域

1. 研究論文

- 1) 岡本隆寛, 松本浩幸. (2023). 精神科デイケアを利用する統合失調症者のリカバリーに関する研究 (原著論文 査読あり). デイケア実践研究, 27(1), 3-12.

2. 学会発表

- 1) 松本浩幸, 岡本隆寛. 統合失調症を抱える人の就労先での人間関係に関する質的研究 (ポスター 査読あり) 日本リハビリテーション連携科学学会 第25回大会, WEB, 2024年3月2日(土).

3. その他 (書籍, 総説, 解説など)

なし

4. 学内外活動・社会活動 (賞など)

- 1) 松本浩幸 (2023年11月22日) 広島三育学院 「クリスチャン医療伝道クラス」講師.

地域看護学・公衆衛生看護学領域

1. 研究論文

- 1)朝見優子,矢郷哲志,岡光基子(2023).小児在宅療養における親とのパートナーシップに関する訪問看護師の実践：質的研究の文献検討,日本看護科学会誌,43,133-142.

2. 学会発表

なし

3. その他（書籍,総説,解説など）

- 1)鈴木美和（2023）.新設大学院看護学研究科における授業展開－オンラインビデオ通話を用いた修士論文指導を通して－,看護教育学研究,32(2),24-25.（日本看護教育学学会 第32回学術集会 シンポジスト, 査読無し）

4. 学内外活動・社会活動（賞など）

- 1)浦橋久美子（2023年6月）.神戸アドベンチスト病院 健康寿命アカデミー「健康なくらしは住環境から～生活をささえる住まいの工夫～」講師
- 2)浦橋久美子（2023年4月－2024年3月）.地域職域連携推進協議会委員. 夷隅健康福祉センター
- 3)浦橋久美子（2023年4月－2024年1月）. 特定健康診査受診勧奨チラシ作成. 夷隅健康福祉センター
- 4)浦橋久美子（2023年4月－2024年3月）.「御宿版多世代交流仕組みづくり事業」支援. 御宿町
- 5)浦橋久美子（2023,4月-2024,3月）保健師試験委員 公益財団法人日本人事試験研究センター
- 6)鈴木美和（2023,6月－2024,6月）.一般社団法人全国保健師教育機関協議会 副会長

- 7)鈴木美和（2023,4月－2023,9月）. 天使大学大学院 看護学研究科 非常勤講師（看護教育学特論Ⅰ）

- 8)鈴木美和（2023,8月）.一般社団法人全国保健師教育機関協議会 公衆衛生看護学教員ラダーⅠ研修 講師

- 9)鈴木美和（2024年3月22日）.一般社団法人全国保健師教育機関協議会 公衆衛生看護学教員ラダーⅠ研修 ファシリテーター

- 10)鈴木美和（2023年4月1日－2024年3月31日）. 令和5年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業に関する保険者ヒアリング評価委員（千葉県）

- 11)鈴木美和（2024年2月－10月）日本看護教育学学会第33回学術集会企画委員

- 12)佐藤壽子（2023年5月） 三育学院中等教育学校 1年生手洗い指導

- 13)手塚早苗(2023年4月－2024年1月).「御宿版多世代交流仕組みづくり事業」支援. 御宿町

- 14)手塚早苗（2023年,5月、11月） 三育学院中等教育学校. 1年生手洗い指導、4年生沐浴体験指導

- 15)手塚早苗（2023年11月）広島三育学院「クリスマスチャン医療伝道クラス」講師

- 16)手塚早苗（2023年11月）.東京三育小学校「喫煙防止教室」講師

- 17)手塚早苗（2023年12月）千葉県介護支援専門員更新（実務未経験者対象）・再研修「ケアマネジメントの展開 - 認知症に関する事例 - 」講師

- 18)手塚早苗（2023年5月－2024年3月）大原高校 居場所カフェ支援

- 19)朝見優子(2023年7月22日). わかば祭りボランティア参加. 杉並区立重症心身障害児通所施設わかば

資料

2020年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期必修	後期必修	前期必修	後期必修	前期必修	後期必修	前期必修	後期必修
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	講	2		◎							
	聖書Ⅰ	講	1			◎						
	聖書Ⅱ	講	1				◎					
	聖書Ⅲ	講	1						◎			
	聖書Ⅳ	講	1									◎
	キリストの生涯	講	2				○					
	キリスト教音楽Ⅰ	演	1		○							
	キリスト教音楽Ⅱ	演	1			○						
	パーソナル ミニストリー	講	1						○			
	ミニストリー オブ ヒーリング	講	2						○			
クリスチャンの奉仕	講	1									○	
人間の理解	発達心理学	講	1			◎						
	人間関係論	講	1			◎						
	哲学	講	2		○							
	心理学	講	2		○							
	スポーツ科学Ⅰ	演	1		○							
	スポーツ科学Ⅱ	講	1			○						
	教育学	講	2				○					
文化・社会の理解	社会学	講	2		○							
	歴史	講	2			○						
	美学	演	1			○						
	ボランティア活動論	講	1		○							
	日本国憲法	講	2						○			
	日本文化演習(茶道)	演	1				○					
情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎							
	論理的思考	演	1			◎						
	情報科学	演	1		◎							
	統計学	演	1			◎						
基礎科学	物理学	講	1		○							
	生物学	講	1		○							
	化学	講	1			○						
	生活環境論	講	1				○					
語学の修得	英会話Ⅰ(日常英会話)	演	1		◎							
	英会話Ⅱ(看護英会話)	演	1			◎						
	英語Ⅰ(読む)	演	1			◎						
	英語Ⅱ(書く)	演	1				◎					
	韓国語	演	1					○				
人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	講	2		◎							
	人体の形態と機能Ⅱ	講	2			◎						
	生化学	講	1		◎							
	微生物学	講	2			◎						
	栄養学	講	1			◎						
	疾病・治療学Ⅰ	講	1			◎						
	疾病・治療学Ⅱ	講	2				◎					
	疾病・治療学Ⅲ	講	2					◎				
薬理学	講	2				◎						
環境と健康	公衆衛生学	講	1			◎						
	健康教育論Ⅰ(理論)	講	1			◎						
	健康教育論Ⅱ(演習)	演	1				◎					
	保健統計演習	演	1	1				○				
	疫学	講	2						◎			
	保健医療福祉行政論	講	2						◎			
	保健医療社会学	講	1						◎			
	ファンリテーション	講	1		○							
基礎看護学	看護学概論	講	2		◎							
	三育の全人的看護と伝統	講	1			◎						
	看護技術の基礎	講	1		◎							
	生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎							
	生活行動援助論Ⅱ	演	1			◎						
	看護過程の基礎	演	1			◎						
	ヘルスアセスメント	演	1				◎					
	診療の援助技術論Ⅰ	演	1				◎					
	診療の援助技術論Ⅱ	演	1					◎				
	基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎							
	基礎看護学実習Ⅱ	実	2					◎				

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎							
	家族看護学	講	1					◎				
	在宅看護論Ⅰ(在宅療養者の生活と支援)	講	2					◎				
	在宅看護論Ⅱ(在宅療養者の支援の実際)	演	1						◎			
	産業保健	講	1						◎			
	学校保健	講		1						○		
	地域看護学実習	実	1		◎							
	在宅看護論実習	実	2							◎		
地域交流実習	実		1							○		
成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	講	1			◎						
	高齢者の特徴と生活と健康	講	1			◎						
	慢性期看護論	演	2				◎					
	急性期・周手術期看護論	講	2					◎				
	回復期(リハビリテーション)看護論	講	1					◎				
	緩和ケア・終末期看護論	講	1						◎			
	慢性期看護実習	実	2							◎		
	急性期看護実習	実	2							◎		
	回復期看護実習	実	2							◎		
	緩和ケア・終末期看護実習	実	2							◎		
	老人福祉施設実習	実	1							◎		
看護理論	講		1							○		
小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	講	1				◎					
	子どもの健康と看護	演	1					◎				
	健康問題をもつ子どもと看護	講	2						◎			
	小児看護学実習	実	2							◎		
女性看護学	女性の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2					◎				
	女性の健康問題と看護	演	1						◎			
	母性看護学実習	実	2							◎		
精神看護学	こころと健康	講	1				◎					
	こころの健康増進と看護	講	1					◎				
	こころを病む人と看護	講	2						◎			
	精神看護学実習	実	2							◎		
国際看護	国際看護論	講	1				◎					
	国際保健医療問題	講		1						○		
	国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)	実		2				○				
	国際看護実習Ⅱ(アジアの看護体験)	実		2					○			
看護の発展科目	医療安全管理学	講	1					◎				
	看護倫理	講	1					◎				
	看護展開演習Ⅰ	演	1					◎				
	看護展開演習Ⅱ	演	2						◎			
	スピリチュアルケア	講	2						◎			
	スピリチュアルケア実習	実	1							◎		
	看護研究の基礎	講	2						◎			
	看護専門職論	講	1									◎
	災害看護学	講	1								◎	
	卒業研究Ⅰ(研究計画)	演	2								◎	
	卒業研究Ⅱ(研究の実践)	演		2								○
	総合看護実習	実	2							◎		
	看護診断論	講		1						○		
	看護管理学	講		1							○	
	看護における補完療法	演		1								○
論文講読(看護)	講		1								○	
合計コマ数			114	46								

2020年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	講	2		◎								
	聖書Ⅰ	講	1			◎							
	聖書Ⅱ	講	1				◎						
	聖書Ⅲ	講	1						◎				
	聖書Ⅳ	講	1									◎	
	キリストの生涯	講	2				○						
	キリスト教音楽Ⅰ	演	1		○								
	キリスト教音楽Ⅱ	演	1				○						
	パーソナル ミニストリー	講	1					○					
	ミニストリー オブ ヒーリング	講	2					○					
クリスチャンの奉仕	講	1									○		
人間の理解	発達心理学	講	1			◎							
	人間関係論	講	1			◎							
	哲学	講	2		○								
	心理学	講	2		○								
	スポーツ科学Ⅰ	演	1		○								
	スポーツ科学Ⅱ	講	1				○						
	教育学	講	2					○					
文化・社会の理解	社会学	講	2		○								
	歴史	講	2			○							
	美学	演	1			○							
	ボランティア活動論	講	1		○								
	日本国憲法	講	2					○					
	日本文化演習(茶道)	演	1				○						
情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎								
	論理的思考	演	1			◎							
	情報科学	演	1		◎								
	統計学	演	1			◎							
基礎科学	物理学	講	1		○								
	生物学	講	1		○								
	化学	講	1			○							
	生活環境論	講	1				○						
語学の修得	英会話Ⅰ(日常英会話)	演	1		◎								
	英会話Ⅱ(看護英会話)	演	1			◎							
	英語Ⅰ(読む)	演	1			◎							
	英語Ⅱ(書く)	演	1				◎						
	韓国語	演	1					○					
人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	講	2		◎								
	人体の形態と機能Ⅱ	講	2			◎							
	生化学	講	1		◎								
	微生物学	講	2			◎							
	栄養学	講	1			◎							
	疾病・治療学Ⅰ	講	1			◎							
	疾病・治療学Ⅱ	講	2				◎						
	疾病・治療学Ⅲ	講	2					◎					
	薬理学	講	2				◎						
	環境と健康	公衆衛生学	講	1			◎						
		健康教育論Ⅰ(理論)	講	1			◎						
		健康教育論Ⅱ(演習)	演	1				◎					
		保健統計演習	演	1				◎					
		疫学	講	2						◎			
保健医療福祉行政論		講	2						◎				
保健医療社会学		講	1						◎				
ファンリテーション	講	1		○									
基礎看護学	看護学概論	講	2		◎								
	三育の全人的看護と伝統	講	1			◎							
	看護技術の基礎	講	1		◎								
	生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎								
	生活行動援助論Ⅱ	演	1			◎							
	看護過程の基礎	演	1			◎							
	ヘルスアセスメント	演	1				◎						
	診療の援助技術論Ⅰ	演	1				◎						
	診療の援助技術論Ⅱ	演	1					◎					
	基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎								
	基礎看護学実習Ⅱ	実	2					◎					

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎							
	家族看護学	講	1				◎					
	在宅看護論Ⅰ(在宅療養者の生活と支援)	講	2				◎					
	在宅看護論Ⅱ(在宅療養者の支援の実際)	演	1						◎			
	産業保健	講	1						◎			
	学校保健	講	1						◎			
	地域看護学実習	実	1		◎							
	在宅看護論実習	実	2							◎		
	地域交流実習	実		1								○
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	講	2						◎		
対象別支援技術論		演	2						◎			
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ(理論)		講	1						◎			
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ(演習)		演	1								◎	
地域ケアシステム論		講	1								◎	
組織協働活動論		講	1								◎	
健康危機管理論		講	1								◎	
公衆衛生看護管理論		講	1									◎
公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村)		実	3								◎	
公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所)		実	1								◎	
公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	実	1								◎		
成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	講	1			◎						
	高齢者の特徴と生活と健康	講	1			◎						
	慢性期看護論	演	2				◎					
	急性期・周手術期看護論	講	2					◎				
	回復期(リハビリテーション)看護論	講	1					◎				
	緩和ケア・終末期看護論	講	1						◎			
	慢性期看護実習	実	2							◎		
	急性期看護実習	実	2							◎		
	回復期看護実習	実	2							◎		
	緩和ケア・終末期看護実習	実	2							◎		
	老人福祉施設実習	実	1							◎		
	看護理論	講		1								○
小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	講	1				◎					
	子どもの健康と看護	演	1					◎				
	健康問題をもつ子どもと看護	講	2						◎			
	小児看護学実習	実	2							◎		
女性看護学	女性の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2					◎				
	女性の健康問題と看護	演	1						◎			
	母性看護学実習	実	2							◎		
精神看護学	こころと健康	講	1				◎					
	こころの健康増進と看護	講	1					◎				
	こころを病む人と看護	講	2						◎			
	精神看護学実習	実	2							◎		
国際看護	国際看護論	講	1				◎					
	国際保健医療問題	講		1						○		
	国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)	実		2			○					
	国際看護実習Ⅱ(アジアの看護体験)	実		2						○		
看護の発展科目	医療安全管理学	講	1					◎				
	看護倫理	講	1					◎				
	看護展開演習Ⅰ	演	1					◎				
	看護展開演習Ⅱ	演	2						◎			
	スピリチュアルケア	講	2						◎			
	スピリチュアルケア実習	実	1							◎		
	看護研究の基礎	講	2						◎			
	看護専門職論	講	1								◎	
	災害看護学	講	1								◎	
	卒業研究Ⅰ(研究計画)	演	2								◎	
	卒業研究Ⅱ(研究の実践)	演		2								○
	総合看護実習	実	2								◎	
	看護診断論	講		1						○		
	看護管理学	講		1							○	
	看護における補完療法	演		1								○
論文講読(看護)	講		1								○	
合計コマ数			131	44								

2017年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		必修	選択								
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4			◎						
	ミストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリーⅠ	1			◎						
	アセンブリーⅡ	1				◎					
	アセンブリーⅢ	1						◎			
	アセンブリーⅣ	1									◎
	キリスト教倫理		2			○					
	キリスト教音楽		1		○						
	SDA教会史		2								○
	パーソナル ミストリー		2								○
	クリスチャン サービス		2								○
	現代とキリスト教		2					○			
	人間の理解	哲学		2		○					
心理学			2		○						
人間関係論		2			◎						
教育学			2		○						
スポーツ科学			2		○						
文化・社会の理解	社会学		2		○						
	文化人類学		2				○				
	歴史		2			○					
	経済学		2		○						
	異文化演習		1				○				
	美学		1			○					
	日本国憲法		2				○				
	ボランティア活動論		1		○						
情報科学	情報科学		2		○						
	統計学		2			○					
	論理的思考	2				◎					
	基礎学習セミナー	1			◎						
自然の理解	物理学		2			○					
	生物学		2		○						
	化学		2		○						
	生活環境論		1		○						
語学の修得	英語Ⅰ（読む）	1			◎						
	英語Ⅱ（書く）	1				◎					
	英語Ⅲ（論文講読）		1								○
	英会話Ⅰ（日常英会話）	2			◎						
	英会話Ⅱ（看護英会話）	2				◎					
	英会話Ⅲ（海外研修）		1				○				
	韓国語		1		○						

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
		必修	選択									
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			◎						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		◎							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			◎						
		生化学	2		◎							
		栄養学	1			◎						
		疫学	2						◎			
		保健統計演習	2				◎					
		公衆衛生学	2			◎						
		疾病・治療学Ⅰ	1			◎						
		疾病・治療学Ⅱ	2				◎					
		疾病治療学特論	1						◎			
		薬理学	2				◎					
		環境と健康	微生物学	2			◎					
	保健医療福祉論		2				◎					
保健医療福祉行政論	3							◎				
保健医療社会学	1							◎				
専門基礎教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		◎							
		看護倫理	1			◎						
		看護技術概論	1		◎							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			◎						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2				◎					
		看護技術各論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1				◎					
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1				◎					
		看護研究の基礎	2					◎				
		健康教育論	1					◎				
		基礎看護学実習Ⅰ	1		◎							
		基礎看護学実習Ⅱ	2					◎				
		地域看護学	地域看護学概論	2			◎					
			地域看護学方法論	1				◎				
	家族看護学		1				◎					
	在宅看護論		2					◎				
	地域看護学実習		1		◎							
	在宅看護論実習		2							◎		
	成人看護学		成人看護学概論	1			◎					
		成人看護学方法論Ⅰ（急性期看護）	2					◎				
		成人看護学方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2				◎					
成人看護学方法論Ⅲ（終末期看護）		1						◎				
成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）		3							◎			
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）		3							◎			
老年看護学	老年看護学概論	1				◎						
	老年看護学方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					◎					
	老年看護学方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						◎				
	老年看護学実習	3							◎			

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門教育科目	小児看護学概論	1				◎					
	小児看護学方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					◎				
	小児看護学方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						◎			
	小児看護学実習	2							◎		
	母性看護学概論	1				◎					
	母性看護学方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					◎				
	母性看護学方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						◎			
	母性看護学実習	2							◎		
	精神看護学概論	1				◎					
	精神看護学方法論Ⅰ（精神保健）	1					◎				
	精神看護学方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						◎			
	精神看護学実習	2							◎		
	国際看護論		2						○		
	国際保健医療問題		1						○		
	国際看護実習		2						○		
	医療安全管理学	1					◎				
	看護管理学		1							○	
	スピリチュアルケア	2						◎			
	看護における補完療法		1								○
	看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○	
災害看護学		1								○	
看護教育学		1								○	
卒業研究	4									◎	
総合看護実習	2									◎	
合計		119	58								
卒業要件		131単位以上									

2017年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後
				期	期	期	期	期	期	期	期
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4		◎							
	ミストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリーⅠ	1		◎							
	アセンブリーⅡ	1				◎					
	アセンブリーⅢ	1						◎			
	アセンブリーⅣ	1								◎	
	キリスト教倫理		2			○					
	キリスト教音楽		1	○							
	SDA教会史		2								○
	パーソナル ミストリー		2								○
	クリスチャン サービス		2								○
	現代とキリスト教		2						○		
	人間の理解	哲学		2	○						
心理学			2	○							
人間関係論		2		◎							
教育学			2	○							
スポーツ科学			2	○							
文化・社会の理解	社会学		2	○							
	文化人類学		2				○				
	歴史		2		○						
	経済学		2	○							
	異文化演習		1			○					
	美学		1		○						
	日本国憲法		2				○				
	ボランティア活動論		1	○							
情報科学	情報科学		2	○							
	統計学		2		○						
	論理的思考	2			◎						
	基礎学習セミナー	1		◎							
自然の理解	物理学		2		○						
	生物学		2	○							
	化学		2	○							
	生活環境論		1	○							
語学の修得	英語Ⅰ（読む）	1			◎						
	英語Ⅱ（書く）	1				◎					
	英語Ⅲ（論文講読）		1								○
	英会話Ⅰ（日常英会話）	2		◎							
	英会話Ⅱ（看護英会話）	2			◎						
	英会話Ⅲ（海外研修）		1			○					
	韓国語		1	○							

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			◎						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		◎							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			◎						
		生化学	2		◎							
		栄養学	1			◎						
		疫学	2						◎			
		保健統計演習	2				◎					
		公衆衛生学	2			◎						
		疾病・治療学Ⅰ	1			◎						
		疾病・治療学Ⅱ	2				◎					
		疾病治療学特論	1						◎			
	薬理学	2					◎					
	環境と健康	微生物学	2			◎						
		保健医療福祉論	2					◎				
保健医療福祉行政論		3						◎				
保健医療社会学		1						◎				
専門基礎看護学	看護学概論	2		◎								
	看護倫理	1			◎							
	看護技術概論	1		◎								
	看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			◎							
	看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2					◎					
	看護技術各論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1					◎					
	看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1					◎					
	看護研究の基礎	2						◎				
	健康教育論	1						◎				
	基礎看護学実習Ⅰ	1		◎								
	基礎看護学実習Ⅱ	2						◎				
	地域看護学	地域看護学概論	2			◎						
		地域看護方法論	1					◎				
		家族看護学	1					◎				
在宅看護論		2						◎				
地域看護学実習		1		◎								
在宅看護論実習		2								◎		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2							◎			
	公衆衛生看護活動展開論	2							◎			
	対象別支援技術論	2							◎			
	地域ケアシステム論	2								◎		
	公衆衛生看護管理論	2								◎		
	産業保健	1							◎			
	学校保健	1							◎			
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	3								◎		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	1								◎		
	公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）	1								◎		
成人看護学	成人看護学概論	1			◎							
	成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2						◎				
	成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2					◎					
	成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1							◎			
	成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3								◎		
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3								◎		

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	老年看護学	1				◎						
	老年看護学	1				◎						
	老年看護学	2						◎				
	老年看護学	3							◎			
	小児看護学	1				◎						
	小児看護学	1					◎					
	小児看護学	2						◎				
	小児看護学	2							◎			
	母性看護学	1				◎						
	母性看護学	2					◎					
	母性看護学	1						◎				
	母性看護学	2							◎			
	精神看護学	1				◎						
	精神看護学	1					◎					
	精神看護学	2						◎				
	精神看護学	2							◎			
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
	看護の発展科目	国際保健医療問題		1					○			
	看護の発展科目	国際看護実習		2					○			
	看護の発展科目	医療安全管理学	1					◎				
	看護の発展科目	看護管理学		1							○	
	看護の発展科目	スピリチュアルケア	2						◎			
	看護の発展科目	看護における補完療法		1								○
	看護の発展科目	看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○	
	看護の発展科目	災害看護学		1								○
	看護の発展科目	看護教育学		1								○
看護の発展科目	卒業研究	4									◎	
看護の発展科目	総合看護実習	2									◎	
合 計		136	58									
保健師国家試験受験資格必要単位数		143単位以上										

2023年度 開講科目一覧(1年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考
					単位数			
					前期	後期		
教養科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論 A	2	必	} 2		山地 悟	
		キリスト教概論 B	2	必			長谷川 徹	
		聖書 I	1	必		1	小林 勝	
		キリストの生涯	2	選		2	近藤 光顕	
		キリスト教音楽 I (カレッジ共通科目)	1	選	1		譜久島 肇	
		キリスト教音楽 II (カレッジ共通科目)	1	選		1	譜久島 肇	
	人間の理解	発達心理学	1	必		1	松崎 敦子	
		人間関係論 (カレッジ共通科目)	1	必		1	高井良 しずか	
		哲学	2	選	2		梅田 與四男	
		心理学	2	選	2		田 淵 裕	
		スポーツ科学 I	1	選	1		玉那覇 直大	
		スポーツ科学 II	1	選		1	森 実由樹	
	文化・社会の理解	社会学 (カレッジ共通科目)	2	選	2		篠原 清夫	
		歴史 (カレッジ共通科目)	2	選		2	村上 良夫	
		美学 (カレッジ共通科目)	1	選		1	中島 健三	
		ボランティア活動論 (カレッジ共通科目)	1	選	1		橋本 笙子	
	情報科学	基礎学習セミナー	1	必	1		新妻 規恵他	
		論理的思考 (カレッジ共通科目)	1	必		1	田 淵 裕	
		情報科学	1	必	1		篠原 清夫	
		統計学	1	必		1	篠原 清夫	
	基礎科学	物理学	1	選	1		尾上 富佐子	
		生物学	1	選	1		山本 理	
		化学	1	選		1	尾上 富佐子	
	語学の修得	英会話 I (日常英会話)	1	必	1		サムエル コランテン	
		英会話 II (看護英会話)	1	必		1	サムエル コランテン	
		英語 I (読む)	1	必		1	新妻 規恵	

	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考
					単位数			
					前期	後期		
専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	2	必	2		山本理	
		人体の形態と機能Ⅱ	2	必		2	山本理	
		生化学	1	必	1		山本理	
		微生物学	2	必		2	山本理	
		栄養学	1	必		1	仲本桂子	
		疾病・治療学Ⅰ	1	必		1	塚本利朗	
	環境と健康	公衆衛生学	1	必		1	渡邊いよ子	
		健康教育論Ⅰ(理論)	1	必		1	佐藤壽子 浦橋久美子	
ファシリテーション		1	選	1		田淵裕 田淵蒨		
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2	必	2		後藤佳子 村上寛	
		三育の全人的看護と伝統	1	必		1	後藤佳子 平野美理 石川雄二 近藤光	
		看護技術の基礎	1	必	1		後藤佳子 遠田きよみ 玉那覇文美	
		生活行動援助論Ⅰ	1	必	1		遠田きよみ 玉那覇文美 安ヶ平伸枝	
		生活行動援助論Ⅱ	1	必		1	玉那覇文美 遠田きよみ 安ヶ平伸枝	
		看護過程の基礎	1	必		1	遠田きよみ 玉那覇文美 安ヶ平伸枝	
		基礎看護学実習Ⅰ	1	必	1		後藤佳子他	
	地域看護学	地域看護学概論	2	必	2		浦橋久美子	
		地域看護学実習	1	必	1		浦橋久美子 他	
		地域交流実習	1	選		1	浦橋久美子 手塚早苗 佐藤壽子	
	成人・老年看護	成人の特徴と生活と健康	1	必		1	今野玲子 近藤かおり	
		高齢者の特徴と生活と健康	1	必		1	市川光代	

2023年度 開講科目一覧 (2年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数		教員名	備考
					前期	後期		
教養 教育 科目	アドベンチストの 信仰と生活	聖書Ⅱ	1	必	1		杉正純	
		パーソナルミニストリー	1	選		1	杉正純	
		ミニストリーオブヒーリング	2	選		2	宮崎恭一	
	人間の理解	教育学	2	選	2		森祐二	
	文化・社会の理解	日本国憲法	2	選		2	望月穂貴	
		日本文化演習(茶道)	1	選	1		竹上三恵	
	基礎科学	生活環境論	1	選	1		竹上嘉征	
	語学の修得	英語Ⅱ(書く)	1	必	1		新妻規恵	
韓国語		1	選	1		長谷川うね		
専門基礎 教育科目	人間と健康	疾病・治療学Ⅱ	2	必	2		塚本利朗 小川里佳	
		疾病・治療学Ⅲ	2	必		2	東京衛生アドベンチ スト病院 医師15名	
		薬理学	2	必	2		佐藤信範 刈込博	
	環境と健康	健康教育論Ⅱ(演習)	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗子 佐藤壽子	
		保健統計演習	1	選	1		篠原清夫	保健師課程 :必修
専門 教育学	基礎看護学	ヘルスアセスメント	1	必	1		遠田きよみ 玉那覇文美 安ヶ平伸枝	
		診療の援助技術論Ⅰ	1	必	1		山口道子 後藤佳子 柏木良幸	
		診療の援助技術論Ⅱ	1	必		1	山口道子 後藤佳子 柏木良幸	
		基礎看護学実習Ⅱ	2	必		2	山口道子他	
	地域看護学	家族看護学	1	必		1	鈴木美和	
		在宅看護論Ⅰ (在宅療養者の生活と支援)	2	必		2	鈴木美和 夏目昌信	

分野	区分	科目名	規定 単位	必修・ 選択	本年度開講科目 単位数		教員名	備 考
					前期	後期		
専 門 教 育 学	成人・老年 看護学	慢性期看護論	2	必	2		今野 玲子 近藤 かおり 市川 光代	
		急性期・周手術期 看護	2	必		2	近藤 かおり 今野 玲子	
		回復期(リハビリテーション) 看護論	1	必		1	市川 光代	
		看護理論	1	選		1	今野 玲子 近藤 かおり	
	小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	1	必	1		松崎 敦子	
		子どもの健康と看護	1	必		1	松崎 敦子 清野 星二	
	女性看護学	女性の特徴と生活と健康	1	必	1		北田 ひろ代	
		リプロダクティブ・ヘルスと看護	2	必		2	北田 ひろ代	
	精神看護学	こころと健康	1	必	1		松本 浩幸	
		こころの健康増進と看護	1	必		1	松本 浩幸	
	国際看護	国際看護論	1	必	1		土谷 ちひろ	
		国際看護実習Ⅰ (欧米の看護体験)	2	選	2		近藤 かおり 玉那覇 文美 新妻 規恵	
	看護の発展科目	医療安全管理学	1	必		1	村上 寛子 水溜 和里 佐藤 里砂	
		看護倫理	1	必		1	平野 美理香 永田 英子	
		看護展開演習Ⅰ	1	必		1	今野 玲子 近藤 かおり	

2023年度 開講科目一覧(3年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目単位数		教員名	備考
					前期	後期		
					育教 科目教	アドベンチストの 信仰と生活		
専門基礎 教育科目	環境と健康	疫学	2	必	2		渡邊 いよ子 仲本 桂子	
		保健医療福祉行政論	2	必	2		渡邊 いよ子	
		保健医療社会学	1	必	1		篠原 清夫	
専門教育 科目	地域看護学	在宅看護論Ⅱ (在宅療養者の支援の 実際)	1	必	1		鈴木 美和	
		産業保健	1	必	1		中野 愛子	
		学校保健	1	選	1		坪井 美智子	保健師課程 :必修
		在宅看護論実習	2	必		2	鈴木 美和 他	
	成人・老年 看護学	緩和ケア・終末期看護論	1	必	1		足立 光生	
		慢性期看護実習	2	必		2	今野 玲子 近藤 かおり	
		急性期看護実習	2	必		2	今野 玲子 近藤 かおり 上野 雪絵	
		回復期看護実習	2	必		2	今野 玲子	
		緩和ケア・終末期 看護実習	2	必		2	今野 玲子 他	
		老人福祉施設実習	1	必		1	市川 光代 他	
	小児看護学	健康問題をもつ子どもと 看護	2	必	2		松崎 敦子 清野 星二	
		小児看護学実習	2	必		2	廣瀬 幸美 清野 星二	
	女性看護学	女性の健康問題と看護	1	必	1		北田 ひろ代 近藤 勇美	
		母性看護学実習	2	必		2	北田 ひろ代 近藤 勇美 廣瀬 幸美	

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考
					単位数			
					前期	後期		
専門教育科目	精神看護学	こころを病む人と看護	2	必	2		松本浩幸	
		精神看護学実習	2	必		2	松本浩幸 須藤りつ	
	国際看護	国際保健医療問題	1	選	1		土谷ちひろ	
		国際看護実習Ⅱ (アジアの看護体験)	2	選	2		橋本笙子	
	看護の発展科目	看護展開演習Ⅱ	2	必	2		今野玲子 市川光代 近藤かお	
		スピリチュアルケア	2	必	2		山口道英 永田子	
		スピリチュアルケア実習	1	必		1	山口道子	
		看護研究の基礎	2	必	2		廣瀬幸美 北田ひろ	
		看護診断論	1	選	1		後藤佳子	

〈保健師課程カリキュラム選択者〉

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考
					単位数			
					前期	後期		
専門教育科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2	必	2		浦橋久美子	
		対象別支援技術論	2	必	2		鈴木美和 松本浩幸	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ (理論)	1	必	1		佐藤壽子 手塚早苗	

2023年度 開講科目一覧(4年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教員名	備考
					単位数				
					前期	後期	通年		
教養教育 科目	アドベンチ ストの 信仰と生活	聖書 IV	1	必		1		杉 正 純	
		クリスチャンの奉仕	1	選	1			杉 正 純	
専門教育科目	看護の発展 科目	看護専門職論	1	必		1		鈴木 純 恵	
		災害看護学	1	必	1			齋 藤 正 子	
		看護管理学	1	選	1			村 上 寛 平野 美 理 澤 間 泰 子	
		看護における補完療法	1	選		1		ドナルド ミラー	
		論文購読(看護)	1	選		1		村 上 寛	
		卒業研究Ⅰ(研究計画)	2	必	2			学 部 教 員	保健師課程： 後期
		卒業研究Ⅱ (研究の実践)	2	選		2		学 部 教 員	
		総合看護実習	2	必	2			今 野 玲 子	

《保健師課程カリキュラム選択者》

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教員名	備考
					単位数				
					前期	後期	通年		
専門教育科目	公衆衛生学 看護	地域ケアシステム論	1	必	1			浦 橋 久 美 子	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ (演習)	1	必	1			佐 藤 壽 子 手塚 早 苗 浦 橋 久 美 子	
		組織協働活動論	1	必	1			浦 橋 久 美 子	
		健康危機管理論	1	必	1			佐 藤 壽 子	
		公衆衛生看護管理論	1	必		1		佐 藤 壽 子	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (市町村)	3	必	3			浦 橋 久 美 子 手塚 早 苗	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (保健所)	1	必	1			浦 橋 久 美 子 手塚 早 苗	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ (産業保健)	1	必	1			浦 橋 久 美 子 手塚 早 苗	

2023年度 大学院看護学研究科看護学専攻修士課程カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年		2年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学Ⅰ（全人的人間観の探求）	2		◎			
	キリスト教人間学Ⅱ（全人的看護の探求）	2			◎		
	保健医療福祉連携特論	2			◎		
	看護研究方法論Ⅰ（総論）	2		◎			
	看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			◎		
	看護理論		2	○			
	看護管理学		2		○		
	実験的行動分析学特論		2		○		
専門科目	実践看護学分野	スピリチュアルケア特論		2	○		
		看護教育学特論		2	○		
		看護技術特論		2	○		
		成育看護学特論		2	○		
		成人看護学特論		2	○		
		高齢者看護学特論		2	○		
		地域看護学特論		2	○		
		実践看護学演習Ⅰ（事例分析）		2	○		
		実践看護学演習Ⅱ（文献講読）		4		○	
研究目	特別研究Ⅰ	4			○		
	特別研究Ⅱ	4					○
合計		18	26				

◎：必修共通科目

専門領域別 研究指導教授・研究テーマ 一覧

専門領域・科目	研究指導教授	研究テーマ
看護教育学	鈴木美和	1.訪問看護師の看護実践上直面する問題自己診断ツールの開発 2.新人期保健師の保健活動に関する研究 3.臨地実習ループリックの学生および教員への効果に関する研究 4.看護師が知覚する魅力的な教育プログラムに関する研究
看護技術学	後藤佳子	1.看護技術を学ぶ学生の学習支援に関する研究 2.看護技術に関する質的研究 3.臨床における看護技術の実践に関する研究
成育看護学	廣瀬幸美	1.先天性障害のある子どもの発達支援や家族支援に関する研究 2.妊娠期からの切れ目のない子育て支援に関する研究 3.慢性疾患のある子どものセルフケア獲得のケアプログラム開発に関する研究 4.母子保健対象者の健康課題・健康増進のための支援方法に関する研究
高齢者看護学	平野 美理香	1.高齢者施設における看取りケアに関する研究 2.高齢者施設における意思決定支援に関する研究 3.アドバンス・ケア・プランニングの取り組みに関する研究
	市川光代	1.高齢者が老人ホームに適応していくプロセスを質的に分析していく研究 2.高齢者の生きがい支援に関する研究 3.高齢者看護学を実習していく学生の学びのプロセスに関する研究
地域看護学	齋藤泰子	1.地域で生活する人々の健康に関する研究 2.地域で生活する人々の社会的孤立と健康に関する研究 3.地域包括ケアシステムや在宅移行支援における看護職の役割に関する研究 4.子ども虐待予防や産後ケアに関する研究
キリスト教人間学	東出克己	1.看護と人間観の関係をめぐる研究 2.スピリチュアルケアにおける人間理解の意義と課題に関する研究 3.スピリチュアルケアにおけるキリスト教人間観の意義と課題に関する研究
保健医療社会学	篠原清夫	1.医療系専門職者（看護師・助産師・養護教諭）の職業的社会的化に関する研究 2.保健医療福祉関連データの信頼性に関する社会調査論的研究 3.社会的弱者の排除に関する福祉社会学的研究 4.保健医療福祉従事者に対する社会学教育の教材開発に関する研究

あとがき

2020年度スタートの新カリキュラムにより4年間学んだ学生が、2024年3月に卒業いたしました。COVID-19の感染拡大によりオンライン授業が続き、クラスメイトとの交流がなかなか実現できない13期生でしたが、学習環境を整え、卒業まで支援を行うことができました。今後、この新カリキュラムの評価を客観的に行い、学士教育および看護専門職の養成教育として適正であるのか、そして、三育学院大学の理念を反映した教育が実現しているのか、課題を見出し改善に取り組んでいく必要があります。

2023年の出生数は過去最少の75万8631人（厚生労働省速報：2024年2月）である一方、総人口に占める高齢者人口の割合は29.1%と過去最高（総務省：2023年9月）となり、今後ますます看護の需要が高まる反面、人材確保が困難となることが予想されています。このような中、看護系大学の果たす役割は大きく、三育学院大学としても看護師、保健師となる卒業生を数多く輩出していく責務を担っています。2023年度の学生募集活動は、年度当初から高校訪問に力を入れ、進めてきましたが、十分な成果が得られない結果となりました。2024年度は、教職員一人ひとりが知恵を出し合い、一丸となって戦略的、計画的に学生募集活動を推進し、成果を上げて次なる2025年度を迎えたいと思います。

三育学院大学大学院看護学研究科においては、修士課程の修了生を輩出し、2024年度の入学生も得ることができました。保健医療機関に就業する看護職者の学習や研究へのニーズの高さを感じるとともに、生涯学習が必要とされている時代に大学院看護学研究科の果たすべき役割は大きく、今後も自己点検評価を進め、教育内容の充実を図っていくことが重要です。

また、教職員の委員会活動、教育活動、研究・社会活動を充実させ、知名度を高めていくことも三育学院大学、大学院看護学研究科の重要な課題です。

最後になりましたが、ご多忙の中、原稿の作成に多大なご協力を頂きました教職員のみなさまに心より感謝申し上げます。

研究推進委員会

委員長 廣瀬 幸美
篠原 清夫
鈴木 美和
北田ひろ代
新妻 規恵
中村 信一
平澤久美子

三育学院大学年報 2023 年度

2024 年 6 月 1 日発行

編 集 三育学院大学研究推進委員会

発 行 所 三育学院大学

〒298-0297

千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500 TEL0470-84-0111 (代表)

Edited, published, and distributed, by Saniku Gakuin College,
1500 Kugahara, Otaki-machi, Chiba-ken, 298-0297 Japan
